資 料

新高等学校学習指導要領の実施に向けて

－新学習指導要領実施に向けた先進事例集－

令和元年 10月

全国商業高等学校長協会

目　　次

Ⅰ　はじめに 1

Ⅱ　新学習指導要領実施に向けた先進事例（学校名【科目名】）..... 3

1　基礎的科目

宮城県大河原商業高等学校【ビジネス基礎】..... 3
茨城県立那珂湊高等学校【ビジネス基礎】..... 4
太田市立太田高等学校【ビジネス基礎】..... 5
新潟県立新潟商業高等学校【ビジネス基礎】..... 6
鳥取県立鳥取商業高等学校【ビジネス基礎】..... 7
広島市立広島商業高等学校【ビジネス基礎】..... 8
福岡県立田川科学技術高等学校【ビジネス基礎】..... 9
熊本県立八代東高等学校【ビジネス基礎】【マーケティング】【ビジネス実務】..... 10

2　マーケティング分野

東京都立葛飾商業高等学校【マーケティング】..... 11
静岡県立島田商業高等学校【マーケティング】..... 12
鳥取県立鳥取商業高等学校【マーケティング】..... 13
愛媛県立宇和島東高等学校【マーケティング】..... 14
宮崎県立都城商業高等学校【マーケティング】..... 15
宮崎県立宮崎商業高等学校【マーケティング】【ビジネス経済応用】..... 16
鹿児島県立南大隅高等学校【マーケティング】..... 17
愛知県立岡崎商業高等学校【商品開発】..... 18
滋賀県立八幡商業高等学校【商品開発】..... 19
岡山県立岡山東商業高等学校【商品開発】..... 20
長崎県立佐世保商業高等学校【商品開発】..... 21
兵庫県立神戸商業高等学校【商品開発Ⅱ】..... 22
京都府立京都すばる高等学校【広告と販売促進】..... 23
石川県立金沢商業高等学校【観光実務Ⅱ】..... 24
福井県立奥越明成高等学校【観光】..... 25
徳島県立徳島商業高等学校【観光ビジネス】..... 26
福岡県立折尾高等学校【広告と販売促進】..... 27
沖縄県立名護商工高等学校【広告と販売促進】..... 28
兵庫県立神戸商業高等学校【貿易実務アドバンスド】..... 29
香川県立三木高等学校【流通実践】..... 30

3　マネジメント分野

山口県立柳井商工高等学校【ビジネス経済】..... 31

高知商業高等学校【ビジネス経済】 32
高知商業高等学校【ビジネス経済】 33
三重県立四日市商業高等学校【ビジネスマネジメント】 34
大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校【ビジネスマネジメントⅠ】 35
京都府立京都すばる高等学校【グローバルビジネス】 36
青森県立八戸商業高等学校【経済活動と法】 37
埼玉県立吉川美南高等学校【経済活動と法】 38
愛媛県立大洲高等学校【経済活動と法】 39
4　会計分野
秋田市立秋田商業高等学校【簿記】 40
福島県立福島商業高等学校【簿記】 41
茨城県立水戸商業高等学校【簿記】 42
千葉県立千葉商業高等学校【簿記】 43
北海道札幌東商業高等学校【財務会計Ⅰ】 44
岩手県立水沢商業高等学校【財務会計Ⅰ】 45
岩手県立宮古商業高等学校【財務会計Ⅰ】 46
滋賀県立八幡商業高等学校【財務会計Ⅱ】 47
岩手県立盛岡商業高等学校【原価計算】 48
山形市立商業高等学校【原価計算】 49
福岡県立小倉商業高等学校【原価計算】 50
大分県立大分商業高等学校【管理会計】 51
5　ビジネス情報分野
北海道苫小牧総合経済高等学校【情報処理】 52
仙台市立仙台商業高等学校【情報処理】 53
栃木県立足利清風高等学校【情報処理】 54
福岡県立行橋高等学校【情報処理】 55
奈良県立奈良朱雀高等学校【電子商取引】【コミュニケーション表現】 56
滋賀県立大津商業高等学校【電子商取引】 57
和歌山県立和歌山商業高等学校【電子商取引】 58
千葉県立千葉商業高等学校【プログラミング】 59
秋田県立湯沢翔北高等学校【ビジネス情報管理】 60
6　総合的分野・その他
甲府市立甲府商業高等学校【課題研究】 61
横浜市立横浜商業高等学校【課題研究】 62
長野県飯田ＯＩＤＥ長姫高等学校【地域人教育】【課題研究】 63
静岡県立沼津商業高等学校【課題研究】 64
富山県立富山商業高等学校【課題研究】 65
岐阜県立岐阜商業高等学校【課題研究】 66

滋賀県立大津商業高等学校【課題研究】 67
福岡県立宇美商業高等学校【課題研究】 68
宮崎県立都城商業高等学校【課題研究】 69
鹿児島商業高等学校【課題研究】 70
佐賀県立佐賀商業高等学校【総合実践】 71
沖縄県立具志川商業高等学校【総合実践】 72
利根沼田学校組合立利根商業高等学校【ビジネス実務】 73
東京都立芝商業高等学校【ビジネスアイデア】 74
長野県長野商業高等学校【長商デパート】 75
滋賀県立八幡商業高等学校【近江商人探究Ⅰ】 76
滋賀県立八幡商業高等学校【地域と近江商人】 77
島根県立情報科学高等学校【キャリア基礎】【課題研究】 78

Ⅲ　先進事例の授業で実施している学習活動例の一覧 79

Ⅳ　おわりに 80

本部提案テーマ年度別一覧 81

Ⅰ　はじめに

新高等学校学習指導要領（以下、「新学習指導要領」という）が平成 30 年 3 月 30 日に告示されました。その内容については、平成 31 年度より移行措置として総則や各教科等の一部が実施され、令和 4(2022) 年度以降の入学生からは年次進行により段階的に適用されます。学習評価については、平成 31 年 3 月 29 日に「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」が文部科学省から示されました。新学習指導要領では、各教科等の目標や内容が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力で再整理され、観点別学習状況の評価の観点についても、これらの資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 観点となります。そして、指導要録の「各教科・科目等の学習の記録」に、それぞれの観点ごとに、「十分満足できる」状況と判断されるものをＡ、「おおむね満足できる」状況と判断されるものをＢ、「努力を要する」状況と判断されるものをＣのように区別して評価し記入することになります。今後より一層、観点別学習状況評価を充実させ、生徒たちの学習の成果を的確に捉え、教員が指導の改善を図るとともに、学習評価に関わる取組をカリキュラム・マネジメントに位置付け、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくことが求められます。

このように教育が大きく変化する時期に、全国商業高等学校長協会では、令和元年５月の春季研究協議会において、「新高等学校学習指導要領の実施に向けて　－教科「商業」に関する一問一答集－」と題して、新学習指導要領の改訂に関する経緯や基本方針、商業科改訂の趣旨及び要点、商業科の目標、各科目のねらいや指導上の留意点、各科目にわたる指導計画と内容の取扱いについて、本部提案を行いました。その中では、「何ができるようになるか」という、新しい時代に必要となる育成すべき資質・能力や、①「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」、②「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」、③「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」を、商業科で育成を目指す資質・能力として、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」において具体的に解説し、学習活動例を示しました。

今後、新学習指導要領の円滑な実施に向けて、各学校が編成する教育課程の中で教育目標を達成し、各学校で明確にした資質・能力を育成するために、内容を「どのように学ぶのか」といった主体的・対話的で深い学びを充実させる必要があります。

今回、各県、各校が取り組んでいる、又は取り組もうとしている多様な授業実践に関する多くの事例を提供していただき、ほとんどの科目を網羅した冊子としてまとめることができました。今後、商業教育において、ビジネスで求められる資質・能力を見据えた授業改善を推進し、新学習指導要領の目標を実現できる授業実践の一助になればと願っています。

商業科で育成を目指す資質・能力、学習活動例

《知識及び技術》

○商業の各分野についての体系的・系統的な理解及び関連する技術

ビジネスに関する個別の事実的な知識、一定の手順や段階を追って身に付く個別の技術のみならず、それらが相互に関連付けられるとともに、具体的なビジネスと結び付くなどした、ビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術や、将来の職業を見通して更に専門的な学習を続けることにつながる知識と技術を身に付けるようにすることを意味している。

【学習活動例】

①ビジネスに関する理論について、実験などにより確認する学習活動

②ビジネスに関する新聞記事やニュースなどについて、知識と技術を総合的に活用して生徒自らが解説する学習活動

③ビジネスに関する知識を、ビジネスの具体的な事例と関連付けて考察する学習活動

④商業の学習と職業との関連について、理解を深める学習活動　　など

《思考力、判断力、表現力等》

○ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力

唯一絶対の答えがないことの多い経済社会にあって、地域産業をはじめとする経済社会が健全で持続的に発展する上での具体的な課題を発見し、単に利益だけを優先するのではなく、企業活動が社会に及ぼす影響などを踏まえ、科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題を解決する力を養うことを意味している。

【学習活動例】

⑤実際のビジネスを俯瞰する中で、様々な教科・科目等で身に付いた知識と技術などを活用し、ビジネスに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動

⑥具体的なビジネスの場面を想定し、科学的な根拠に基づいて多面的・多角的に分析し、考察や討論を行い、課題の解決策を考案し、評価・改善する学習活動

⑦地域の資源を活用した商品開発、地域産業の振興策や情報技術を活用した合理的なビジネスを展開する方策の考案・提案と評価・改善などを行う学習活動

⑧模擬的な企業経営や取引先の開拓など、実際のビジネスに即した体験の中で発生する様々な課題に対して、試行錯誤しながら課題を解決していく学習活動　　など

《学びに向かう力、人間性等》

○職業人として必要な豊かな人間性

○よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度

職業人に求められる倫理観などを育み、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を目指して、主体的に学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識し、他者と積極的に関わるなどして、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度を養うことを意味している。

【学習活動例】

⑨他者との討論により課題の解決策の考案などを行う学習活動

⑩他者の考えに耳を傾け、対立する意見であっても、それを踏まえながら自己の考えを整理し伝える学習活動

⑪地域を学びのフィールドとして、様々な職業や年代の地域住民などとつながりをもちながら信頼関係を構築し、協働して課題の解決などに取り組む学習活動

⑫職業資格の取得やコンクールへの挑戦などを通して、自ら学ぶ意欲を高める学習活動　　など

各校の実践例の「６　この学校で実践している【学習活動例】①～⑫は上記の①～⑫に対応しています。

上記【学習活動例】のうち、各都道府県から提供いただいた事例の「６ 学習活動例」の欄に〇が付いたのは、「学びに向かう力、人間性等」の学習活動例に 182、特に学習活動例⑨には 67、⑩には 64 と多かった。「知識及び技術」の学習活動例には 143 で、「思考力・判断力・表現力等」の学習活動例には 146 とほぼ同じであった。多い学習活動例は、③が 55、⑤が 50 であり、少ない学習活動例は、⑧が 19、⑫が 19、①が 20、②が 31、⑦が 31、⑪が 31 であった。

他者との討論、他者に耳を傾ける、ビジネスの具体的な事例と関連付け考察、多面的多角的に分析等の方法・やり方が書かれている学習活動例は多かった。

職業資格、コンクール、模擬的な企業経営、取引先の開拓、商品開発、実験等の活動・取組が書かれている学習活動例は少なかった。

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	宮城県	学校名	宮城県大河原商業高等学校

1　科目名「ビジネス基礎」

情報システム科第１学年・２単位・必修科目

2　授業概要

情報システム科における本科目では，学習の一環として，６月実施の全国商業高等学校協会主催珠算・電卓実務検定試験，２月実施の商業経済検定試験ビジネス基礎（３級）の取得を目標に学習に励んでいる。

６月までは，主に電卓を使用した計算を学習し，検定受験後から，その他の内容を学習する。２単位の授業で，２月の検定までにすべての内容を学習しなければならないため，やや窮屈な指導となっている。

3　授業実施上の工夫

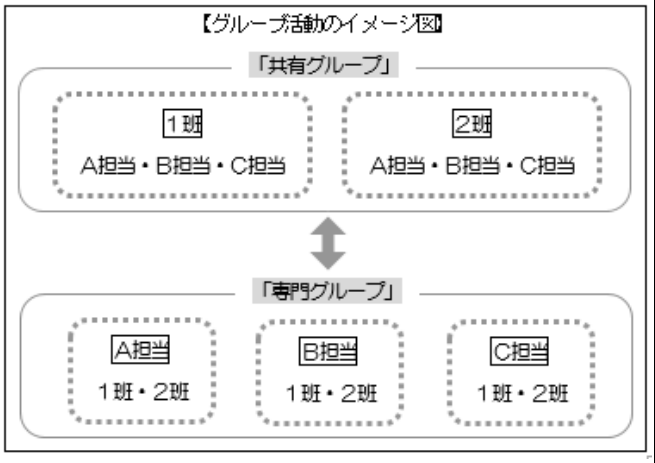
知識構成型ジグソー法を参考にしたグループ活動を行った。グループを「共有グループ」と「専門グループ」の２種類に分け，どちらのグループも６～７名で構成し，全６グループによって活動する。

共有グループでは，前時の終了時に次回の授業で学習する単元内から３つに分けたテーマが与えられ，そのテーマをグループ内の２～３名ずつで分担し，用語の意味や計算方法について，教科書やインターネットを用いて要点をまとめる。この活動は，次の授業までの予習として行うよう指示している。グループに与える３つのテーマは，全６グループに対して，共通のテーマを与えている。

授業では，まず「専門グループ」として，自分が担当したテーマごとに集まり，予習でまとめてきた内容を確認し合い，必要があれば加除訂正をしたうえで，他者への解説用のプリントを作成する。

次に，「共有グループ」に戻り，各テーマの担当者からの解説を聞き，質疑応答を経て３つすべてのテーマについて内容の共有を図る。授業の最後には，次回の授業までに予習してくるテーマを提示する。また，次回の授業では，今回の授業内容をもとにした小テストを実施するため，次回までに復習しておくよう指示する。未習事項であるテーマについては，小テスト終了時に解説する。

本授業のグループ活動では，予習と「専門グループ」での活動を通して，自分が担当したテーマについての知識を深め，その内容を他者に説明した。この要点を絞ってわかりやすくまとめる活動により，思考力，表現力等の向上するのではないかと考えた。また，互いに教え合う「共有グループ」での活動と復習を通して，３つテーマについて，知識が定着することを期待したい。さらに，こうしたグループ活動を繰り返し行うことによって，生徒のコミュニケーション力の育成も図れるのでないかと考えている。



4　評価方法

グループ活動の観察，ワークシートへの記入，小テストの結果。
（各単元の学習内容について，要点を絞ってわかりやすく表現し，簡潔に説明することができているか。）

5　成果と課題

・予習 … ほぼ全員が予習に取り組んでおり，回数を重ねるごとにわかりやすくまとめていた。
・授業（グループ活動）… 専門グループでの確認作業を行ったことにより，その後の共有グループでの活動では，予習としてまとめてきた内容に自信をもって解説していた。
・事後（小テスト）… 商業機材検定の形式で出題したが，概ね解答することができていた。
・その他（課題）… 生徒のなかには，通常の講義形式の授業形態の方が学習内容を理解しやすいと言う者が少数いたため，この形態そのものや，実施頻度などについて今後検討していきたい。

6　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○						○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	茨城県	学校名	茨城県立那珂湊高等学校

１　科目名　「ビジネス基礎」

実施クラス：第１学年，商業に関する学科３クラス

単位数：１単位（３単位のうち１単位を別教員が担当している）

履修形態：教科商業必修科目

２　授業概要

・本校では原則履修科目であるビジネス基礎を，第１学年時に３単位履修させている。そのうち１単位を別の教員が担当するという形をとっている。

・その１単位では，知識量としての学力を増やすことを目的としていない。

・毎回ワークショップ型の授業を行い，年間で 28 種のワークを体験することで本校の目指す学校像（何事にもチャレンジする精神の涵養，創造力・企画力・説明力の育成，２１世紀型スキルの育成）を実現できるようにしている。

【実施したワーク】各ワークは下記の①から⑥の能力を育成することを目標としている。

①チャレンジ精神　②創造力　③企画力　④説明力　⑤コミュニケーション　⑥コラボレーション

1．幸せな人生を考える①④　**2．**バースデーライン①⑤⑥　**3．**仲間で集まる⑤⑥　**4．**トラスト・フォール①⑤⑥　**5．**流れ星②④　**6．**好きなものビンゴゲーム①⑤⑥　**7．**キャッチボール⑤　**8．**いちご派？みかん派？④⑤　**9．**ミャンマーゲーム①　**10.** 他国の言葉ゲーム④　**11.** マインドマップ②　**12.** 海賊旗を作る②③⑥　**13.** 後出しジャンケン①　**14.** イス取り鬼ごっこ①②⑤⑥　**15.** カタルタでストーリー作り②⑥　**16.** お絵かきしりとり②⑥　**17.** ３コママンガで振り返る②④　**18.** モンティホール問題④⑤　**19.** ペーパータワー①②⑤⑥　**20.** マンモスメタファー②④　**21.** 偏愛マップ④⑤　**22.** 雑談力を鍛える④⑤　**23.** インタビューをする③⑤　**24.** マンダラチャート③④　**25.** 地域を調べる⑤　**26.** 協働でのぼり旗を作る②③⑤⑥　**27.** 漢字一文字で表現する　②④　**28.** イベントを企画する①②③④⑤⑥

３　授業実施上の工夫

・年度初めに，教員と生徒・生徒間で安心安全な場を作り上げられるようなワークを数多く実施し，後半に向けて創造性や企画力を育むワークを多くしている。

・主体を生徒に置きティーチングやコーチングではなく，教員はファシリテーションに徹するように注意している。

４　評価方法

・毎回ワークシートを用意し，下記のようなルーブリック等，振り返り手法によって生徒が授業を振り返り自己評価する。

	レベル１	レベル２	レベル３	レベル４
主体的に学習に取り組む態度	活動に参加しなかった。参加しても協力的な態度でなかった	活動への参加が消極的で，指示されないと行動ができない	自ら積極的に活動に参加している	周囲と協力しながら活動に積極的に参加することができた
思考力・判断力表現力	自分の考えを表現することができない	少し自分の考えを表現することができた	ある程度，自分の考えを表現することができた	しっかりと自分の考えを表現することができた

５　成果と課題

【成果】・毎回振り返りをすることで，内省が促される。そこで自分が何に興味関心があるかを知ることで，他の授業への参加度も上がっている。

【課題】・ワークショップ型の授業を苦手とする教員がいるので，全員が実施するのは難しい。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
								○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	群馬県	学校名	太田市立太田高等学校

１　科目名「ビジネス基礎」

商業科の生徒が１年次に３単位履修する（必修）。

２　授業概要

「商業の面白さを知り、商業の学習（特にマーケティングに関する学習）への意欲を高める。」ことを目標とし、「私たちの街で起業してみよう！」をテーマに、グループワークを取り入れてビジネスプランを作成・発表した。

○　学校周辺地域のニーズ(誰が何を欲しているか)を各自で考える。

○　学校でチャレンジショップを出すとしたら、どこでどのようなビジネスを行うのが有効かをグループで考える。

○　グループごとに全体で発表するとともに、他グループの意見を聞くことで観点や意見の多様性を実感する。

３　授業実施上の工夫

社会が様々な人々や多くのマーケティング的な思考によって支えられていることを感じさせ、生徒の視野を広げるとともに、学習意欲が高まるように工夫した。

○　百貨市（販売実習）やチャレンジショップの状況、近隣企業の動向を参考に考えさせる。

○　初期投資の額や資金調達方法、商圏の想定や企業の種類なども考えさせる。

○　各グループの意見を尊重しつつ、まとめの時間が確保できるようにタイムコントロールを行う。

４　評価方法

授業内で即時的に生徒を評価することは困難であるため、生徒に提出させたワークシートから得られる情報を重視して評価した。なお、記述式の項目を多めに設け、生徒からの多様な表現を引き出せるようにワークシートの様式を工夫した。

５　成果と課題

アンケートにおいて、すべての生徒が商業の面白さを感じたと回答するとともに、マーケティング学習に対する意欲が高まったと回答した。よって、本時の目標は達成できたと言えるだろう。また、学習意欲の高まりが積極的な学習活動に結びつくと考えれば、過半数の生徒が「学習意欲が大いに高まった」と回答したのは本時の有効性を示すものであり 、実施した意義があったと言えるのではないだろうか。一方で、商業の面白さを大いに感じた生徒は半数未満にとどまった。「商業の面白さ」には定義が無く、何に面白さを感じるかは個人によって異なるため、このような結果になったと考えられる。全体的には良好な結果であったが、すべての生徒が「商業の面白さを 大いに感じた」「学習意欲が大いに高まった」と回答できるような授業を目指して、今後も研究を深めていく必要性を感じた。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○	○	○	○		○	○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	新潟県	学校名	新潟県立新潟商業高等学校

１　科目名「ビジネス基礎」

１学年次履修、２単位、履修形態（必修）、第１学年総合ビジネス科

２　授業概要

（１）取り上げる教材・単元

第３章　第４節　売買業者のビジネス　１７　中央卸売市場

（２）単元で育成する資質・能力

①知識・技能：経済と流通に関する知識の理解

②思考力・判断力・表現力等：経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案できる能力。

③主体的に学習に取り組む態度：経済と流通に関する知識・技能を身に付けたり、その役割や内容を積極的に調べたり質問したり、まとめるなどして、思考・判断・表現をしようとする態度

（３）学習計画　（１１月１週～　　全８時間扱い）平成30年度実施

【第一次】１・２時間　卸売商のビジネス　卸売商の役割を説明できる。（知識・技能）

【第二次】３・４・５時間　売買業者のビジネス　卸売商を流通経路上の位置や機能によって分類できる（知識・技能）

【第三次】７・８時間　中央卸売市場の役割（思考力・判断力・表現力）

本時：８時間目　中央卸売市場　築地市場豊洲市場への移転の新聞記事より、生鮮食料品の卸売の特徴から、役割・しくみ・機能についてバタフライバップを活用し、まとめ、発表する。（思考力・断力・表現力）

３　授業実施上の工夫

（１）グループの中に役割を設定し、対話を促した。「市場」、「生産者」、「小売商・消費者」の３者の立場から「中央卸売市場のいま」、「中央卸売市場の今後」について教科書及び新聞記事から情報を収集した。その上で、それぞれの立場から対話を促した。「中央卸売市場のいま・今後」として、中央卸売市場の役割が変化していることを読み取らせるように工夫した。

（２）「バタフライ・マップ」を思考するためのツールとして活用し、レポート作成を最終的な目標とした。「会話」の授業で終わらないよう、読み取るべき課題を教師側から提示した。バタフライ・マップの「事実」「説明」「問題」「解決」「テーマ」の枠を活かし、役割に変化を「市場」「小売商・消費者」の立場から、複眼的に「中央卸売市場のいま・今後」を捉えさせ、生徒自身の考えを記述させるよう工夫した。

（３）新聞記事を活用し、内容を「なぜ佐渡の寒ブリが豊洲市場へ出荷されるのか（地元の新潟ではなく）」、「なぜ全国の市場経由率が５割にまで低下しているのか」など、できるだけ「なぜ」を多く提示し、生徒にも「なぜ」と考えるよう指導した。新聞を活用することによって、社会の動に敏感になるだけでなく、生鮮食料品が産地から直送させる仕組みなど身近なところから経済を考えるきっかけとなるようにした。

４　評価方法

（１）知識・技能（卸売商の役割を説明することができる。：ノートの記述）

（２）思考力・判断力・表現力（①中央卸売市場の役割について資料を収集したり情報を選択したりして、その役割や仕事の内容を思考し、判断することができる。②中央卸売市場の役割及び役割の変化を読み取り、期待される役割について表現することができる。：プリント・レポートの記述）

５　成果と課題

（１）実践を通し、課題について調べ、対話をくり返し理解を深め、さらに調べ・対話を繰り返すという過程を持つことが深い学びにとって、重要であることを再認識した。

（２）今回は築地から豊洲市場への移転というニュースや新聞記事（紙面・デジタル）が多くあり、教材として活用することができた。新潟で捕れた「寒ブリ」が豊洲に送られ、日本の台所としての役割を果たす「主要都市における生鮮食料品の大量の需要と供給を円滑・迅速に結びつける役割を果たす」という側面と、大手小売商の産直システムなどからその割合が低下している事実を消費者の立場からも考えることができた。生徒はそれぞれ感想を述べ合っていたが、流通経路がニーズによって変化し、多面性を持つことを理解したと感じている。授業時間の確保及び既習の知識と現実のずれから生徒が興味を持つような発問を工夫し、教材研究に努めたい。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○		○	○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	鳥取県	学校名	鳥取県立鳥取商業高等学校

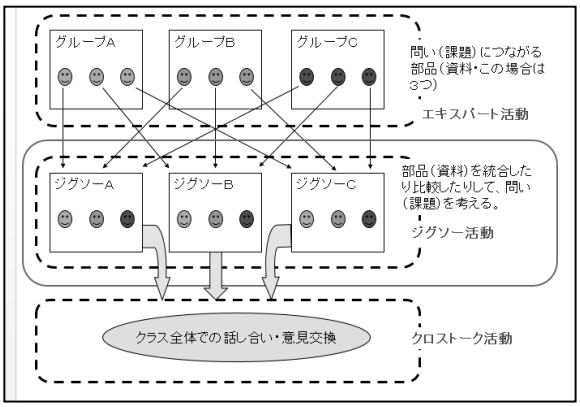
１　科目名「ビジネス基礎」

履修学年：１年生　　単位数：３単位　　履修形態：必修

２　授業概要

他者に説明することでの知識の構築と他者の説明を聞きながら自分の考えを深めていく活動を，それぞれ立場を交代しながら行うことで課題を解決していくために，知識構成型ジグソー法を活用している。

【知識構成型ジグソー法を活用した授業スタイル】



学習活動の流れは①教員が学習内容に関する問いを設定する②授業の柱となる問いの答えを出すための材料となる資料を準備する③同じ資料を読み，学習するグループを作り，学習した内容をグループのメンバーに説明する活動（エキスパート活動）に取り組む④異なる資料を読み，学習した生徒を１人ずつ組み合わせて，新しいグループをつくり，担当した資料を互いに説明し合い，最初の問いに対する答えを出す活動（ジグソー活動）に取り組む⑤資料をまとめて答えが出たら，クラス全体に発表し，互いの答えとその根拠を検討する活動に取り組む（クロストーク活動）という流れで展開する。

３　授業実施上の工夫

・単元における協働学習を取り入れる意義や目標の確認
・時間内での思考，話し合い，発表などの意識付け（ストップウォッチによる時間管理）
・生徒の振り返りや気づきを促す声かけ
・他人の意見を尊重する（安心・安全な学習空間，答えは１つではない）
・板書とICTの活用
・単元の到達目標や学びあいを意識した教材作成

４　評価方法

※別紙の本校におけるマーケティングの事例と共通の評価方法を取っている。

５　成果と課題

【成果】

知識構成型ジグソー法による授業を実践することで，経済社会やビジネスの動向に興味を持ち，普段から新聞やニュースを見る生徒が増え，さまざまな学びでの知識を活用した話し合いにつながった。

【課題】

授業手法の普及だけに終わらず，目標に到達させるための教材作りのノウハウを普及・拡大させる取り組みが必要である。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○		○	○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	広島県	学校名	広島市立広島商業高等学校

１　科目名「ビジネス基礎」

履修学年：１年生、単位数：２単位、履修形態（必修）

２　授業概要

本校は学科「みらい商業科」を設置しており、２年次より商業の４分野にまたがる８つの特色あるコース選択制（秘書・観光・販売・情報企画・情報処理・金融・経理・進学）を敷いている学校である。その中で、科目「ビジネス基礎」の役割は大きく、この科目での学びが生徒のコース選択、進路実現に大きく影響を与えると考えている。

このたび新学習指導要領の実施に向け、単元「ビジネスの担い手」の指導案およびワークシートを基に商業の見方・考え方を働かせ、深い学びになるかの検討を行った。

この指導案および、ワークシートを用いて公開研究授業を行い、単元の目標を「ビジネスの担い手に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの諸活動におけるビジネスの担い手の倫理について考察し、得られた情報を基に適切に表現することができる。」とした。また、授業の目標については、「移動販売の概要及び社会的責任について思考を深め、今後の動向について表現できる。」とした。

授業の最初と最後に次の同一質問をワークシートに回答させた。質問は「とくし丸（地域密着型の移動販売業者）のような業態である移動販売は、今後拡大できるか、縮小するかどちらかに○をつけ、理由を書きなさい。」である。

３　授業実施上の工夫

ワークシートの構成は生徒が、商業教育の分野であるマーケティング分野の視点、会計分野の視点、ビジネス情報分野の視点の３視点での見方・考え方で「とくし丸」について考察するものである。１つの事象を多面的な見方をすることで、新たな課題や気付きを発見させることを狙いとした。

４　評価方法

ワークシートで行う。ワークシートの最初と最後に同じ質問を記載し、授業前と授業後の生徒の考えを比較できる形式とすることで、「思考が深まったか」、「何ができるようになったか」を把握しやすいものとしている。

５　成果と課題

授業の最初と最後では、学んだ商業の各分野の知識を生かして回答する変容が認められる生徒が、３８名中１７名であった。回答した文字数の平均は２８文字から４０文字に増加しており、知識量の増加および主体的に回答する姿勢が見て取れた。引き続き、研究を進め、効果的な指導を追及していく必要がある。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○	○	○	○	○		○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	福岡県	学校名	福岡県立田川科学技術高等学校

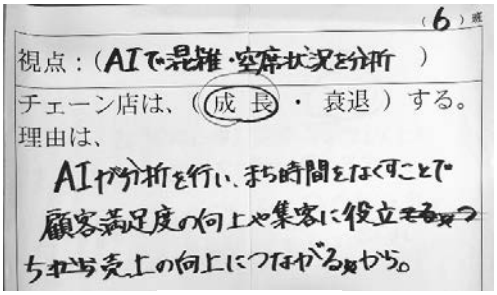
１　科目名「ビジネス基礎」

対象：ビジネス科学科・第１学年　　単位数：２単位　　履修形態：必修

２　授業概要

本校は、総合型産業高校ということもあり、農業科、工業科との関連性を用いた授業展開が可能となっています。具体的には、第１次産業とビジネス、第２次産業とビジネスとの関連を考え、ビジネスにおける役割等について、考えが深まっています。

第３章ビジネスの担い手では、役割や仕事の概要について理解を深めるため、アクティブ・ラーニングを活用した授業展開を行いました。第３節「小売業」については、ジグソー法からの発展学習を行い、グループごとに、小売業者の今後の動向について各班ごとに考える視点についての資料を与え、発表を通して様々な視点から学習内容が深められました。（図１・２）



【図１】

【図２】

３　授業実施上の工夫

単位数が少ないことと、生徒の学習理解度を考慮し、ＩＣＴ機器の積極的な活用に取り組みました。PowerPointを用いた基礎的な学習と、振り返り学習で知識の定着を行い、アクティブ・ラーニングにて、学習内容を深められるように工夫しました。また、ＮＨＫ「高校講座」の動画を用いて、生徒の理解度に合わせて授業展開を行いました。

４　評価方法

アクティブ・ラーニングの場面においては、ルーブリック評価を用い、観点別での自己評価、小テストでの理解度の確認を行いました。（図３）

本日の評価基準

項目	評価内容	評価 A(3)	評価 B(2)	評価 C(1)
関心・意欲・態度	グループ学習に積極的に取り組んでいるか。	グループ学習で、自ら進んで発言や進行をし、自分の役割を果たせた。	グループ学習で自分の意見を話せた。	他人の意見をまとめられた。
知識・理解	チェーン店の種類と仕組みを理解している。	チェーン店の種類と仕組みを説明できる。	チェーン店の種類が答えられ、仕組みが少し説明できる。	チェーン店の種類は答えられるが、仕組みは説明できない。（分からない）

【図３】

５　成果と課題

アクティブ・ラーニング、ＩＣＴ機器の活用による成果は、生徒の授業や職業、仕事の役割等についての関心が高まったことが挙げられます。学習を通して、将来の自分に必要な知識や技術、さらには考え方が深まったように感じます。課題としては、積極的に授業に取り組み考える姿勢は見られたものの、自身で社会情勢について関心を持つところには至らなかったところが挙げられます。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○	○	○	○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	熊本県	学校名	熊本県立八代東高等学校

１　科目名「ビジネス基礎」「マーケティング」「ビジネス実務」

以上、３科目を体系的に結びつけ、科目横断的な指導に取り組んだ

「ビジネス基礎」　（履修学年：１学年、単位数：３、履修形態：必修）

「マーケティング」（履修学年：２学年、単位数：３、履修形態：必修）

「ビジネス実務」　（履修学年：２学年、単位数：２、履修形態：選択）

２　授業概要

①ケースメソッド（協働・協調的学習）、ワールドカフェ

②販売実習「東高マーケット」を実践し、そこで学んだ接客マナーを動画編集し、教材づくりを行った。（２年次「ビジネス実務」で教材作成→１年次「ビジネス基礎」教材として使用）

③販売実習「東高マーケット」における顧客満足実現能力やビジネス探究能力を育成するために学校オリジナル商品作成に取り組む授業を実践した。（マーケティング）

３　授業実施上の工夫

①教職員の共通認識を図るため、改めて目指す生徒像をＳＷＯＴ分析した。

②販売実習「東高マーケット」を中心に、年間計画を大幅に変更した。

③「本時のめあて」を毎時間掲示するなど、学習環境のＵＤ化を図った。

４　評価方法

①ワークシート教材を活用

②自己評価シートの活用による評価情報の蓄積

③単元の自己・他者評価

④ルーブリック評価

５　成果と課題

【成果】

・ケース教材を生徒自ら作成することで、課題発見や問題解決ができる感性や行動力を高めることができた。

・販売実習「東高マーケット」の一員としての評価について、生徒が評価規準を作成、店舗間で相互評価する活動を通じて、販売実習に対する意欲を高めることができた。

・「本時の目標」の明示と生徒に振り返りをさせることにより、生徒が自己の到達度を確認し学びを深めることができた。また、生徒の感想や自己評価から教職員も指導方法の振り返りができ、改善策を考える上で有効な手段とすることができた。

【課題】

・ワークシート教材の作成について、授業進度や行事変更等によりシラバスに沿った計画的な教材活用ができなかった。

・ケースメソッドや知識構成型ジグソー法による指導方法が商業科職員に波及することができなかった。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○			○					○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	東京都	学校名	東京都立葛飾商業高等学校

１　科目名「マーケティング」

学　年　第２学年　　単位数　選択必修・３単位

２　授業概要

マーケティングに関する学習の定着を図るため、授業の一環として東京都で実施しているイングリッシュ・ビジネスプラン・コンテストへの参加に取組むことにした。授業では、マーケティングで学んだ知識と技術を生かしてビジネスプランを考えるとともに、英語科にも協力を依頼して英語で発表できるように説明原稿や発表資料を作成した。

（１）目的

グループごとにマーケティングツールを活用し、ビジネスプランを考え、英語でプレゼンテーションする力の育成

（２）授業展開

ア．授業選択者23人を４グループに分けてのグループ学習

イ．マーケティングツールの活用

３C分析、SWOT分析、STP分析、４C分析、４B分析、９セル、損益計算

ウ．発表用スライド

絵コンテ、ストーリーシート、パワーポイント

エ．プレゼンテーション言語

プレゼンテーションに慣れさせるため、１回目は日本語で行い、それ以降は英語で実施

オ．夏休みの課題

各グループ、訪日外国人観光客50人以上を対象に、自らのグループが考えたビジネスプランのアンケートを実施

３　授業実施上の工夫

（１）ファシリテーターとしての役割

ア．中立的な立場から生徒同士のアイデアや意見をまとめ、生徒自らのグループの意見やプランを進行する補助

イ．突飛な発想やアイデアを実現するためにはどうしたら良いのかを考えさせる指導

ウ．生徒同士の意見が活発に行うような雰囲気作りや発問の工夫

（２）プラン作成・プレゼンテーション

ア．WHY・HOW・WHATの順にプランを考える指導

イ．マーケティングツールの活用（上記参照）

ウ．ビジネスプレゼンテーションの指導

①論理性・説得力　②計画性・実現可能性・採算性・独創性

③プレゼンテーションとしての体裁・説明力

（３）英語科への協力依頼

授業時に英語科教員に参加してもらい、日本語で作った原稿を英語へ翻訳指導

４　評価方法

ルーブリック評価

ルーブリック評価表を授業開始時に提示し、本時の到達目標を明確にした。また、授業終了時に、本時、どの程度目標達成できたかを自己評価させた。

５　成果と課題

（１）成果

ア．授業選択者全員にビジネスプレゼンテーションの場を経験させることができた。

イ．発想力、マーケティング力、簿記会計能力、英語力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力が養われた。

ウ．グループ間で得意・不得意分野を補うことができ、授業への取り組みが活発化した。

エ．街頭アンケートの実施により、コミュニケーション能力や計画力などが向上した。

（２）課題

ア．１時間の授業において、生徒の話合いの場面をすべて評価するのは難しい。

イ．英語やプレゼンテーションが苦手な生徒に興味関心を持たせるのは難しい。

６　この授業で実践している

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○	○	○	○	○	○			○	○	○	○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	静岡県	学校名	静岡県立島田商業高等学校

1　科目名「マーケティング」

履修学年：２学年　単位数：３単位　人数：34人　履修形態：必修

2　授業概要

＜内容・特色＞

実際の店舗を対象としたマーケティング。今回対象とした店舗は東京都大田区羽田にある「ブックカフェ羽月」。看板メニューである「はねだぷりん」の売上増加に貢献できる企画の立案実施。具体的には高校生の感性とマーケティング理論を活かし、SNSサイトの充実、商品デザイン、販売方法を検討し実施した。

＜年間学習計画＞

１学期：マーケティング理論の習得（実際の店舗を対象としたSWOT分析など）

２学期：マーケティング理論に基づいた売上増加につながる企画をグループ毎に提案

３学期：企画の実施、現地視察と振り返り。

3　授業実施上の工夫

授業実施に際しては、単に知識や技術を習得するのではなく、なぜ知識や技術が必要なのか、それをどのように活かしていくのかを考えさせるようにした。具体的には、「ブックカフェ羽月」を題材に、現状の問題点を生徒自身で考えさせ、どうしたら売上が増加するのか、グループを7つに分け、他の事例（ご当地プリンの成功例など）も含め検討させた。また、考えにたどり着くまでの過程を重視し、ロジカルシンキング、仮説思考の練習も実施した。

4　評価方法

評価については、定期考査の他に、プレゼン方式による発表と、レポートの提出を行った。プレゼンとレポートについてはあらかじめ、評価方法、評価基準を生徒に示し、ルーブリックを作成し、評価を行った。ルーブリックは項目を自己評価の側面と他者評価の側面に分け、それぞれ3～4程度の段階を付けて評価を行った。

5　成果と課題

生徒の授業実施後にアンケートを行ったところ、「思考･判断･表現」について一番身に付いたとの意見が多かった。実際の店舗を用いて新しい商品デザイン（ぷりんに焼き印を押す）、SNSのタグの改善など自分達で考えたことが何らかの形で評価、貢献したことが認識でき、授業に対しては好意的であった。課題としては常に協力してもらえる店舗があるわけでないこと、生徒の中で適材適所が見つからないと何をして良いのかわからず、結果、自分からは何もできず指示待ちになってしまう生徒もいたことが挙げられる。

【生徒デザインの焼き印】

【現地での地元CATVとの取材風景】

6　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○		○		○	○			○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	鳥取県	学校名	鳥取県立鳥取商業高等学校

１　科目名「マーケティング」

履修学年：２年生　　単位数：２単位　　履修形態：選択必修

２　授業概要

経済社会やビジネスの動向に理解を深めようとする姿勢と課題解決能力を身に付けさせるため，ケーススタディを活用。

【ケーススタディを活用した授業スタイル】

グループ分け→ケース教材の個人学習→グループ討議→静電気シートにまとめる→プレゼンと質疑応答→ファシリテーターによるまとめ→個人の振り返りとまとめ

３　授業実施上の工夫

・単元における協働学習を取り入れる意義や目標の確認
・生徒，教員間の信頼関係構築（学びあう関係づくり）
・時間内での思考，話し合い，発表などの意識付け（ストップウォッチによる時間管理）
・ルールづくり（説明や発表時は静かに耳を傾ける，発表者の方を向くなど）
・生徒の振り返りや気づきを促す声かけ
・他人の意見を尊重する（安心・安全な学習空間，答えは１つではない）
・ファシリテーションのスキルアップ

４　評価方法

年度当初に学習活動に即した評価規準・評価方法を設定するとともに，評価後には「十分満足できる」状況（Ａ）と判断した例，「努力を要する」状況（Ｃ）と判断した生徒への指導の手立てを整理し，今後の指導と評価に役立てることも意識して，学習の実現状況を適切に把握する取り組みを行った。

単元の段階におけるＡ・Ｂ・Ｃによる観点別評価の換算点については，Ａを３，Ｂを２，Ｃを１とした。単元末及び学期末に，観点別に換算点の平均値を出し，それをＡ，Ｂ，Ｃと判断することで，その単元及び学期末での観点別評価を決定していった。

評価の観点については，その授業で，「どのような力を身に付けさせたいか」で決まることから，そのような視点で学習の到達目標を明確にするとともに，到達目標に対して「力が身に付いたか，身に付かなかったか」を見極めることで評価を行った。

なお，観点のウエイト付けについては，単元の内容に応じて適切な評価が行えるよう，工夫・改善が引き続き必要。

５　成果と課題

【成果】

ケーススタディによる授業を年間５回程度実施したが，検定の合格率に影響はなかった。単元の目標に応じて講義型授業とＡＬをバランスよく実施することで成果を上げることができた。

【課題】

評価することに手数がかかり，指導がおろそかにならないようにするために，的確にみとることができる評価方法のさらなる工夫改善が引き続き必要である。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○	○	○	○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	愛媛県	学校名	愛媛県立宇和島東高等学校

１　科目名「マーケティング」

履修学年　２年、単位数　３単位、履修形態（選択必修）

２　授業概要

指導単元「第７章　販売価格」

(1)　販売価格決定の考え方及び生産、流通、販売にかかわるコストや競合他社との関係など、価格決定に影響を与える要因について理解させるために ICT 機器を活用し説明する。

(2)　家庭科の調理実習や学校行事である文化祭と関連付けた学習を通じて、深い学びに向かわせる。

ア　事前に家庭科の調理実習で生徒が作ったマフィンを題材とし、材料費・労務費・経費の計算をさせる。

イ　自分たちの作ったマフィンの原価を知るとともに、完成したマフィンについてクラス内で「いくらなら買いたいか」という模擬市場調査を実施する。

ウ　原価計算と市場調査をもとに、どのような価格戦略で価格を設定するかをグループワークによって決定させる。

(3)　知識の習得に加えて、企業広告から価格戦略を発見させ、模擬市場でのグループワークを行う。生徒自身がマーケティングの学習内容と日常生活での体験を関連づけて考えることができるように授業を展開する。

３　授業実施上の工夫

(1)　iPadを各班に配置し、「クラスルーム」という無料アプリを使用して資料配布・提示を行う。

ア　資料を無線で各班のiPadに送信し、説明する。また、グループワークを行うときに、iPadの画面にタイマーを表示させる。

イ　生徒の発表資料をiPadで作成させ、発表時には全生徒に発表グループの画面がわかるようにプロジェクタで表示する。

(2)　販売原価の算出では、材料費（調理実習の納品書・請求書を提示）、労務費（愛媛県の最低賃金）、経費（宇和島市の水道代、電気代）、営業費（画用紙や包装紙）を用いて考えさせる。

(3)　マーケティングターゲットとして、文化祭の来場者数、販売時間を用いる。

４　評価方法

(1)発表時における相互評価表　　(2)　自己評価表　　＊(1)と(2)はワークシートを使用

(3)教科担任による評価

ア　生徒自身の購買経験と重ね合わせ、売り手・買い手双方の立場に立って、販売価格の重要性に気付くことができたか。

イ　価格戦略の特徴を理解し、ターゲットや販売経路に応じた戦略を論理的に説明できるか。

５　成果と課題

本時の自己評価表の感想には、「この授業を受けてから、普段の生活の中でどのような価格戦略が用いられているのかを意識してみるようになった。」といった記述が複数見られた。マーケティングの授業を通して販売する企業側の目線に立って物事を考えたり、企業戦略に気付いたりすることができるようになったのだと感じている。マーケティングの授業内容が普段の生活と関連付けて考えられるようになったことが成果である。

課題としては、話し合いが活発にできている班と、そうでない班があったので、生徒の習熟度に応じてグループ編成を行う必要性を感じた。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○	○	○		○		○	○	○	○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	宮崎県	学校名	宮崎県立都城商業高等学校

１　科目名「マーケティング」

1年生、商業科、２単位、必修

２　授業概要

第５章　製品計画

地元企業の内容を用いたパブリックディベート

時間	内容
４時間	製品計画の内容を教科書やワークシート等用いながら学習
１時間	・パブリックディベートの説明及びレクチャー　１班４名程度 ・生徒へルーブリック評価の確認 ・問いの発表 「イオン九州に九州パンケーキを出店すると仮定して新メニューを考えてみましょう」
２時間	・コンセプトシートに沿って、自ら情報を収集しそれをグループで共有し企画提案を考える
１時間	・プレゼンテーションシートへ記入 これまでの学び、STP分析等を行い、商品コンセプトやメニュー名、イラストをシートに記入する。
１時間	・パブリックディベートの実施 ステージ１　先攻チームによる企画提案　２分間 ステージ２　先攻チームの企画提案についての質疑と意見交換　２分間 多角的な視点（ジャッジ側…販売・広告・企画の立場から質疑） ステージ３　後攻チームによる企画提案　２分間 ステージ４　後攻チームの提案する企画についての質疑と意見交換　２分間 多角的な視点（ジャッジ側…販売・広告・企画の立場から質疑） 準備時間　５分間 ステージ５　後攻チームによる論点明示と企画の再提案　２分間 ステージ６　先攻チームによる論点明示と企画の再提案　２分間 振り返り

３　授業実施上の工夫

答えのない時代でYES、NOはっきりつかない場面がマーケティングでは多い。そのためパブリックディベートという手法を用いて企画提案型のディベートを実施した。質疑等を繰り返し試行錯誤を行いながら再提案を行う方法を行った。さらに、これまでのマーケティングの学びを活用して、討論を行うことを意識させた。

４　評価方法

コンセプトシートやプレゼンテーション、パブリックディベートのどのような項目を評価の対象にするのか、生徒達へ事前にルーブリック評価表の提示を行い、授業を展開した。

５　成果と課題

成果

マーケティングの知識及び技術を活用しながら、パブリックディベートを行うことで、他者と協働する力や企画提案から質疑等に対して再提案を行うことで、思考力・判断力・表現力等が高まった。

課題

２単位での実施なので、授業の効率化や１年生での学びをより身近な例を持ちながら興味関心を用いた授業展開を行うことが必要である。評価方法について教師が記録に追われず、シンプルな評価で生徒も納得する評価方法の工夫改善が必要である。さらに、生徒が自らの学習を調整することが可視化できる教材を作成し、「主体的に取り組む態度」を評価を研究することが必要である。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○		○				○			

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	宮崎県	学校名	宮崎県立宮崎商業高等学校

１　科目名「マーケティング」　　**科目名「ビジネス経済応用」**

商業科２年生　３単位　必修　　商業科３年生　３単位　必修

２　授業概要

使用教材：教科書、設問が書かれたプリント、説明スライドを印刷したプリント、確認テスト

はじめに、その日の授業の学習範囲とおさえるべき語句、理解すべき内容を提示（２分程度）
生徒は４人１組でグループをつくり、教科書で調べたり、話し合ったりして協力してプリントの設問に答えていく。（２５分程度）
指定の時間になったら、スライドを使って、教科書の内容を説明する（１５分程度）
説明が終わったら、確認テストをおこなう。（５分程度）
最後に、内容の理解および授業中の取り組みなどについて振り返る（３分程度）

３　授業実施上の工夫

設問の良し悪しで、授業の質が決まってくる。教科書に記載されている内容ばかり問うと、生徒の対話が生まれないので、教科書に記載されていないことや正解のない設問を必ず入れるようにしている。
教科書内容に関連する企業の具体的な事例やニュースで話題になっていること、社会が抱える課題等も積極的に取り入れるようにしている。

４　評価方法

効果的な評価の在り方については、模索中である。

５　成果と課題

（成果）
自分と違う他人の意見や考えを知られる点、授業中に眠くならない点が生徒に好評である。話し合いをとおして理解が深まったとの感想がみられることもある。生徒には、おおむね好意的に受けとめられている。一斉授業では気づかない生徒の考えや意見に触れることがある。
（課題）
話し合いが停滞しているグループへのはたらきかけ方と生徒の話し合いを促進し、かつ、内容を深めるような設問の作り方が難しい。また、評価の在り方も研究が必要である。
自分の考えや意見を整理し、まとめ、文章にする力をどのようにつけさせるか。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○		○				○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	鹿児島県	学校名	鹿児島県立南大隅高等学校

１　科目名「マーケティング」

履修学年：１年　　単位数：３単位　　履修形態：必修

２　授業概要

単元名「販売促進・広告」で，生徒が自ら調べた情報や持参した実物の広告を参考にすることで，広告の種類や特徴について理解を深めている。その後，メリットおよびデメリットを考えさせ，自分の意見を付箋紙に記入し，班ごとにブレーンストーミングを実施している。発表資料を作成させ，全体発表後は，これまでに知り得た情報や他者の意見を活かし，地域宣伝部という立場で地域の実態を適切に把握させ，地元特産品をアピールする広告企画書を作成させている。

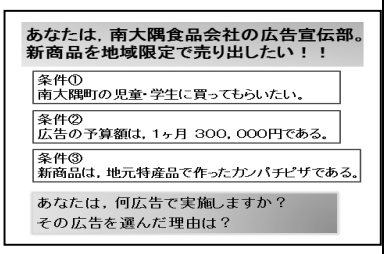
３　授業実施上の工夫

【広告の種類や広告料金等の調査・情報収集】

言語活動やアクティブラーニングの授業を導入するには，まずは自らの経験や知識，考え方等を深め，授業資料を準備することが大切である。生徒が集めた情報・知識＋教師が準備した補足資料を生徒が整理・分析することで，さらに充実した言語活動ができる。生徒は教科書に記載されている資料やインターネットで調べ，教師は広告代理店や新聞会社，企業等に確認し，生徒に知り得た情報を提供する。

【グループ学習事前指導の徹底】

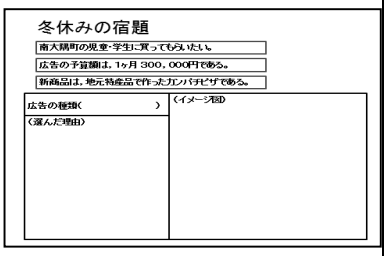
①付箋紙を活用し，１人１つは意見を出すこと。②自分の考えを持つこと，相手の考えを否定しないこと。③少数派の意見も尊重し，発表内容についてはグループ全員と確認すること。④発表者は声の大きさを意識し，発表を聞く時は，発表者へ身体と視線を向けること。⑤発表資料は，相手が見やすい字の大きさ，色の使い方，配置等に気をつけて作成すること。以上の点について，指導徹底する。



４　評価方法

【地元特産品をアピールする広告企画書の作成】

地元特産品「カンパチピザ」や広告予算額，広告対象者等の条件を設定し，さらに地域の実態を適切に把握したうえで，相応しい広告を検討させる。広告企画書として提出させ，「内容」「分かりやすさ」「広告の種類：地域の実態を把握した広告であるか」「イメージ図の見やすさ」などを評価する。



【調べ学習・グループ学習・全体発表の実施】

調べ学習では積極性を評価。グループ学習では，進行係・発表係・記録係の取組状況，積極性などを評価。全体発表では，発表資料や発表態度，聞く姿勢などを評価する。

５　成果と課題

話し合う際に付箋紙を活用したことで，１人１人が意識して話し合いを行うようになった。生徒１人１人が自分の考えを持ち，他者の考えとの共通点や相違点を意識しながら考えを深め，相手の立場や考えをお互いに尊重して話し合ったりするような言語活動が展開できたと考える。また，発表者は声の大きさを意識し，早口にならないよう心掛けていた。発表内容もグループの意見をまとめ，詳しく説明・解説ができるようになり，意見をまとめて表現する能力が身に付いたと考えられる。このような授業を導入したことで，進行係・発表係・記録係を担当した生徒は責任感が身に付き，生徒全員においては，積極的な姿勢・聞く姿勢を改善することができた。今後の展開としては，ＩＣＴを使って広告企画書を発表させ，評価の高い広告に関しては，地元企業に提案および作成提供したいと考えている。そのためには，２年次で履修する「広告と販売促進」にしっかりと引き継ぐことが課題である。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○	○	○		○		○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	愛知県	**学校名**	愛知県立岡崎商業高等学校

１　科目名「商品開発」

３年生総合ビジネス科　２単位　必修

２　授業概要

お土産品の企画・開発・販売を手掛けている株式会社スマイル - リンクの商品担当の方を月に１回程度の割合で外部講師として授業に招き、講義およびアイディアの評価等を行っている。新商品開発に向けてや、既存商品の販売促進活動などのプロジェクトを共同で行う。

３　授業実施上の工夫

生徒が出したアイディアに対して、教員の手を一切入れずに進めること。そのまま評価を受けることで、アイディアの良しあしや問題点、評価される点を直接聞くことができる。それを次回への意欲や工夫につなげられるよう、教員が導くことに重点を置いている。

また、商品名や試食の感想などは全校生徒対象のアンケートや、学校祭等を利用した試食などを行うことで学科としての取り組みを学校としての取り組みとして実施した。

４　評価方法

平常点の評価の内容に相互評価を設けている。グループごとの発表を生徒にも同じ観点で評価をさせ、その評価を各グループの班員の評価としている。

５　成果と課題

実施初年度に岡崎市の特産品を使ったお土産ものとして「岡崎ぎゅーっと肉味噌」をプロデュースして発売。２年目以降は広報活動等も実施をして知名度を広げる活動を展開。３年目には２種類の新味を発売し、これまでの累計販売個数が１０万個を達成した。

課題としては、毎年新商品の開発が行えるわけではないので、年度によって実施する内容が変わってしまうことである。仕方のないことではあるが、同じ経験を毎年できないので、目標設定を具体的に示すことで学習への意欲を維持させる必要がある。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
									○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	滋賀県	学校名	滋賀県立八幡商業高等学校

１　科目名「商品開発」

２年生　２単位　選択科目

２　授業概要

【商品開発に関する基礎基本の学習】（５時間）

※基本、授業時間を半分に分け、前半を講義形式、後半をチーム活動として授業を進めた

テーマ：過去に生徒が開発した商品について、よりよい商品にするための改善案を考察する

①過去の商品が「なぜ売れた？なぜ売れなかった？」を各々で考察する

〔チーム活動〕　⇓

上記①をチームで意見交換

②既成商品の紹介文、改善案を考察Ⅰ

③改善案を考察Ⅱ、発表方法について考える

④改善案の発表、他チームの評価

⑤まとめ　チーム内の評価

３　授業実施上の工夫

・チームは無作為で結成。話し合いの進め方の指導を細かく入れるようにする。
（各生徒が選んだ商品をもとに、担当者がチームをつくった。）

・チームでの話し合い時に批判的な意見を出さないように指導する。よりよい商品をつくるという視点に重きをおき、前向きな話ができる環境つくりを意識する。

４　評価方法

・チーム発表時、生徒が他のチームの発表を評価する。

・チーム活動のまとめに、チームのメンバーの活躍ぶりや貢献度を生徒が記入する。

５　成果と課題

○生徒の感想より、一人で考えるよりもチームで考えたほうがよりよい意見・より多くの意見が出ることを実感させることができた。

△授業時間の見通しがつきにくい（生徒の意見、チーム活動の活発度合いが影響するため）

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
				○		○		○			

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	岡山県	学校名	岡山県立岡山東商業高等学校

１　科目名「商品開発」

平成30年度実施：ビジネス創造科3年　3単位　自由選択　3講座（24名、13名、19名）

２　授業概要

(1) 目的

地域調査を行い研究することで魅力を生かした商品開発等、広い視野で商品を考える力を育てる。また、グループ活動やポスター発表等の学習活動を通じて、主体的・体験的な学びを実現し対話力やプレゼンテーション能力、他者と積極的に関わり協働的に取組む態度を育成する。

(2) 年間学習活動

地域企業と連携した弁当の考案や、学校周辺地域の活性化を目指した観光ビジネスプランの提案を行った。平成 30 年度に実施した学習活動は次のとおりである。

１学期　オリジナル弁当の開発（株式会社　両備ストアカンパニーと連携）
商品化された弁当・・・旨辛コリアン風弁当、彩り九種の松華堂弁当、欲張り中華弁当
みんな大好きランチ弁当

２学期　オリジナル弁当の販売（東商デパートおよび両備ストア店舗にて）
高校生ビジネスプラングランプリ応募（日本政策金融公庫主催）
まち・ひと・しごと未来創造ビジネスプランコンテスト参加
（岡山県高等学校商業教育協会マーケティング分野研究委員会主催）
岡山の観光ビジネスプラン考案、プレゼンテーション

３学期　岡山モノづくり★学生アイデア・デザインコンテスト応募（岡山県主催）

３　授業実施上の工夫

ｉｐａｄの活用により必要なデータや資料を検索し、調査した情報はグループ内で共有した。3名程度の少人数によるグループでの商品企画や、プレゼン資料の作成、発表などの活動の中で、活発な意見交換や、個々の生徒が自己の役割を認識し主体的な取組ができるように工夫した。

４　評価方法

弁当アイデア提案のプレゼンテーションにおいて、生徒による相互評価(評価用紙に記入)を行い、発表後には質疑応答の時間を設け、GoodJobカード(良かった点を記入するカード)に記入し、お互いに交換し合った。

５　成果と課題

校外のコンテスト応募や企業連携などの取組において、課題発見、市場調査、情報収集、整理・検討、商品企画という学習活動を通して、地域を探求し主体的かつ実践的な取組を行うことで商品開発を行う当事者の視点を持って、商品について理解を深めることができた。また、グループ学習により他者と協働して取組む活動を通して、対話力、協調性、プレゼン力が身に付いたと実感した生徒もいた。一方、科学的根拠に基づいた商品の考案としては十分なものに至らず、今後はビッグデータを用いた情報分析や地域の有識者へのヒアリングなど、データ活用の指導を行い根拠に基づく説得力を持った商品の考案を行うような指導方法の研究が必要であると考える。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
						○		○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	長崎県	学校名	長崎県立佐世保商業高等学校

１　科目名「商品開発」

対象は情報マーケティング科マーケティングコース２年生の５７名。

３単位（必修）である。

２　授業概要

ケーススタディおよび商品開発実習をおこなう。

ケーススタディでは，企業の具体的事例（ケース）について，個人研究，ペアワーク，グループ討議，クラス討議などによって理解を深め，商品開発の意義や手順を学ぶ。また，２学期後半からは探究活動として，地域の事業所の協力を仰ぎ，商品開発実習を行う。能動的活動を通じて，主体性や創造力など将来，ビジネスの主体者となるために必要な人間性の向上を目指す。

ケーススタディについては，教科書全７章のうち６章について，章末の演習課題として実施する計画である。１ケースあたり２時間で完結する計画である。なお，詳細は以下のとおりである。

５月・・・・第１章「商品と商品開発」　章末に３ケースを取り扱う
６月・・・・第２章「商品の企画」　章末に３ケースを取り扱う
７月・・・・第３章「商品の開発」　章末に２ケース取り扱う
９月・・・・第４章「商品開発とデザイン」　章末に３ケース取り扱う
１０月・・・・第５章「商品開発と知的財産」　章末に２ケース取り扱う
１１月・・・・第６章「商品流通と流通を支える活動」　章末に１ケース取り扱う
１２月以降・・商品開発実習・プレゼンテーション

３　授業実施上の工夫

書籍やインターネット等から各単元の内容を学ぶにふさわしい事例を選び，平易な表現に修正したり，挿絵を入れたりするなどして生徒が学習に取り組みやすいようなケース教材を作成した。

また，単元の勘所を押さえつつ，生徒の向学心を高められるような発問を設定するよう工夫した。

４　評価方法

ケーススタディでの生徒の活動や成果物（レポート等）について，ルーブリック評価表を作成し，それにもとづいて評価する。ルーブリック評価表により教師の評価と生徒による自己評価の両方を行う。なお，ルーブリック評価表については，評価項目や評価規準について定期的に加除修正し，生徒の活動を適切に評価できるよう工夫する。

５　成果と課題

生徒の学びに向かう姿勢はよくなっている。また，授業での学びを卒業後に生かそうとする姿勢が見うけられる点は成果である。一方，ケーススタディは授業者の力量が問われるため，授業力の向上を図るための取組を継続しておこなう必要がある。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○		○			○	○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	兵庫県	**学校名**	兵庫県立神戸商業高等学校

１　科目名「商品開発Ⅱ」

商業科3年生、3単位、選択必修、（2年「商品開発Ⅰ」から継続履修）

２　授業概要

2年生での「商品開発Ⅰ」では、商品開発の「0から1」としてアイデア創造の作法を学習した。そして、商品開発の「1から10」として地域企業とコラボレーションし、地元産品を使用した商品を企画、製造、販売した。これらの学習の発展として3年生での「商品開発Ⅱ」では、開発商品をいかに売り込むか、企画をいかにプレゼンするかといった、アイデアを“伝える”ことに焦点をあて、プレゼンテーション能力の育成と評価を重視した授業を実践した。

①プレゼンテーションの理論を学習

プレゼンテーションを知識・技能面から理論的に学習するために国際プレゼンテーション協会主催のプレ検公式テキストを参考に学習した。また、アイデア創造の作法で学習したスキット（寸劇）を使用することを推奨した。

②プレゼンテーションの実践－プレゼントーナメント

プレゼンテーション課題を設定し、個人でのプレゼンテーション発表をトーナメント方式で行った。第1次予選で敗退した生徒が予選通過した生徒とチームを結成し、第2次予選はチーム対抗で行った。第1次予選、第2次予選、決勝戦へと進む際、プレゼンテーションの相互評価表をもとに省察を行い、改善を促した。右の写真は、英語を使用した場面を想定し、本校ALTをゲストとして招きプレゼンテーションの中でスキットを行っているものである。

③プレゼンテーションの評価

山本他（2010）「学生の相互評価によるプレゼンテーション能力向上」が提案した評価手法を参考に作成した相互評価をもとに評価した。

商品開発　プレゼンテーション相互評価表

発表者氏名（　　）　評価者氏名　3年　組　番（　　）

評価項目	評価内容	小計
発表態度（当てはまるものにチェック）	1 □ 聴衆を意識しながら話している（アイコンタクト）	チェック数
	2 □ 熱意が伝わった	
	3 □ ボディランゲージを交えながら話している（直立不動ではない）	
話し方（当てはまるものにチェック）	4 □ 大きな声で発表している	チェック数
	5 □ 適度なスピードである	
	6 □ 適切な間をとりながら話している	
	7 □ メリハリがある（抑揚）	

評価項目	評価内容	評価
構成内容	8 ■ 全体のテーマを説明している	1できていない　2できている　3よくできている
	9 ■ 聴衆のベネフィットが説明できている	1できていない　2できている　3よくできている
	10 ■ イントロダクション（導入）、ボディ（展開）、コンクルージョン（結論）と全体的にまとまっている	1できていない　2できている　3よくできている
	11 ■ ロードマップ（大項目1～2～3）が明確である	1できていない　2できている　3よくできている
	12 ■ 説得力がある	1できていない　2できている　3よくできている
	13 ■ 次へのアクションが示されている	1できていない　2できている　3よくできている
視覚資料（パワーポイント）	14 ■ イラリック体や大字などを使い、見やすく工夫されている	1できていない　2できている　3よくできている
	15 ■ イラストなどを入れて見やすくしている	1できていない　2できている　3よくできている
	16 ■ グラフや図などが効果的に使われている	1できていない　2できている　3よくできている
	17 ■ 視覚に訴えかける工夫がされている	1できていない　2できている　3よくできている

商品開発　プレゼンテーション　達成目標

評価項目		評価内容
発表態度		□ 背筋がよく伸びている（姿勢が良い）
		□ 聴衆の方へ体を向けて話している
		□ 聴衆を意識しながら話している（アイコンタクト）
		□ にこやかな表情である（表情が豊かである）
		□ 適度の緊張感をもちながら話している
		□ 与えられた時間をフルに活用している
		□ ボディランゲージを交えながら話している（直立不動ではない）
		□ 機器の操作を的確にこなしている（スムーズである）
話し方		□ 滑舌がよい
		□ 大きな声で発表している
		□ 声がなめらかである
		□ 適度なスピードである
		□ 適切な間をとりながら話している
		□ メリハリがある（抑揚）
		□ 誰が聞いても分かることばで話している
		□ 「エー」や「あー」などの不要な言葉がない
構成内容	導入（イントロダクション）	■ 全体のテーマを説明している
		■ 背景が明確である
		■ 目的が明確である
		■ 聴衆のベネフィットが説明できている
		■ 聴衆の興味をひくようなイントロが工夫されている
		■ ユーモアを交えている
	展開（ボディ）	■ インロダクション（導入）、ボディ（展開）、コンクルージョン（結論）と全体的にまとまっている
		■ 意見とそれを裏付ける情報が論理的に展開されている
		■ 事実の事例が詳細である
		■ 簡潔に書かれている
		■ 分析が十分になされている
		■ 何らかの方法論（演繹法・帰納法・弁証法など）を用いて説明している
		■ ロードマップ（大項目1～2～3）が明確である
	結論（コンクルージョン）	■ 結論がよく導きだされている
		■ 説得力がある
		■ 次へのアクションが示されている
		■ 感動的なクロージングである
視覚資料（パワーポイント）	内容	■ 適切な情報・材料が集っており、要求された内容が記述されている
		■ ボディ（展開）の中でロードマップが示されている
		■ 適切なスライドの枚数である
		■ 発表時間が守られている
	文章構成	■ 論理的な順序で記述されており聴衆が内容を容易に理解できる
		■ 文字が適切なフォントで書かれている
		■ イタリック体や大字などを使い、見やすく工夫されている
	ビジュアル化	■ イラストなどを入れて見やすくしている
		■ グラフや図などが効果的に使われている
		■ 色使いが工夫されている
		■ 視覚に訴えかける工夫がされている
発問・質問への対応		■ 聞き手を惹きつける発問をしている
		■ 質問への例証に答えている
		■ 質問に簡潔に答えている

４　評価方法

①評価シート：生徒はルーブリックを用いたプレゼンテーション相互評価表、教員は教員用の評価表を作成し、得点配分を事前に担当教員間で決定し、得点化を試みた。

②評価者：1次予選、2次予選では、生徒の相互評価と担当教員による評価を行い、決勝戦では、授業担当外の教員を審査員として迎え審査を行った。

５　成果と課題

成果①プレゼンテーション力の向上：授業後の生徒アンケートでは「相互評価の改善の指摘から、最初の頃よりもパワーポイントの作り方が上手くなり、何を伝えたらいいのかが理解でき成長したと感じた。」など、他者に評価してもらうことで自分のプレゼンテーションの改善につながったという意見が多かった。

成果②プレゼンテーション評価能力の向上：アンケートでは「自分で自信がなかったところを褒めてもらえたり、自分で自信があると思っていたところが評価されていなかったりということから、自分と他者の評価の違いを知った。」など、プレゼンテーション評価能力の向上にもつながった。

課題：プレゼンテーションの評価を教員間で共有・改善・蓄積していくこと、生徒に対してはポートフォリオとして記録していけるような評価手法の開発・普及が課題である。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○	○	○		○	○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	京都府	学校名	京都府立京都すばる高等学校

１　科目名「広告と販売促進」

２年生、２単位、企画科必修科目（新学習指導要領では「マーケティング」で展開予定）

２　授業概要

４月	オリエンテーション、「学びあい」の説明と練習
５月	１章「販売促進」、２章「広告」
６月	３章「広報」
７・８月	「京都広告賞」ラジオCM原稿制作と応募
９月	４章「店舗の立地と設計」、５章「販売員活動」
10月	６章「時代に応じた販売促進」、コピーライター講演会
11月	「宣伝会議賞」キャッチコピー制作と応募、 販売実習「京都すばるデパート」に関連した内容
12月・１月	CM制作実習
２月	ポートフォリオ作成、まとめ

３　授業実施上の工夫

・教科書の内容は、すべて３～４人のグループで「学びあい」を行う。事前に割り当てた箇所をグループ内の一人が予習・準備し、他の生徒に説明したあと、グループ内で質疑応答を行う形式。
教員の補足説明は最低限にとどめる。
（写真は実教出版の教科書P34・35「広告表現の要素」の「学びあい」の様子）

・コンテストや外部講師を活用する。

４　評価方法

グループ内で相互評価を行い、準備や当日の発表、質疑応答の活発さなどを評価し合う。
その際、相互評価の意図と効果を丁寧に説明することで、相互評価の客観性と妥当性が増し、「納得感」のある評価につながる。

５　成果と課題

成果：自分の担当箇所について、実物を持参したり紙芝居を作ったりするなど、主体的に取り組む生徒が大幅に増えた。
課題：TTで担当しているが、同時に多くの班の発表が行われるため、せっかく良い発表をしていても教員がそれを発見できない時がある。（机間指導の方法に工夫が必要）

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○	○	○	○	○	○			○	○		○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	石川県	学校名	石川県立金沢商業高等学校

１　科目名「観光実務Ⅱ」

自由選択　観光サービスコース（観光コース）３年生１４人　３単位

２　授業概要

４月から７月　後半の授業に繋げるために、国内旅行業務取扱管理者試験の内容を学習

９月から　日帰りバスツアーの企画　・旅行会社の方から講義・指導
・班ごとにコース作成、プレゼン

日帰りバスツアーの販売促進　・出来上がったバスツアーのちらしを作成し、ターゲットに対し営業活動を行う。

１月から　修学旅行プランの作成　・修学旅行３泊４日の修学旅行プランを作成する。

※本校の株式会社は、国内旅行業務取扱管理者の有資格がいることにより、旅行代理業の登録をしている。そのことにより、実際に作成したプランを親会社に提案し、実際に販売を行っている。

３　授業実施上の工夫

・募集型企画旅行の市場調査、企画、販売までの一連の流れを約4か月かけ一人１案企画させている。
・生徒が興味ある都道府県のプレゼンを３回実施し、その都度それぞれの企画案をブラッシュアップしている。
（１回目：各自が選択した都道府県のプレゼン、２回目：地区（北陸、関東、東海）ごとグループ分けし、グループでのプレゼン、３回目：行先決定後の行程についての分析結果をプレゼン）
・添乗も生徒が行っており、お客様に喜んでいただけるような内容についてグループで討論している。

４　評価方法

・評価記入表に生徒の発言や行動など具体的に記入し評価している。
・プレゼン、チラシの工夫を評価表にて記録し、授業後に担当教員と生徒が振り返りをした上で評価する。

５　成果と課題

・生徒同士の振り返りの時間、各プランが実施可能かを真剣に考えている。
・答えがない課題に対し、成果を上げなければいけないので実践的な学習ができる。
・評価表があるが、評価の信頼性を高めることが難しい。
・話すことは苦手だが、意見をしっかり持っている生徒が評価という点で、不利にならないように配慮する必要がある。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○			○	○	○	○	○		○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	福井県	学校名	福井県立奥越明成高等学校

１　科目名「観光」（学校設定科目）

ビジネス情報科２年２単位　全員必履修

２　授業概要

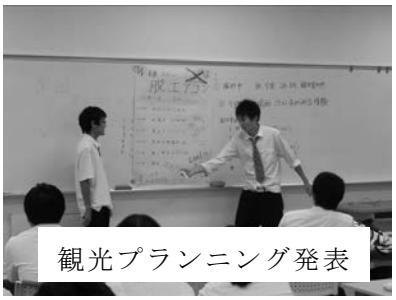
１　観光を学ぶ意義（観光学とは　観光の概要）
２　身近な観光関連ニュースの検索と活用、発表
３　観光統計を使った検証（全国、福井県、奥越地域など地域特性の理解）
４　全国における観光関連の取り組みの検証（ビジネスモデルの理解）
５　福井・奥越を考える、ふるさと福井・奥越を想う（魅力の認知とＰＲの考察）
６　福井・奥越からの発信（情報発信の実践）
７　地域づくりを考える（地域観光人材としての基礎作り）

３　授業実施上の工夫

フィールドワーク（観光資源の再認識・観光客へのインタビュー調査など）、集団での思考・発表など様々な授業形式を取り入れる。

地元観光ＰＲポスター制作を行い、地元金融機関のロビーや地元の保養施設、公民館などで発表する。

校外で行う学習会（奥越の観光を考える座談会）等への参加を通して、学習知識の定着を図る。


観光プランニング発表

４　評価方法

以下を総合して評価している。

積極的に参加（準備、発言等を含めて）しようとしているか。
各種提出物の提出状況。
発表、ワークシートの活用等を通して探求心や発想力、独自性、協調性をみる。
板書をはじめ、考察や作品が生徒独自の視点で作成されているか。
作品の自己評価・他者評価。

５　成果と課題

フィールドワーク、集団での思考、発表、校外での学習会など様々な授業形式を取り入れることにより、生徒の可能性を多角的に引き出すことができている。

課題としては、フィールドワークや座談会への参加に向けて周到な事前準備に時間がとられることである。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	徳島県	学校名	徳島県立徳島商業高等学校

１　科目名：観光に関する学校設定科目（または特色ある授業）について。

学校設定科目「観光ビジネス」　商業科　ビジネス経済学科　3 年生　2 単位　必修

ねらい・目標　・観光ガイド，商品開発力を持った人材の育成

・地域観光資源を創出した観光ツアーをプロデュースできる人材の育成

２　授業概要

「観光ビジネス」では，まず観光のしくみ，観光資源，観光事業と組織，観光がもたらす様々な効果など，観光ツアーを企画するために必要な基本的知識の習得を図っています。徳島の観光資源について研究した成果を活かし，1 班を 4 から 5 名程度に分け，8 つのグループで観光ツアーのプランを企画するとともに，専門家の方々に対しプレゼンテーションを行い，評価及びアドバイスをいただいています。

３　授業実施上の工夫

授業以外での，学校の観光の取組について紹介します。

生徒会組織（地域創生委員　観光チーム）

概要　地域創生委員とは，生徒会の委員会の一つとして平成 29 年度に設立した委員会です。「商業全般の活動を通して，地域活性化に寄与する活動を起こしていくこと」，「各クラスに広く伝え，クラスのリーダーを育成すること」を目的として，全クラスから希望者を募り 51 名の委員を４つの担当に分け活動を行っています。観光チームは，現在徳島県の南部（美波町椿谷地区）を対象として，新たな自然体験型観光を創ろうとしています。具体的には，ＺＩＰラインを中心としたアクティビティ観光です。昨年は，JICA と連携した外国人ツアー，小学生を対象としたツアーの 2 本のツアーを計画・運営しました。

観光ツアーのプレゼンの様子

アクティビティ観光の様子

４　評価方法

考力・判断力・表現力についてルーブリックなどを含めて，評価を行っている。

５　成果と課題

観光に関する学校設定科目（または特色ある授業）の課題について。

学校設定科目「観光ビジネス」の一番の課題は，授業評価に関することが挙げられます。

昨年までの反省を踏まえて授業内容を精選し，実施スケジュールなどを修正しましたが，思考力・判断力・表現力についての評価の検討が不十分であり，ルーブリックなどを含めて，再度，修正・検討していく必要があります。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください。

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○	○	○		○		○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	福岡県	学校名	福岡県立折尾高等学校

１　科目名「広告と販売促進」

本校は総合ビジネス科、ビジネス情報科、生活デザイン科を有する専門高校である。「広告と販売促進」は総合ビジネス科３年次において、「管理会計」「国語表現」との選択授業のうちの一つとして開設している。選択している生徒は全員が１年次に「ビジネス基礎」、ほとんどの生徒が２年次に「マーケティング」を習得しているため、商業経済分野の学習のまとめとして授業としての意味合いも持っている。

２　授業概要

本校における本科目の特色は新学習指導要領にも記載されている『産業教育における「見方・考え方」』の育成を目指していることである。本科目では、日本マクドナルド株式会社と株式会社デサキの御協力を頂き、ＰＢＬ（プロジェクト学習）の手法を取り入れて指導している。

指導計画は、９月に企業側から課題提示（昨年度は「マクドナルドを経営するフランチャイズ法人である（株）デサキの次期後継者候補の一人として、自社のビジネスを成長させるチャンスを考え、経営陣に提案する。」）、１０月に中間発表、１２月に最終発表を行う。グループワークや全校生徒へのアンケート調査、マクドナルド店舗や近隣の小売店へのインタビュー調査を通して、課題解決に取り組んでいる。中間発表や最終発表では、生徒のプレゼンテーションに対して良かった点や不十分な点を経営陣の立場からフィードバックされ、今後の社会人として必要なコミュニケーション能力を身に付けている。

３　授業実施上の工夫

本校が福岡県から「新たな学びプロジェクト」の研究指定校を受けたことから始まり、マクドナルドとの連携授業は本年で４年目を迎えている。アクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、社会人として求められる活動とは何かということを常に考えさせながら課題解決に取り組ませている。タブレットや電子黒板といったＩＣＴも積極的に活用している。授業担当者も企業の方と連絡を取ってアドバイスを頂き、企業理念について学び続けることが必要である。

４　評価方法

本科目の評価方法は、本校教務規定に則り、定期考査５０％・活動点（平常点）５０％で評価している。活動点では授業時における小テストや提出物に加えて、毎回の授業後に記入させているリフレクションシートや、中間発表と最終発表を企業・授業担当者・履修生徒がルーブリックを用いた評価も対象としている。また、グループワークが多いため、最終発表後にはグループ内での貢献度を生徒達にルーブリックを用いて相互評価させ、評価の参考にしている。

５　成果と課題

成果として、マクドナルドの店舗や近隣の小売店に連絡を取り、生徒が休日や放課後の時間にインタビュー調査をすることによって、「地域や産業界との連携・交流」を実現していることである。生徒が独自に質問項目を考え、インタビューすることによって、発表に説得力があるように感じられる。

課題として、連携授業が本年度で４年目を迎えていることもあり、生徒の活動内容に変化がないため、新たな調査研究の手法を取り入れる必要があると感じられる。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
			○		○			○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	沖縄県	氏名	沖縄県立名護商工高等学校

１　科目名「広告と販売促進」

商業科２年オフィスビジネスコース　必修３単位
単元：第４章店舗の立地と設計　３節　商品の棚割りと陳列

２　授業概要

①小売店（スーパーマーケット・ドラッグストア・ディスカウントストア）の陳列方法について調べ学習を行う。実際に店舗にて写真を取り、その陳列方法の利点・欠点をまとめ、グループごとに発表を行う。
②各グループで与えられたテーマについて、販売員目線でディスプレイを計画し、関連購買の有効性や陳列方法を確認させる。グループごとに発表を行い、生徒同士で相互評価を行う。

３　授業実施上の工夫

①ルールを設定する。（グループ全員で作業を行う、批判ではなく改善点を指摘する）
②調べ学習については、タブレットも活用する。
③机間指導については、生徒に主体的に学習させることを意識し、活動を促す声掛けを中心とする。

４　評価方法

①グループ活動への参加状況を含む授業の取り組みについて、関心・意欲・態度の観点から、観察による評価を行う。
②調べ学習及び発表内容について、思考・判断・表現の観点から評価を行う。
③他グループの発表内容をワークシートに記入させ、その内容について知識・理解の観点から評価を行う。

５　成果と課題

成果
　主体的・対話的な学習活動
課題
　評価方法の工夫

６　この授業で実践している【学習活動例】

※＜別紙＞の《知識及び技術》、《思考力、判断力、表現力等》、《学びに向かう力、人間性等》の学習要素ごとに示した【学習活動例】①～⑫の中から該当する学習活動をお答えください。（複数回答可）

※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○						○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	兵庫県	**学校名**	兵庫県立神戸商業高等学校

１　科目名「貿易実務アドバンスド」

商業科３年生、３単位、選択必修、（２年「貿易実務」「グローバルビジネス」から継続履修）

２　授業概要

グローバルな人材へと成長することを目指し、２年生から貿易に関する様々な慣習やルール、さらには相手先と英語でコミュニケーションを取るためにビジネス英語も学習した。また、貿易に関する仕事に従事している方を招き、普段の授業で生じた疑問点などを講義形式で学んだ。７月には貿易会社のインターンシップに参加し、グローバルに働く意義を学んだ。

３年生の貿易実務アドバンスドでは、実際に貿易を行う。２年時から学んできた知識を使って実践することで、具体的な課題を見つけ、解決する力を養うことを目的としている。

３　授業実施上の工夫

貿易は以下の流れで実施予定であるが、少量少額でも実現可能な取引先を探すことは困難である。前年度からお世話になっている貿易アドバイザー協会の方にバングラデシュ、マレーシアの業者を紹介していただいた。どちらの業者ともフェアトレードで貿易を実施し、異文化理解の重要さを指導している。また、輸入通関作業を業者ではなく生徒に実践させるため、７月中旬に関西国際空港でDHLの通関業務を見学する予定である。

貿易の流れ
①取引先の模索
②メールで取引先と交渉
③輸入する商品の決定
④価格交渉
⑤輸入通関作業
⑥販売

４　評価方法

学習日誌：生徒に活動内容や反省点、自己評価を記述させ得点化を試みた。

５　成果と課題

成果①「貿易実務検定C級」合格：２年生の段階で３名が合格した。今後も継続して検定に取り組む予定である。

成果② 職業観の育成：貿易実務で得た知識が追加されることで、職業観に変化が生じた。

・美容師として働くだけではなく、海外からシャンプーやワックスなどを輸入して販売したい

・通関士として働きたい　等

課題① 考査以外の評価手法に課題がある。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○		○					○			○	○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	香川県	学校名	香川県立三木高等学校

１　科目名「流通実践（学校設定科目）」

履修学年　3年　　単位数　各2単位　　履修形態　総合学科流通系列選択者（４～７名）

２　授業概要

【中学生に出前授業　２０１７年度】

生徒に地元のことを知ってもらうこと、および商品開発や地域活性化（小蓑地区）の取り組みに生かすため、地元企業経営者との座談会を実施。座談会の内容に加え、自分たちが学んでいる商業のことを中学生に伝える出前授業を行った。出身中学校にて高校生が先生役となり授業形式で実施した。経営者からのメッセージや商業科目の学びをアウトプットすることは、学んだ知識が本物の力となり生徒自身の大きな変化につながる。

【つなぐ会議の開催　２０１８年度】

昨年度の座談会を拡大し企業経営者に加え、行政・地域住民が参加する会議を実施。生徒が会議の内容を決定し議事進行も行う。生徒の活動（商品開発や過疎地域活性化）に対するアドバイスを中心にさまざまな立場の方から率直な意見をもらう。「本物のビジネス体験」を目指して4回実施した結果、小蓑地区でのイベントの開催（ウォーキング大会）につなげることができた。

【英語でディスカッション　２０１８年度】

地域活性化の取り組みの一つとして、外国人講師を招き英語でディスカッションを行う授業を実施した。英語を使うことで普段とはちがう発想ができること、アイデアが生まれることを期待し「情報発信」をテーマにディスカッションを行った。英語でディスカッションを行うことの意義、外国人の視点をふまえた過疎地域活性化につながる情報発信の方法について考えることができた。

３　授業実施上の工夫

（1）本校の活動は地域の方々、外部講師、地元企業の協力があり実施できている。生徒は入れ替わるが、教員が継続してつながりを持ち続けることが実施する上でポイントとなる。外部の方には、学校の授業の一環で実施していることを理解していただくことが最も大切である。生徒の勉強であること、生徒の成長が目的であるということを理解して協力してくれる外部の方のおかげで本校の活動は継続できている。さらに、地域の現状を常に把握し、学校主導にならないことも大切である。

（2）生徒が中心となり活動を行うことが大切である。生徒による意思決定を尊重し計画・実施など生徒中心で行うことで生徒は成長する。そのため教員の役割は、大きな道筋をイメージしながら見守ることである。失敗を歓迎し、完璧を求めず、口出しをせず、とにかく待つことを心がけている。

４　評価方法

活動の内容は毎回Ａ４用紙１枚にまとめて提出する。この用紙には、活動内容と自分の考え、自身で決めた目標に対する達成度を記入する。さらにレポート作成、自己評価、他者評価、ルーブリック評価を行う。学年末は1年間の活動のまとめを、一人ずつプレゼン形式で発表する。

５　成果と課題

地域の大人とかかわることで生徒は大きく成長する。企業経営を学び、地域の課題に取り組むことは商業で学んだ知識を実践すること（アウトプット）につながり、生徒自身の本当の力となる。さらに、将来は地元に貢献したいと考える生徒も現れている。

課題は「継続」である。学校の都合で地域とのつながりが中断しないよう、継続して実施できる体制作りが課題である。また、活動に対する本校の生徒・教員の認知度向上・理解も課題といえる。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
						○		○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

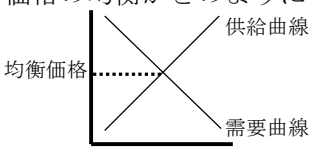
都道府県名	山口県	**学校名**	山口県立柳井商工高等学校

１　科目名「ビジネス経済」　２年流通類型（選択必修）　２単位

２　授業概要　第３章　価格決定と市場の役割　第１節　価格決定のしくみ

＜授業のめあて＞

需要供給曲線図を、ワークシートと授業内の設問によって作成し、価格の均衡がどのように決定するか深く思考する。



＜授業展開＞

１　生徒を需用者（買い手）、教員を供給者（売り手）とする。

２　一般的な菓子を生徒に示し、以下の発問を順に行う。また需要数・供給数をワークシートのグラフに記入し需要曲線、供給曲線を完成させる。

	発問例	想定される反応	指導
発問１	「このお菓子を １ 本３０円で売ります。買いたいと思う人は挙手してください。ただし販売数は３０本です。」	買いたい生徒は０人。	３０円では売れ残りが大量に発生することに気づかせる。
発問２	「ではお菓子を １ 本１５円で売ります。買いたいと思う人は挙手をしてください。ただし販売数は２０本です。」	数人の生徒が買いたいと手を上げる。	利益が減るため、売り手が販売数を減らすことを理解させる。
発問３	「どうすればすべての人が買うことができるようになるでしょうか。」	価格をさらに下げる。	
発問４	「ではお菓子を１本５円で売ります。買いたいと思う人は挙手をしてください。ただし、売り手は損をしたくないので販売数は１本とします。」	すべての生徒が買いたいと手を上げる。	売価５円では品不足が発生することを理解させる。
発問５	「これまでの状況を踏まえ全員が納得する価格はどの程度になるか考えましょう。」	需要曲線、供給曲線の交点に近い価格を上げる。	自らの意見を言語化して、ワークシートなどに表現させる。
発問６	「ではお菓子を１本〇〇円（生徒の意見から決定）で売ります。買いたいと思う人は挙手をしてください。ただし販売数は１５本です。」	多くの生徒が手を上げる。	均衡価格に近づけたことで、売買が成立する取引が増えることを理解させる。

３　授業実施上の工夫

価格均衡点について、クラス内の意見によって成立することを、生徒が実体験できるようにしている。また均衡価格をグラフを用いて生徒自身に発見させるようにしている。

４　評価方法

生徒のワークシートを回収して、授業への関心や均衡価格の思考について評価する。

５　成果と課題

（成果）均衡価格について、生徒は中学校公民で学習している。そこでより具体的・専門的な授業を行ったことで授業に対してより興味をもち、理解が深まった。

（課題）生徒の意見により授業内容が変化するので、結果や意見を十分想定しておく。実際の授業では価格を５円にして意見を聞くと「安すぎてあやしい」という生徒が見られた。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに〇印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
〇				〇	〇			〇			

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	高知県	学校名	高知商業高等学校

１　科目名「ビジネス経済」

履修学年（学科・コース）			履修形態	単位数
２年	総合マネジメント科	ライセンスコース	必修	２単位
	社会マネジメント科	国際コース・地域実践コース	必修	３単位

２　授業概要

学習の流れ	詳細
①到達目標およびプロセス評価の明示	【到達目標】あなたがもし、国の予算編成を組むならどのような項目に力を入れるべきであると考えるか２００字以上で論述し、他者にプレゼンテーションできる 【プロセス評価】①プレゼンテーション力→伝えるプレゼンではなく、伝わるプレゼンをしているか　②コミュニケーション力→他者との対話から自分の言葉・行動を変えているか
②学習の目的確認及び実社会での活用明示	日本の財政に関する動画を視聴させ、なぜ学ぶのか・実社会でどのように活用してほしいのか学習の意義を伝える
③output（個人発表）	事前課題で作成したシートを元に個人が根拠やデータを用いて他者にプレゼンテーションを実施
④Groupthinking（集団で協議→brushup）	他者との対話、気づきから個人の考えを再思考する
⑤output（個人論述）	自己が考える国の予算編成を２００字以上で記入
⑥Classiへの振り返り	教員がClassiに配信した内容をタブレットにて回答
⑦Presentation（個人表現）	ペアになって論述内容をプレゼンテーション
⑧まとめ（全体共有）	Classiの回答内容をスクリーンに映し、学びを共有
⑨次時課題の提示	国の社会保障制度に関する課題を提示

３　授業実施上の工夫

【ルーブリック評価表の活用】　パフォーマンス評価を明確にするため、事前に論述・プレゼンのルーブリック評価表を配布し、生徒のプレゼン力・レポート力について客観的視点から評価できるように工夫した。

【事前課題の提示】　「自己が考える国の予算編成」をテーマに事前課題としてＡ３用紙に作成させてくることで、個人によるプレゼンテーション（アウトプット）から授業を開始することができた。これにより個人がデータや数値を用いたプレゼン及びグループ協議が可能となり、論理的思考、根拠のある話し合いがなされた。その結果、最終的に個人の論述及び表現力も質が高いものとなった。

４　評価方法

【ルーブリック評価表を応用】→到達目標６０点＋プロセス評価４０点（計１００点）にて評価できるように独自のシートを作成。これにより、生徒個人の５０分授業を計１００点で評価した。

５　成果と課題

【成果】到達目標及びプロセス評価を合わせたルーブリック評価表による評価の見える化

【課題】あらゆるパフォーマンスに対応できるルーブリック評価表の作成及びその内容の充実

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○			○	○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	高知県	**学校名**	高知商業高等学校

１　科目名「ビジネス経済」

社会マネジメント科　国際コース２年（３単位・必修）【講義理解型】

２　授業概要

本科目は社会の経済活動と密接に結びついた科目であるため、導入においてその単元に応じた新聞記事やニュース映像などを活用し、生徒たちの興味関心を引きつける。また、社会時事について問題提起を行い、その後、本時における「到達目標」と授業へどう取り組んでほしいかを示す「プロセス評価」を示し、授業の見通しを立てる。

展開の部分では、「講義理解型」と「ワークショップ型」という２つの授業スタンダードで実施する。「講義理解型」の授業スタンダードでは、展開の時間は約２５分間である。授業展開の25分間では、導入で提示した問題の原因・理由やその解決策について、具体的な数値や用語を挙げながら講義を実施する。様々な事例や資料を明示するが、その講義における「論点」を絞ることで、生徒たちに「知識・理解」として何を身につけさせたいのかを明確にする。

その後、講義内容について、「講義理解力試験」を実施し、講義した際に生徒が記述したメモ用紙のみを参考にさせ、記述・論述問題に取り組ませる。

３　授業実施上の工夫

（１）板書を写すのではなく、メモを取る。

従来のように教員が板書したものを、ノートに書き写すのではなく、教員が講義した内容をメモさせる。また、メモは「用語」「数値」「データ」を正確に記述させる。

（２）質問・発問は一切しない。

講義理解力では教員の講義をいかに正確にアウトプットできるかどうかを評価する。そこで、講義中の発問や質問・対話は実施しない。

（３）アウトプットにおける記述・論述問題

約25分間の講義後に取り組む論述問題は、生徒が講義でメモを取らないと解けない問いとし、「何行以上」「何文字以上」等、具体的な数量を指示し、以下の問いを提示する。

①「知識・理解」を問う問題

講義で得た知識を正確にアウトプットさせる。

②「思考・判断・表現」を問う問題

講義で得た知識を基に、生徒自身の考えを論述させる。また論述問題の中では「立場」や「根拠」「理由」等を明確に記述させる。

４　評価方法

「到達目標」と「プロセス評価」を項目としたルーブリック評価を行う。授業への集中力やメモの量を生徒自身に自己評価させ、論述問題については、ペアで交換して採点、評価を行う。

５　成果と課題

【成果】講義理解力型授業を繰り返し実施することで、「生徒のメモの量」「授業への集中力（授業中誰も寝ない)」「論述文の量・質」が向上した。生徒自身もルーブリック評価を活用した自己評価において、自身の成長を実感している。

【課題】生徒が講義を通して、単語や用語の意味を正確に理解できているか、また生徒の論述文の内容・質が課題となっている。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○	○						○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	三重県	学校名	三重県立四日市商業高等学校

１　科目名「ビジネスマネジメント（学校設定科目）」

履修学年　情報マネジメント科３年マネジメントコース52名　　単位数　５単位（必修）

２　授業概要

授業の目標

企業の財務諸表を用い、同業他社の経営分析を行い、発表する能力や技術を習得する。地域の活性化や街づくりなどについて、具体策を立案・提案できる能力や技術を習得する。

学習内容

○有価証券報告書を用いた財務諸表分析の基礎学習

（学習のねらい）経営分析に関する基礎知識を身につける

○５分間個人スピーチ　テーマ「同業他社２社による経営分析結果について」

（学習のねらい）実際の企業の財務諸表を読み解く能力を身につける
発表する能力や技術を習得する

○グループ学習　テーマ「ケーススタディ　家電業界の再編について」

（学習のねらい）チームでの話し合いや意見交換等を通して、企画、・計画力、情報収集能力、コミュニケーション能力などを身につける

○グループ学習　テーマ「地域の活性化について考える」

２０１９年度テーマ「四日市あすなろう鉄道の活性化案を提案する」

四日市あすなろう鉄道の経営分析を行い、分析結果をもとに四日市あすなろう鉄道の活性化案を立案・提案する。NPO法人四日市の交通と街づくりを考える会（YTT）や四日市あすなろう鉄道、鈴鹿大学等と連携し、高校生の視点から街づくりを考える。

（学習のねらい）話し合いや意見交換等を通して、企画、・計画力、情報収集能力、情報活用能力、コミュニケーション能力などを身につける
学校外のさまざまな方々との関わりの中で、社会人として必要な挨拶、マナーを身につけると同時に、人の意見を聞く力、自分の意見を伝える力、状況に応じて適切な判断をする力など総合的な力を身につける。

３　授業実施上の工夫

情報マネジメント科マネジメントコース３年生の総合実践・課題研究分野の中核をなす科目として位置づけられているため、３年間で身につけてきた成果を生かせる学習内容にすること。

卒業後の進路を見通して、地域の方たちとの関わり合いの中で、社会人として必要な能力や知識を身につけられるよう外部教育力を十分活用すること

４　評価方法

経営分析の基礎知識を問う定期考査、個人スピーチによる学習者間による相互評価、ケーススタディ・グループ学習における役割に応じた評価（相互評価）、レポート作成におけるルーブリックを用いた評価など多様な評価手法を取り入れ総合的に評価をしている。

５　成果と課題

グループ学習等によりコミュニケーション能力や情報収集力・活用力、発表時の表現力などの向上が見られるが、グループ編成に多くの課題がある。グループによる学習意欲の偏りや人間関係によるトラブルなど毎年解決すべき課題は多い。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○		○	○			○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	大阪府	学校名	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校

１　科目名「ビジネスマネジメントⅠ」　〔グローバルビジネス科　第２学年　３単位　必修〕

【実践授業名】産学連携教室　　【期　間】６月から１２月の内　週１時間程度

【協　働　先】有限責任あずさ監査法人・株式会社ミレニアムダイニング・NPO法人JAE

２　授業概要

【テーマ】　Business　GAME　～究極のお弁当と究極の戦略～

あずさ監査法人の公認会計士のアドバイスを受けながら、企画・プレゼンテーションを繰り返していくなかで、ビジネスに関する専門科目で学ぶことがらが、実務で役立つという“実学”を実感することをめざす。取り組みで得た知識を活用するため、小学生に対して、ファシリテータとしてミッションを伝え一緒に実践していく。

【概要】

６～７名で班を構成し、お弁当を企画しターゲット・コンセプト・販売チャネルを決定する。販売チャネル（コンビニ・デパ地下・お弁当屋）の市場調査を行い、原価・売価・販売数を決定し多くの利益をねらうビジネスゲームを行う。結果をもとに決算書の作成、戦略の振り返り内容を含めたプレゼン大会を実施する。

高校生がファシリテータとなり小学生に対してミッションの説明、企画の仕方、実地調査の方法などをプレゼンテーションし、ともに新たなお弁当を企画する。

小学生および高校生が企画した新たなお弁当を相互に発表し、投票でグランプリを決定し、商品化をめざす。

【目標】

①学んだ内容を人に伝える力を養う　　②答えのない問題に対して考え抜く力を養う

③グループで協力して企画説明を行う　　④知識やスキルを活用する力を養う

３　授業実施上の工夫

①学んだ知識やスキルを人に伝え理解してもらえる喜びを感じる

②共同で企画することで、異年齢の考えや視点の違いを理解し視野を広げる

③アイディアを引き出すためにどのような発問が適しているのか考え進めていく

④自己肯定感を養う

「実学」のプログラムを通して、授業内で得た知識やスキルを活用する場面を設定することで、体験学習から一体何ができるようになったかを把握させ、今後の進路決定や学習意欲の向上に繋げた。大学・産業界との連携をはかり、よりリアリティのある授業の展開をめざしてきた。

４　評価方法　〔定期考査は実施しない〕

①グループワーク（貢献度・取り組み内容・成果物・プレゼンテーション）

②目標達成度（発言の質・取り組みを通して得たスキルと活用方法の把握）

５　成果と課題

普段の授業とは違った生徒の姿を見ることができる。生徒自身のキャリアをもう一度振り返り、自らの進路実現に向けて取り組むことができる。

６　この授業で実践している【学習活動例】

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	京都府	**学校名**	京都府立京都すばる高等学校

１　科目名「グローバルビジネス」

３年生、２単位、企画科必修科目（令和３年度に学校設定科目として開講予定）

２　授業概要

２学期に、外部企業（旅行会社）と連携し、訪日外国人向け京都ツアーの企画を行う。
あわせて、企業・留学生へのプレゼンテーション（英語）を行う。

９月	旅行会社による講演会、情報収集、企画
10・11月	企画書の作成、プレゼン練習、企業からのアドバイス
12月	企業・留学生へのプレゼンテーション、振り返り

３　授業実施上の工夫

・企業と連携して講演会やアドバイス、企画書やプレゼンの評価をしてもらうことで、
　現場の声から採算性まで考慮した、よりリアリティのある企画を提案できるようにする。
・英語科やAETと連携し、英語表現のチェックなどを行う。
・１学期に観光学の基礎を学び、学問的見地に基づいた企画にする。

４　評価方法

企画書やプレゼンテーションの相互評価のほか、企業にも評価をしていただく。

５　成果と課題

授業が未実施のため、成果と課題はないが、実施に向けて、提案した企画がツアーとして実現するような仕組みを、連携企業と考えていきたい。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	青森県	学校名	青森県立八戸商業高等学校

１　科目名「経済活動と法」

３学年　商業科（３単位）

第６章　法令遵守

単元目標：法令を遵守して企業活動を行うことの重要性を理解する。国内における紛争の予防と解決に関する法制度の概要および国際的な紛争が国による法制度の違いが一因となっていることを理解する。

本時目標：企業の起こした問題を主体的に考える。さらに企業の問題に対する防御策を立案する。

２　授業概要

・企業活動について法令遵守（コンプライアンス）の重要性を理解するため、企業が実際に起こした諸問題について、個人ワーク・グループワークにて主体的に考え、まとめる。

・法令遵守（コンプライアンス）の重要性についての考えをより多く深めるため、数多くの事例を知る。

・法令遵守（コンプライアンス）について、どのように企業が活動することが望ましいかをグループワークにてグループ内で意見をまとめる。

・法令遵守についてグループの意見をまとめ、発表する。

３　授業実施上の工夫

本校ではアクティブラーニング型授業を推進し、考える力とコミュニケーション力など、新しい時代に必要となる力を育む授業展開を推奨している。

そのため、グルプワークに適した環境（教室）を整備した。

ipad８台、Wi-Fi環境、教師用パソコン、プロジェクタ、ミニホワイドボードを整備し、台形型のテーブルはキャスター付きであり、脚を合わせて６人グループ用にするなど、自由に配置を変えることができる。

そこで、グループワーク中心に主体的・対話的な活動を行うことができ、ipadで調べ、ミニホワイトボードにまとめ、全体発表するという授業展開が可能である。

４　評価方法

・個人ワーク・グループワークでの活動状況

・グループ内での発表や全体での発表

・ワークシートの作成

・グループ活動での積極性や協調性

５　成果と課題

・他者の意見や他グループの意見を聞くことができ、多くの考えを共有することができる。

・主体的に考えることができるようになり、自らの考えを論理的に話せるようになる。

・グループ内で、他人任せにならないように、注意をはらう必要がある。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○	○		○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	埼玉県	学校名	埼玉県立吉川美南高等学校

１　科目名「経済活動と法」

Ｉ部全日制ビジネスクラス３年次・２単位・選択科目。

対象クラスは男子５名・女子１９名の計２４名。

２　授業概要

おおまかな年間計画は、１学期に法の意義と役割、権利・義務と財産権について、２学期に契約と債権、会社に関する法、企業の責任と法の一部について、３学期に企業の責任と法の残った単元及び年間の総まとめである。授業の随所で時事問題や実際の事例などを教材として取り上げ、それについて協調学習の手法を用いて対話・話し合いの機会を設けた。生徒同士の意見交換や教室内での考えの共有などを積極的に行いながら授業を行ってきた。

本授業は、２学期の企業の責任と法の「雇用（雇用・請負・委任及び労働基本法と労働三権）」の単元で、知識構成型ジグソー法の手法とＩＣＴ機器を活用した調べ学習を織り交ぜて実施した。メインの課題は「労働に関する法律が大きく変わる理由と、法律が変わることにより社会がどう変わるか考える」である。

２０１９年４月以降、５年間にわたって労働に関する様々な法律が変化してゆく中で、働く環境が変わる背景やその要因を理解するとともに、法の改正により社会の労働に関する意識や考え方はどう変わっていくのかを考えさせ、発表させた。加えて、労働者に与えられた権利についても理解させるよう教材を作成した。

３　授業実施上の工夫

知識構成型ジグソー法のエキスパート活動において、ＩＣＴ機器を活用した調べ学習を使った。また、ジグソー活動では模造紙と付箋紙を使い、個々の生徒の考えや意見を分類したりまとめたりしやすくなるよう工夫した。授業の進行にはタイマーを黒板に大きく投影して時間を意識させながら行うとともに、指示するときにはスライドを利用して、「今・何を・どうする時間か」など、活動内容を明確にさせるよう心掛けた。

４　評価方法

定期考査や提出物評価に加え、対話形式後の授業（知識構成型ジグソー法ではないものも含む）を実施した後には自己評価をさせ、それを評価の一環として扱った。自己評価は３段階の簡単なルーブリック評価と、授業を受けて自分はどう考えたかなどの簡単な記述である。生徒間の相互評価に関しては行っていない。

５　成果と課題

対話的授業は様々な形で継続的に行っていくことが必要であると感じた。継続して取り組んでいくことで個々の生徒の多様な資質や能力が発揮されるのだと思った。

加えて、定期的にアクティブ・ラーニングのような授業を実践することで、「生徒たちはどのように学ぶのか」という学びの想定（学びの見とり）がこちら側もだんだんと出来てくるので、実施するつど授業改善に繋がったように感じている。

一方で課題としては、既存の知識と新たな知識を組み合わせる力、各資料の活用と精査、横断的な思考力、適切な言葉でわかりやすく説明する力などの育成などが不十分だったことが挙げられる。これらの資質・能力の向上を意識して、より深い学びの実現に向けて努力していきたい。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○		○				○			○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	愛媛県	**学校名**	愛媛県立大洲高等学校

１　科目名「経済活動と法」　※履修学年　３年生、単位数　３単位、履修形態　必修

２　授業概要　：６章　企業の責任と法　　逆向き設計論による深まりのある学びの実践

(1)（教師主導型の一斉授業による知識の習得）単元全体の学習内容を構造化

６章の学習のねらいと課題を明確にし、単元全体の学習内容を構造化することによって、企業が経済活動を行う上での法とのかかわりについて見える化した。節ごとに課題を提示し、学習内容の理解度と節とのつながりを確認した。この逆向き設計論による単元の学習を終えた後で、ケース教材を活用した最善解を求めるアクティブ・ラーニング型授業の実践を行った。

(2)（アクティブ・ラーニングによる知識の活用）

企業の社会的責任や社会貢献活動の重要性を取り扱ったケース教材を活用した。企業の社会的責任として環境問題への対応や社会貢献が企業に求められている現状及び法令遵守、企業統治、説明責任から、企業活動が社会に及ぼす影響に責任を持つことの重要性について考察した。

まず、①事前課題として、地元や就職先の企業のＣＳＲについて、グループで調べ学習を行った。次に、②グループワークを行い、被災地の復興に対する企業の巨額の寄付金について、株主や投資家の協力や無税化の視点から、企業の社会的責任や社会貢献活動について考察した。複数の情報の中から、どの意見が正しいかを判断する力を養うために、自ら考え理解し、感じたことを書いたり、話したり、意見を述べたりする活動の中で見える化に努めた。その後、③発表を行った。課題に対する解決の根拠を正確に理解させた上で、他者に対して分かりやすく伝えることに心掛けさせた。最後に、④ 振り返りを行った。ポートフォリオとして自分の考えを整理することにより、深い学びへとつなげる。

３　授業実施上の工夫

始めに、単元全体の見通しを示した地図として「単元構造図」を作成した。この構造図の中には、単元の指導目標と課題を提示し、節ごとのつながりを確認できるように工夫した。そして、生徒には単元の指導目標と課題を記入したワークシートを配り、節ごとの振り返りをとおして自己評価をさせることにした。最後に、単元構造図をもとに、生徒自身に節ごとのつながりを理解させていった。このやり方は、ポートフォリオとしても有効である。逆向き設計論の３要素は、次のとおりである。(1) 単元構造図により、身に付けさせたい力を単元の指導目標として示し、それに基づいた授業づくりを行う。(2) 評価（評価規準、評価方法）を決める。評価では、認知能力と非認知能力の両方を伸ばすことが大切だと考え、確認テストや感想文、自己診断表、相互評価表、ルーブリック評価表を用いた。(3) 学習形態を決める。アクティブ・ラーニング型授業では、ケース教材を活用し、生徒主体のグループ学習を取り入れることにした。

４　評価方法

アクティブ・ラーニングでは、どのような力が身に付いたのかを生徒自身が気付き、自身の成長につながるように、ワークシートの問題に観点別評価の観点を示したり、ルーブリックによるパフォーマンス評価を取り入れたりしながら、生徒を伸ばしていくための評価を行っている。

５　成果と課題

１時間の授業にあわせて一部分だけを学習するよりも、単元全体をイメージして学習した方が生徒の学びに深まりが生まれアクティブ・ラーニングの際に活発な議論の様子が確認できた。今後も、実際の社会問題をケース教材として取り扱いながら、社会や自らの暮らしの課題解決に向けて主体的に行動できる人材へと成長し続ける生徒の育成に取り組んでいきたいと考えている。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	秋田県	学校名	秋田市立秋田商業高等学校

１　科目名「簿記」

１年生（５単位)、必修

２　授業概要

簿記の授業（通年）において、以下のような進め方で授業を行っている。

＜導入＞

・態度目標を示す。「相談する、質問する、教える、協力する、チームに貢献する」など自分たちでコミュニケーションをとりながら協力して解決していくことを重視している。

・１０～１５分を使って、本時の学習内容についてスライドを使って説明する。すべての説明は一回しか行わない。この説明の中で、語句の意味、仕訳の仕方、帳簿の書き方等を１単元ごとに行っている。

＜展開＞

・２０～２５分は、生徒たちの力で、副教材の中の指定された課題を解く。その際、答えを見ても良い、相談しても良い、立って聞きに歩いても良いとしている。解けない生徒は積極的に質問し、理解できた生徒は積極的に教えることを推奨する。教師は原則として説明したり指摘したりしない。生徒の活動を促すように質問による介入を行う。

＜まとめ＞

・終了１５分前になったら、７分間の確認テストを行う。内容は②で行った演習問題からピックアップし、そのままの内容で出題している。

・確認テスト後、５分程度で相互採点する。間違っていたら、採点者が正しい答えを記入して丸を付けることにしており、目標は全員が満点をとることとしている。

・残り３分で振り返りシートを記入する。項目は「態度目標に従って活動できたか」「学習内容でわかった点、わからなかった点」「その他自由記述」の３点である。

３　授業実施上の工夫

・教師からの説明は極力少なくし、生徒たちが考え、お互いに教え合うことを重視している。

・教師に質問が来ても、できるだけわかっている生徒に説明をしてもらうよう仕向ける。

４　評価方法

・課題を毎時間回収することになるので、特に指導が必要な部分は後日再度授業や課題を行う。

・観察により、積極的に動くことを評価する。わかっていても動かない場合は、関心・意欲が低いと評価する。

５　成果と課題

・成果としては、積極的な教え合いで理解が深まると回答する生徒が多く、居眠り等をする生徒も激減する。

・課題としては、どうしても雑談優先になる生徒がおり、どう指導するかが課題である。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
			○					○			

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	福島県	学校名	福島県立福島商業高等学校

１　科目名「簿記」情報ビジネス科　2学年　3単位　必修

２　授業概要

平時の授業のなかで10分程度の時間でペアワーク学習に取り組ませるなどの、アクティブ・ラーニングを意識した授業展開をしている。その中でも1単元としてアクティブ・ラーニング手法を取り入れた授業実践では、簿記原理の中でも基本となる計算問題（財産法、損益法、資本の追加元入れ・引き出しを含んだ資本金の計算、勘定図を用いた計算）を題材として取り上げた。

小単元の導入として１時限目では計算問題の基本的な考え方を問題集の例題を踏まえて復習し、展開として2時限目と3時限目前半において個人、そしてペアワーク学習にて7問程度の問題に取り組んだ。3時限目後半から6時限目まで4人～5人のグループを編成し、それまでの学習内容を踏まえたオリジナルの計算問題を作成した。

このような生徒協働型の授業を展開することで主体的に問題に取り組み、他の生徒と意見を交わすことで生徒個人の理解の確認、定着を図る学びとなり、計算問題に対する深い理解と学びにつながることを期待して授業を展開した。

３　授業実施上の工夫

グループで問題を作成するにあたり、単に数字を変えるだけでなく、その数字を変えることで解法上どのような変化をもたらすかを自ら発見できるように、模範解答ならびに解説の作成までをグループの課題として設定した。これは単に自ら作成した問題が解けるだけでなく、解答へのつながる道を説明できることが、生徒自身の深い理解へとつながると考えたからである。

グループで問題が完成したら授業担当者に提出し、その問題を授業担当者が数部複写して、グループ内でシャッフル（１グループあたり３グループ分の問題を配布）し、お互いのグループで作成した問題の解き合いを行った。解答はグループ間で情報交換し合う形で、解法まで含めて説明できるよう、アクティブ・ラーニングの形での生徒間学習を展開した。

４　評価方法

科目全体としては、定期考査の点数７５％、提出物や授業態度、授業内の課題の取り組みなどを平常点として２５％として評価（評点）をつけている。今回の単元では協働学習ということも踏まえて、グループ単位での取り組み態度と、成果物（オリジナル問題とその解答および解説）、グループ内の個々の生徒の貢献度を勘案して平常点の一部として組み入れた（評価全体の５％程度の点数である）。

５　成果と課題

生徒同士で問題作成に取り組む姿は、一斉授業とは異なり、意見を出し合いながら簿記の基本を理解しようとする姿勢が見られたことは大きい収穫であり、まさに生徒が自ら能動的に学ぶことにより理解が深まる結果となった。実際に2週間後に実施された期末考査の計算問題分野のクラス得点状況は最高48点（満点）、最低8点、平均33点（得点率69％）であり、これまでの考査成績と比較しても、この小単元での生徒の理解定着がある程度図れたものと思われる。

今回は学習成果を生徒全員の前で発表したりする場が設けられなかったので、今後の取り組みでは成果の発表ができるような場面も用意したい。さらに今後は本校独自に導入したｅ－ラーニングを活用した授業展開も検討していきたい。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○								○	○		○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	茨城県	学校名	茨城県立水戸商業高等学校

1　科目名「簿記」

○履修学年　　１年（国際ビジネス科）
○単 位 数　　４単位
○履修形態　　全員履修

2　授業概要

○内　　容　　減価償却
○特　　色　　知識構成型ジグソー法を活用した生徒同士の話し合いを重視した授業
○実践手順
・教員による問いの設定（一つの問いに対して４つのパートで解けるように設定する。その問いを解くのに必要な資料をパートごとに準備する。）
・生徒のはじめの解答（一人で思いつく答えを書く。）
・同じ資料を読み合うグループを作り，その資料に書かれた内容や意味を話し合う。
・違う資料を読んだ人が一人ずついる新しいグループに組み替え，内容を説明し合う。
・同時に他のメンバーから他の資料についての説明を聞き，自分が担当した資料との関連を考える。それぞれのパートの知識を組み合わせて問いへの答えを考える。
・答えが出たら，その根拠も合わせてクラスで発表する。
・生徒の終わりの解答（問いに再び向き合い，問いに対する答えを書く。）

3　授業実施上の工夫

○対話が活発になるようなヒントを事前に想定し，用意しておく
○生徒の意見を取り上げるため机間巡視を行い，タイムリーに全体に投げかける。
○話し合いが進まないグループへの配慮を忘れない。
○生徒が教員の予想を超える優れたあるいはユニークな回答を出したときには，それを授業に生かすことを心がける。
○次に履修する財務会計Ｉを念頭に置き，理解の深化を図る。

4　評価方法

問いに対する初めの解答と終わりの解答を各自が比べ，記述の分量が増えたか，記述内容が深まったかで授業の評価を行う。

5　成果と課題

この内容項目については，後日行ったテストでも生徒の理解度が高かった。また，この手法による授業に慣れていないため，授業準備に時間がかかってしまったこと，机間巡視が効率的でなかったなどの反省点があった。

6　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○			○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	千葉県	学校名	千葉県立千葉商業高等学校

１　科目名「簿記」

１学年　５単位　学科必修（商業科）

２　授業概要

１年間を通して、日商簿記検定３級・全商簿記検定２級の取得を目指している。２学期より日商班コース・全商班コースに分けられる。

授業は講義形式の時間を少なくして、グループワークを中心に行う。生徒同士で教え合う時間を確保してコミュニケーション能力の向上を目指す。また、授業のまとめとして振り返りシートを記入させる。ルール①　グループで話し合い自分の中で再構築させ、８０文字以内で記入すること。

②２文で書き、その２文を接続詞で結ぶこと。

目的は思考力・表現力・論理力を育成。簡潔に書き、わかりやすく人に伝える力の育成を目指す。

１年間の授業の流れ（全商班コース）※日商班コースも１学期までは同様

１学期　全商簿記検定３級範囲

２学期　全商簿記検定２級範囲

３学期　検定指導

３　授業実施上の工夫

発問等に対して答えやすい雰囲気作りを大切にした。生徒の発言を否定せず、答えてくれたことを褒めるようにした。また、メリハリを意識して問題を解く時間、話し合う時間、教え合う時間など時間を細かく区切って指導した。

振り返りシートについてはルールが難しい生徒はどちらか１つのルールを守らせ、まずは書けるようになるよう指導した。

４　評価方法

定期考査や確認テストのほかにグループ学習では「教え合うことができたか」「わからない問いをクラスメイトに自分から聞けているか」「積極的に話しているか」などの観点を中心に３段階で評価した。

振り返りシートについては「８０文字で書けているか」「誤字・脱字がないか」「漢字で書けているか」などの観点を中心に３段階で評価した。振り返りシートの評価については１学期、２学期、３学期と生徒もしっかりと書けるようになるので、評価の観点を少しずつ変化させた。

５　成果と課題

○成果

簿記の基礎・基本の定着だけでなく、コミュニケーション能力、論理力の向上が感じられた。特に人に伝える力、文章の誤字・脱字が少なくなった。人に教えることによって生徒自身も自信になり、授業に積極的に取り組めている。

○課題

グループ学習で１年生ということもあり、１学期などはあまり積極的に会話する生徒が少ない。

振り返りシートを書く時間に幅があり、適切な時間設定が難しい。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○		○	○	○			○	○		○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	北海道	学校名	北海道札幌東商業高等学校

１　科目名「財務会計Ⅰ」

２年生，４単位，会計ビジネス科，必修（一斉授業）

２　授業概要

財務諸表の見方，関係比率法による分析の理解を深めるため，マイクロディベートを実践している。

育成する資質・能力	○　財務諸表分析について理論と実務とを関連付けて理解するとともに，関連する技術を身に付けること。 ○　財務諸表分析の方法の妥当性と実務における課題を見いだし，それらを踏まえて，財務諸表を基に企業の実態を分析すること。 ○　財務諸表分析について自ら学び，会計情報の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むこと。
何ができるようになるか	財務諸表分析に関する知識，技術などを基盤として，財務指標を組み合わせて総合的に分析し，会計情報の効果的な活用について，組織の一員としての役割を果たすことができるようにする
何を学ぶか	財務指標の概念及び収益性，成長性，安全性の面から企業の実態を分析する方法
どのように学ぶか	○　EDINET を活用し，同一企業における期間比較や同業他社比較など財務諸表を分析する学習活動を取り入れる。 ○　ディベートの手法を取り入れ，財務諸表分析に関する理解を深めさせる。

３　授業実施上の工夫

○　４人１組でクラスミックスを編成した。１人の生徒を指名し，リーダーとしての資質を高める。

○　人前で話すことやコミュニケーションが苦手な生徒が偏らないよう配慮し，主張（発表）時には全員が発表するようルールを設定した。

○　司会進行は敗れたグループが行うなど，円滑に実施できるように工夫した。

４　評価方法

生徒は，発表グループに対し個人で評価した後，グループで話し合い最終評価を出す。評価基準の一例は次のとおりで，各項目２点満点，合計を 10 点満点とする。

評価項目	評価規準	観点別
授業への取組状況	挨拶や表情等の印象，敬語や感じよい話し方を実践	関心・意欲・態度
調査方法等	下調べなどの調査結果を示している	知識・理解
分析内容等	しっかりと企業分析を行い，説得力がある	技術
理解力と質問内容	納得できる質問内容である	思考・判断・表現
チームワーク	協調性がみられる	関心・意欲・態度

教員の評価（例）は次のとおり

観点別	思考力・判断力・表現力等
評価規準	A　改善点等を思考しまとめるとともに，組織の中心となり，メンバーをまとめている。 B　改善点等を思考しまとめるとともに，組織の一員としての役割をはたしている。 C　改善点等を思考せず，組織の一員としての役割をはたしていない。

５　成果と課題

○　１回目の失敗を２回目の発表で改善することで，オーディエンスに訴えかけるような話し方に工夫が見られた。

○　協働することの大切さが身に付き，時間内に分析結果をまとめ活用できるようになった。

○　質疑に対しての回答が特定の生徒に偏ってしまうなどの課題がある。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○	○	○	○		○	○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	岩手県	学校名	岩手県立水沢商業高等学校

１　科目名「財務会計Ⅰ」

履修学年：２学年　単位数：２単位　使用教科書：実教出版「新財務会計Ⅰ」

２　授業概要

第４編　財務諸表の作成　第28章　財務諸表分析

指導の流れ	内容とねらい
①財務比率の学習	各種比率、分析方法（実数・比率・趨勢）の学習を行い、特にも分析手法の指導を丁寧に行い、比率重視の分析ではなく広い視野の分析を伝える
②日本企業の財務分析と発表	EDINETを用いて有価証券報告書を取得し、ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを用いて同一企業や同業他社比較を効率よく作業させた後に発表させ、組織的活動を学ばせる。
③海外企業との財務比較	英語を不得意とする者もいるため、日本語表記と英語表記を比較しながら、丁寧に説明し、楽しく英語表記を慣れ親しませる。
④ＧＡＦＡの分析と発表	ただ、財務分析をするのではなく、海外企業の財務諸表の取得の仕方など今後の学びに役立つ学習を行う。分析は日本企業と同様ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸを行う。
⑤C/F計算書からの経営分析	B/SやP/Lだけの分析だけでなく、C/Fから企業の経営戦略など投資状況の分析にも触れ、財務諸表分析のすごさを感じさせる。
⑥まとめ	ＧＡＦＡの収益構造などを分析し、商品売買業以外（特にもＩＴ企業）の儲け方やﾋﾞｼﾞﾈｽﾓﾃﾞﾙをｸﾞﾙｰﾌﾟで考察させ、優良なﾓﾃﾞﾙについて討論させ、主体的・対話的な学習を展開する。

３　授業実施上の工夫

①海外企業の財務諸表の取得の仕方を学ばせ、ＧＡＦＡ以外の財務諸表の取得にも興味を持たせる。

②日本の財務諸表と海外の財務諸表を比較しながら、表示科目の英語表記を学ばせながら、ＩＦＲＳ（国際財務報告基準）にも触れ、世界基準の財務諸表を体感させる。

③財務分析においては、グループワークを用いて分析させながら、１つの報告資料を作成させる。その際、グループ内で業務分担をさせ、生徒１人ひとりがどの業務をいつまでに行うかを明確にさせ、協働的に作業することやグループの一員としての役割などを学ばせる。

④企業比較においては、討論を通じて、他者の考えを受け入れられる態度を身に付けさせながら、ＧＡＦＡがどのような経営戦略を行っているかを考察させる。

４　評価方法

○実数分析や比率分析では、各数値の小テストやワークシートの記入等で評価を行う。

○グループワークでの評価

A	期限内に業務(分析)を進め、リーダーシップを発揮し、他の人の業務を手伝っている。
B	期限内に自分の業務(分析)のみを進めている。
C	期限内に業務(分析)を進められない。業務(分析)を行わない。

○討議での評価

A	他のグループの意見を否定せず、自己の考えとの違いを感じている。
B	他のグループの意見を否定し、自己のグループの正当性のみ主張している。
C	自己のグループにおいても、意見を出さず周りに任せている。

５　成果と課題

従来の日本企業の財務分析だけでなく、ＧＡＦＡを題材に海外企業の財務諸表分析を行うことで、グローバルな視点で財務分析に取り組み、さらに、商品売買業以外の分析により、ＩＴ企業などのビジネスモデルを定量的に分析する態度の定着を期待している。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○			○				○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	岩手県	学校名	岩手県立宮古商業高等学校

１　科目名「財務会計Ⅰ」

学級：２年４組（情報科）（男子　２０名　女子１８名　合計３８名）
履修形態：必修
教科書　「高校財務会計Ⅰ」

２　授業概要

財務諸表の作成に関する知識や技術を習得させ、会計情報を、ビジネスの諸活動に活用できる能力と態度を育てる。

＜単元名：第２３章　財務諸表分析＞

１　利害関係者と財務諸表　　２　財務諸表の入手方法　　３　財務所用分析の意味と方法
４　関係比率を用いた分析　　５　成長性の分析　　６　財務諸表の分析の実際　本時

＜本時の目標＞

これまで学んできた財務諸表分析の５つの視点からの分析方法を活用して実際に分析をおこない、グループワークを通じて分析結果を発表し合うことをとおして既習内容を整理し財務分析の意味や意義を理解する。

３　授業実施上の工夫

同業種二社を比較させるため、教員側であらかじめ貸借対照表と損益計算書を準備した。６人程のグループを作り、割り当てられた企業の財務諸表をグループ内で検討させる。「安全性の分析」について的を絞り発表資料を作成させた。企業の財務諸表を可視化して分析できるようにグラフを作成するなど分析のための資料を工夫させるとともに該当企業に関わる出来事や情報を基に要因を分析することで安全性についてより深く考え分析できるように指導を行った。

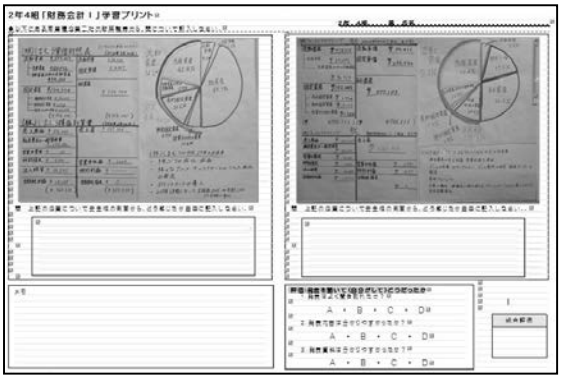
発表では、分析結果から見えてきた疑問点を述べさせることで次会の学習に繋げると共に興味関心を深めることができた。

＜発表資料と発表の様子＞

４　評価方法

財務諸表を作成する取り組み状況を、各授業で二人の教員が評価した。グループワークを通して、知識や思考力・判断力・表現力などを３段階（Ａ・Ｂ・Ｃ）で評価した。

発表側については、発表の姿勢、声量、企業の状態を理解させるように発表しているか、聞く側については発表を聞く姿勢、発表を聞いて企業の状態を理解しワークシートにどのようにまとめられているかを基準として評価した。



＜ワークシートの内容＞

５　成果と課題

グループでの財務諸表の作成や分析の取り組み状況は良好であり、多くの生徒から経年で調査してみたいとの発言があり、学習に対する意欲や興味関心が高まり、よい成果を上げることができた。課題としては、分析担当、資料作成担当のように発表に直接関わらない生徒がいたことから、それぞれの役割について同じ基準での評価をすることが難しいことが挙げられる。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○	○	○	○	○			○		○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	滋賀県	**学校名**	滋賀県立八幡商業高等学校

１　科目名「財務会計Ⅱ」

３年　２単位　自由選択科目

２　授業概要

財務会計Ⅰを２年生までに学んだ生徒がさらに進んだ会計の学習をしたい場合、３年次に自由に選択する科目。

２学期の期末考査までは教科書通りの財務会計の進んだ学習授業を展開する。期末テスト後、卒業課題として財務諸表分析をさせる、この際自由に同業他社である大企業２社をピックアップして様々な分析手法を使い企業の業績評価をする。その前段階として分析手法に慣れるために当該アクティブラーニングを利用している。使用時間数は３時間。

昨年度はイオンとセブン＆アイを指定して、どちらに就職したいか？という内容でペアワークの形で討論させた。その際にキャッシュフロー計算書と貸借対照表・損益計算書のつながりや様々な分析手法の講義もする。しっかりとすべての生徒が分析手法を理解したあと、ワークシートを使ってイオンとセブン＆アイの分析をさせる。分析前に考えている就職したい会社が、分析後にどのように変化したかについても考えさせた。

３　授業実施上の工夫

細かな分析手法（ROEやROIなど）について詳しく理解させておかないと深い話し合いにはならない。また、財務３表のつながりをしっかりと理解していることも前提知識として重要であり、これらの知識をしっかりと教えることが当該アクティブラーニングの授業を成功させるためにたいへん重要である。

４　評価方法

授業への取り組み状況とワークシートの出来具合などを利用して評価する。

５　成果と課題

具体的な会社の数値を使うことで３年間学習してきた簿記や会計の知識が実務的な内容とリンクする。高校時代の簿記学習の集大成として大変有益な学びとなった。

準備が困難となるため２社を指定しなければならなかった。自分の就職したい会社を自由に選択できればより主体的な学びになると思われる。ただし、当該授業ではこのアクティブラーニングのあとに卒業作品として、財務諸表を自由に選ばせて財務諸表分析をするため、そこで目標は達成できる。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○		○		○	○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	岩手県	**学校名**	岩手県立盛岡商業高等学校

１　科目名「原価計算」
履修学年：２学年（会計ビジネス科　４１名）
単位数：３単位　　履修形態：必修
教科書：実教出版「原価計算」

２　授業概要

直接原価計算の計算方法を理解し、有効な経営活動を選択できる。【思考・判断・表現】

単元：直接原価計算（その１）

本時：４　直接原価計算による損益計算書

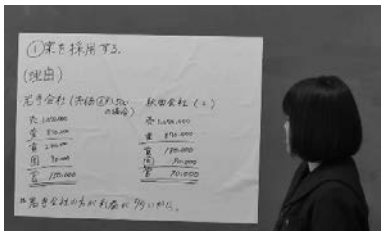
本時の目標：「会社にとってより利益を出す経営活動はどちらか選択できる」

利益計画に役立つ「直接原価計算」と「全部原価計算」との違いについては既に学んでいる状態であった。直接原価計算の特徴を理解したうえで、経営者の立場として、①部品を自製する案か②部品を他社から購入する案のどちらを採用するか、意思決定の内容に踏み込んだ授業を行った。①、②どちらの案でも減価償却費（固定費）はかかるということに気づくことができるかがポイントであった。

３　授業実施上の工夫

・①自分の考えを書く→②グループで発表する→③グループで一つの意見に絞る→④グループごとの発表を聞いて最終的な自分の考えを書くというように、段階を踏んで生徒達が思考する時間を多く設けた。

・グループの意見をまとめる際、グループごとにシートに記入させたが、その表現方法は自由とし、見やすく伝わりやすい工夫をするようにと指示をした。



〈発表の様子〉

４　評価方法

ワークシートの最終的な自分の考えの部分を評価した。自分の考えを、根拠を持って説明できているかどうかで評価をした。

５　成果と課題

成果は、グループワークを行い、他者の意見を聞くことで、自分とは違う考え方や表現の仕方に触れることができたことである。他者の考えを元に、最終的な自分の考えを書かせることで、根拠に基づいて結論を書くことができる生徒がいた。

課題は、最終的な自分の考えの部分に、今回のポイントである固定費の扱いについても書かせることである。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
				○	○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	山形県	学校名	山形市立商業高等学校

１　科目名「原価計算」

２年国際コミュニケーション科４０名（男子６名・女子３４名）を対象に、週３単位必修科目として履修している。

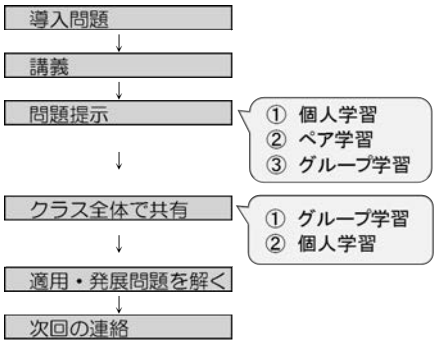
２　授業概要

「解説→例題の取組み→基本問題・練習問題等の取組み」といったワンウェイ型の授業展開を従来行ってきたが、生徒同士が教え合う環境をなかなか設定できず、検定試験に間に合わせるようセカセカと取組んでいたのが正直なところである。

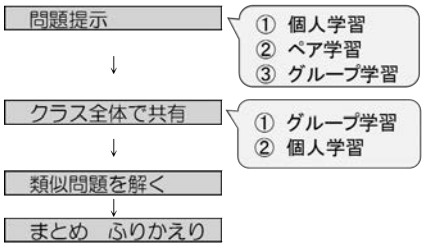
結果、理解が遅れた生徒への対応の遅れ、理解できた生徒が誰かに教えることで自信を持たせる機会も与えていないなど、生徒が生き生きと学ぶ環境を十分に築けていないことに戸惑いを抱いていた。この戸惑いを払拭するため生徒たちに事前に告知し、次のようなアクティブ・ラーニング型の授業を試み、互いに教え合う授業展開を試みた。

● 授業形式と内容

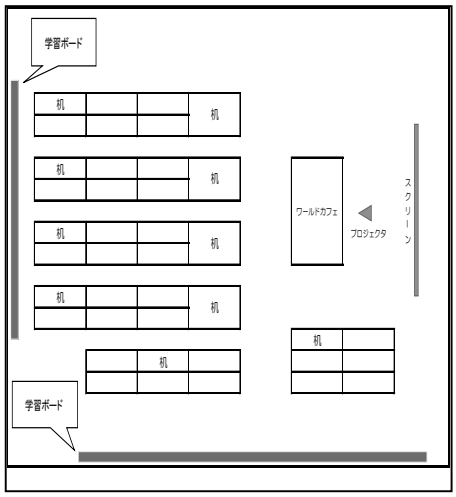
（１）導入時



（２）演習時



【　教室レイアウト　】



３　授業実施上の工夫

６～８名を１グループとし、必ず理解が出来ている生徒と理解が難しい生徒を同グループ内に配置し、共有学習ボードを活用しグループ学習を行う。他のグループへの移動指導も可とし、生徒主導でクラス全員が理解できるよう促す。

４　評価方法

理解している生徒が積極的に学習ボード等を活用しながら教え合ったか、また理解が難しい生徒が積極的に質問しているか等、学習意欲を評価の対象とする。併せて、授業終了前に類似問題を豆テストとし、その結果も評価する。

５　成果と課題

この授業法は継続的に「総復習の時間」として実施し、次のような結果が得られた。

・理解に遅れていた生徒がみんなに追いつける機会となり、相互学習を図ることができた。

・指導役となった生徒の理解度をしっかり評価することができ、また私自身の教え方が生徒の理に叶っているかの検証も行えた。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
			○		○			○			○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	福岡県	学校名	福岡県立小倉商業高等学校

１　科目名「原価計算」

第二学年（国際ビジネス科）　３単位　必修　単元名　標準原価計算

２　授業概要

答えが一つではないことの多い経済社会にあって、原価計算をはじめとした様々な知識、技術などを活用し、産業界で必要とされる資質・能力（社会人基礎力）を見据えて、商業の「見方・考え方」を働かせた実践的・体験的な学習活動を通して、社会を支え産業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指している。企業を取り巻く機関投資家・消費者・ＮＰＯなどのステークホルダーの価値観が変化する中、企業は持続可能な社会の構築、グローバル化への対応などの課題を倫理観をもって合理的かつ創造的に解決し、より社会と調和した新しい企業経営を求め始めているため、社会環境の変化を根拠（データ）を示して説明できるように、学びを俯瞰し、他教科・他科目とのつながり及びビジネスの分野において広がりを見せるＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）との関連についても理解を深める授業を以下の手順により実施した。

①標準単価、標準賃率が複数ある練習問題①に班別で取り組み、最適値を算出
②班別に最適値をＢＹＯＤ（個人保有の携帯用機器）を用い、Googleフォームにて報告
③各班の報告を電子黒板に提示し、プレゼンテーション。
④標準単価、標準賃率が複数ある根拠（データ）を示した練習問題（プリント②）を配付し、再度班別で取り組み、最適値を算出
⑤班別に最適値をＢＹＯＤ（個人保有の携帯用機器）を用い、Googleフォームにて報告
⑥各班の報告を電子黒板に提示し、プレゼンテーション
⑦最適値をなぜ変えたのか、なぜ変えなかったのかを根拠を示して報告
⑧ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）及びＣＳＶ、ＥＳＧ投資について理解

３　授業実施上の工夫

・卒業後の多様な進路に対応するため、社会との接続（トランジション）を意識させる。
・標準原価計算の目的と手続き、原価差異の原因分析について最適値を算出する能力を養う。
・視聴覚教材やコンピュータ、ＢＹＯＤ（個人保有の携帯用機器）などの教材・教具を適切に活用する能力を高める。
・企業を取り巻くステークホルダーの価値観が変化する中、企業は持続可能な社会の構築、グローバル化への対応などの課題を倫理観をもって合理的かつ創造的に解決し、より社会と調和した新しい企業経営を求め始めていることを理解する。

４　評価方法

定期考査及びルーブリックによる評価を行なっている。
・科学学的な根拠に基づいて班別（チーム）で取り組み、説得力のある最適値を算出することができるか。

５　成果と課題

成果（生徒の変容）　①社会環境の変化を根拠（データ）を示して説明できるようになった
②科目間のつながりを意識し、学びを俯瞰する力が身に付き始めた
（教員の変容）　③科目間のつながりと深い学びへのアプローチ
課題　①教科間のつながり（カリキュラム・マネジメントの推進）

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○		○	○	○	○	○	○	○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	大分県	学校名	大分県立大分商業高等学校

１　科目名「管理会計」

⑴　履修学年　３学年（商業科）

⑵　単位数　　２単位

⑶　履修形態　選択必修

２　授業概要

⑴　**学習指導要領上の内容**

管理会計に関する知識と技術を習得させ，経営戦略の重要性について理解させるともに，経営管理に必要な情報を活用する能力と態度を育てる。

⑵　**本校の学習指導方針（管理会計）**

①　企業の業績の管理や短期的な意思決定など，会計情報を経営管理に活用する能力の育成，進んだ内容の原価計算手法の習得や会計情報の数値にもとづく経営管理に対する理解を目指す。

②　既習の「原価計算」の理解を徹底し，基礎・基本を重視した指導を行い，授業を展開する。

⑶　**年間学習計画**

①　１学期　直接原価計算を応用した管理会計の学習。

②　２学期　予算編成･予算統制を中心とした管理会計の学習。

③　３学期　意思決定会計を中心とした管理会計の学習。

３　授業実施上の工夫

①　「原価計算」の内容の振り返り・復習を取り入れる。

②　「全商簿記実務検定（原価計算）・全商会計実務検定（管理会計）」の過去問題を使用して

既習事項の確認，学習事項の振り返り，復習，課題に利用している。

③　「日商簿記検定１級」の過去問題を抜粋し，学習事項の振り返り，復習や課題に利用している。

④　アクティブ・ラーニングの手法のひとつである「知識構成型ジグソー法」を既習事項の確認と新学習事項への導入に活用し，知識・技能の定着を図る。

⑤　ｉＰａｄを活用し，実際の企業のセグメント情報などを活用している。（業種不問）

４　評価方法

①　定期考査　思考を深める問題を出題（新聞記事から出題など）。

②　提出課題　Ｂ５サイズに解答欄が収まる程度の課題を出題（提出率・正答率を高める）。

③　授業活動　リーダーシップ，コミュニケーション能力，発表姿勢などを評価。

５　成果と課題

⑴　**成果**　①　全商会計実務検定「管理会計」の合格。自ら学ぶ意欲が高まることによる，日商簿記検定２級の合格。

②　セグメント情報の見方の理解による，企業実務への興味・関心の高まり。

⑵　**課題**　①　「原価計算」の習熟度の差。

②　不本意な科目選択による科目への興味・関心の欠如。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○	○					○	○		○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	北海道	学校名	北海道苫小牧総合経済高等学校

1　科目名「情報処理」

１年生，５単位，情報処理科，必修（一斉授業）

2　授業概要

知識構成型ジグソー法やディベートの手法を通して，情報に関する主体的な学びを促すとともに，ビジネスに関する有用な情報を提供できる力を育成する学習・指導方法及び評価方法の工夫改善に取り組んだ。具体的には，単元「（３）ビジネス情報の処理と分析」において，次の内容を実践した。

①知識構成型ジグソー法やディベートの手法を取り入れた指導を展開するための教材作成及び授業実践

②観点別学習状況の評価を取り入れたワークシート作成及び授業実践

3　授業実施上の工夫

○　知識構成型ジグソー法のほか，ディベートやケースメソッドの手法を活用して，情報に関する主体的な学びを促すとともに，ビジネスに関する有用な情報を提供できる力の育成に取り組んだ。

○　「ビジネス情報の処理と分析」に関する学習では，単にソフトウェアの機能を使いこなす学習に偏るのではなく，情報を収集・加工し，利害関係者等に必要な情報を提供することのできる資質・能力が身に付くよう，より実践的でビジネスに沿った教材開発，授業展開，学習評価に取り組んだ。

○　授業を通じて，育成すべき人材像を明確化するため，単元ごとに「何ができるようになるか」と，そのために育成すべき資質・能力を設定し，「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何が身に付いたか」など，学習内容の枠組みを１枚にまとめたシートの作成に取り組んだ。

○　「主体的・対話的で深い学び」の実現に当たり，単元や題材を通じたまとまりの中で，生徒に「できるようになること」を理解させることが必要であると考え，全ての単元の始めにガイダンスを実施することとし，ケース教材の作成に取り組んだ。

○　教材開発に加え，生徒の学びに最も効果のある授業形態（個人学習，ペア学習やグループ学習）等を検討するとともに，協働学習を取り入れる意義や目標について確認し取り組んだ。

4　評価方法

○　学習評価では，単元や題材を通じたまとまりの中で育成する力を具体化し，評価の観点を明確化するとともに，学習活動に即した評価規準を俯瞰できるよう一覧表にまとめた。

○　単元や題材を通じたまとまりの中で，育成する資質・能力はどのようなものか具体的に表現し，ディベートの手法やグループ学習の学習形態等を考慮し，最も適切な評価はどうあるべきか整理した。

5　成果と課題

○　ビジネスに沿った教材を開発したことで，情報に関する最新の知識や技術，社会で求められている技能等について理解させることができた。また，ケース教材等を読み込むことにより，それぞれの立場に立った根拠や正当性を思考，判断し，課題解決に向けた考えを表現するなどの対応が見られた。

○　授業改善に向けた教材開発やその修正等を継続的に行うことで，商業科教員間の共通理解が図られ，指導力の質が高まるとともに，教材が共有化されるなどの成果があった。

●　講義中心の一斉授業と，ケースメソッドやペア学習等の手法を取り入れた授業とを連携させるなど，深い学びにつながるよう，継続した授業改善の検討が必要である。

●　科目ごとの授業改善及び評価の工夫が進み，一定の成果を得ることができたものの，３年間の学習内容をきちんとイメージできている生徒が少ない状況にある。そのため，ビジネス情報分野の科目を系統的に学習することにより，ビジネスに生かせる情報活用能力が身に付くことを学ばせる授業改善の一層の工夫が必要である。

●　生徒の授業の事前・事後の変容状況を客観的な数値で把握し，教材開発はもとより指導・評価方法の工夫改善に結び付けられるよう，アンケート調査等の充実に取り組むことが必要である。

6　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○	○	○	○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	宮城県	学校名	仙台市立仙台商業高等学校

１　科目名「情報処理」

情報処理：履修学年（１年生）　単位数（４単位）　履修形態（必修）

２　授業概要

使用教科書：実教出版「情報処理」
授業単元：第２章　情報通信ネットワークとｾｷｭﾘﾃｨ管理　第４節　ｾｷｭﾘﾃｨ管理の基礎
授業の流れ：①授業内容の説明→②ｾｷｭﾘﾃｨに関するﾄﾗﾌﾞﾙ事例を調べる→③ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習→④ｸﾞﾙｰﾌﾟ学習の成果発表→⑤映像学習→⑥問題演習→⑦解答あわせ→⑧まとめ

【調べ学習の様子】

【授業評価の様子】

【映像学習の様子】

【解答あわせの様子】

３　授業実施上の工夫

現代社会で発生している情報トラブルについてより詳しく学ぶ。企業で被害の多い「標的型攻撃」等について，生徒自らがその内容を調べるとともに，映像教材や国家試験の過去問題を活用して，生徒同士が知識の共有を積極的に行える授業環境を整備した。

４　評価方法

定期考査や小テストの他に下表の規準に従って，教員がタブレット端末を活用して評価する。

	評価の観点	具体の評価規準	Ａとする具体的な姿
評価①	関心・意欲・態度	現代社会で発生しているセキュリティトラブル事例を発見することが出来る。	３つ以上トラブル事例を発見できた。
評価②	思考・判断・表現	グループ活動によって，トラブル事例を判断できる。	グループ内の話し合いで，トラブル事例についての意思疎通がとれ，ワークシートを完成した。
評価③	知識・理解	本時の学習活動を通して，模擬問題を解くことが出来る。	３つ以上問題を正解することが出来た。

５　成果と課題

【成果】　生徒が主体的に学ぶことによって理解度が増し，教科書だけの学習では得られない他人との知識の共有ができる。また，生徒が楽しく意欲的に学ぶ姿が確認できる。
【課題】　授業計画や準備に時間がかかる。全ての授業に応用，展開できる

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○		○				○	○		○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	栃木県	**学校名**	栃木県立足利清風高等学校

本校では平成27年度より、アクティブラーニングについて研究を始め、産業能率大学教授小林昭文先生を講師にお招きしアクティブラーニングについての体験型の講習会を実施するなど積極的にアクティブラーニング型の授業導入に取り組んでいる。商業科の授業においてはＡＬ20(アクティブラーニングの実施率を示す指数で各授業において２割の時間は活動に当てるというＡＬ指数)を目標に取り入れている。現在は多くの授業でグループワークを取り入れるなど試行錯誤の段階にある。

次期指導要領に掲げられた深い学びまではまだ授業改善が必要であるが、授業中に対して消極的な姿勢の生徒は大幅に減り、放課後も教え合う姿が見られるなど主体的に学ぶ姿勢が見られるようになった。

１　科目名「情報処理」履修学年：1年次、単位数：5単位、履修形態（必修）

２　授業概要　　単元：ハードウェア、ソフトウェアに関する知識　性能・障害管理

＜授業の枠組み＞

１　学習内容の説明(15分)　稼働率の計算方法の説明（パワーポイント・プリントを活用）

２　問題演習(20分)　班ごとに問題を協力して解答・理解する（協同的な学習の実施）

３　振り返り(10分)　各自の理解・活動状況の振り返り

（１）確認テスト・相互採点（２）リフレクション・カード記入

３　授業実施上の工夫

生徒が活動する上で、安心・安全の場を作り、適切な質問で生徒の活動を促す。具体的な行動目標(態度目標：しゃべる、質問する、説明する、協力するなど)を設定し、リフレクションカードで自分自身の行動を振り返り、個々の気づきを促す。確認テストは難易度に差をつけ、演習で取り組んだ問題も必ず入れ、成功体験をさせる。振り返りの時間は必ず確保する。

４　評価方法

行動目標と評価を対応させることで、テストによる知識・理解の評価のみに偏らず、アクティブラーニングの場面における生徒の活動の様子を評価に取り入れる。

【評価の例】

行動目標に対して

十分に達成できたＡ　ほぼできたＢ　なんとかできたＣ　できなかったＤ

５　成果と課題

【成果】

自分が理解したことや考えたことを他者へ伝えるために、話したり、書いたりすることにより、自らの学びを深めることが可能となり、自分の考えを相手に理解してもらうために表現方法を工夫するなどコミュニケーション能力を高めることができる。

また、そういった活動を通して自分以外の他者の考えに触れることにより、多様性を理解し、自らとは異なる価値観を尊重しつつ協力していく力を身につけることができる。

【課題】

プロジェクタなどのＩＣＴ機器の用意や事前の教材準備に時間がかかる。ＩＣＴ機器を常設した教室の整備が望まれる。また、生徒の人間関係を考えた班作りや適切な発問など教師の力量が問われる。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
							○				○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	福岡県	学校名	福岡県立行橋高等学校

１　科目名「情報処理」

商業に関する学科・総合ビジネス科の第１学年時に４単位を設定している。

２　授業概要

教員は２人配置しており、ティームティーチングにより指導している。

年間学習計画を以下に示す。

４月　情報の活用と情報モラル
５月　情報通信ネットワークとセキュリティ管理
６月～１２月　ビジネス情報の処理と分析
１月～　３月　プレゼンテーション、１年間のまとめ

３　授業実施上の工夫

本校の総合ビジネス科は１学年１クラス４０名で構成している。入学時より学力や授業を理解する力に個人差が見られる。この個人差を活用して１学期末(「ビジネス情報の処理と分析」パソコン教室でのアプリケーションを活用した実技を中心とした授業)より生徒同士による教え合い、「対話的な学び」を実施している。

ここでは本校の校訓である「協同」の精神を念頭に置かせ、クラス内において学力などの個人差が存在する中で、互いに補完し合う関係性を構築することの重要性を理解させている。

実際のビジネスの場面では個人が能力を発揮することも重要であるが、その結果として集団として、あるいは地域社会全体として持続的な発展が望まれることから、生徒同士が授業の場面においても補完関係を構築するなどして、他者と積極的に関わり問題解決に取り組む態度を養っている。

つまり、年度当初から個人の学力の伸長と併せて、クラス全体で協力して問題を解く力、集団として成果を出すことが、学びに向かう人間性のみならず、望ましい勤労観・職業観の醸成に繋がることを徹底的に理解させている。

４　評価方法

定期考査において個人及びクラス全体の理解度を確認し評価している。またパソコン教室でのアプリケーションを活用した実技を中心とした授業及び、検定試験学習の際に、適切な自己開示(自らが理解できているところを明確にしているか、他人に教えることができる項目を明確にしているか、自らの理解が十分でない項目を明確にしているか等)ができているかワークシート等に記入させ評価している。また、教え合いなどの「対話的な学び」の場面では、他者への貢献度合いを評価している。

５　成果と課題

平成３０年度から始めたこの取組では、クラス内での様々な学習における到達度の差を解消すること、クラス全体として、集団としての成果を出すために必要な態度、資質、能力が実際のビジネスの場面で必要とされていることを充分に理解することができた。授業に対する満足度も学年末には９０％近くまで向上し、定期考査や検定試験の結果も良好であった。

今後の課題として、「何のために商業を学ぶのか」を理解させ、共有するために、社会を知り、社会と繋がることにより商業を学ぶ者として適切な志を育む必要がある。また１学科１クラスの利点を活用して、学科内でより積極的に科目横断的な教育課程の編成と主体的な学びへの具体的方策を具現化しなければならないと考えている。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○		○					○	○		○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	奈良県	**学校名**	奈良県立奈良朱雀高等学校

１　科目名「電子商取引　コミュニケーション表現」

３年生　情報ビジネス科　電子商取引（２単位）コミュニケーション表現（３単位）
必履修

２　授業概要

本校Ｗｅｂページ上でサイバーモールの開設・運営をするネット販売学習で行っているもので、インターネット上で奈良県の名産品を販売するものです。県内の１５企業に協力していただくことになり、奈良県の数多くの名産品をインターネットで、期間限定ですが、２４時間いつでもどこからでも購入することができます。

<u>年間学習計画</u>

月	学習の展開
４・５	Web ページ作成練習
６	グループ分け　企業の選定　商品の調査・研究 企業へのあいさつ　企業訪問の準備
７・８	Web ページ作成の準備（レポートの作成）　企業訪問・取材
９	Web ページ作成
１０	Web ページ作成
１１	企業との Web ページの最終チェック　テスト販売　開設･販売　注文メールの確認・売上の集計・企業との確認
１２	開設・販売　注文メールの確認・売上の集計・企業との確認

３　授業実施上の工夫

情報ビジネス科の生徒なのでパソコン操作は慣れている。しかし、一般企業の方と協議しながらＷｅｂページを作成するので、マナー指導等も含めて指導を展開している。

４　評価方法

Ｗｅｂページの作成等で評価をしているが、作成時に工夫したところなどでプレゼンテーションを作成し、発表会を行い、生徒間同士で評価をしている部分もある

５　成果と課題

奈良県に居住しているが奈良県の名産品のことを知らない生徒も多くいる。郷土のことを学習する機会にもなっている

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
			○		○	○			○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	滋賀県	学校名	滋賀県立大津商業高等学校

１　科目名「電子商取引」

第３学年　情報システム科　２単位　必修科目

２　授業概要

１学期
電子商取引の概要、情報通信ネットワークを利用した広告、個人情報・知的財産権等の講義
仮想企業ロゴの作成（グループワーク）
バナー広告の作成（個人ワーク）　※一眼レフカメラによる商品写真撮影も含める。

２学期
ウェブページ制作・ＨＴＭＬ言語に関する講義と実習
仮想企業商品紹介ホームページの作成（グループワーク）

３学期
仮想企業商品紹介ホームページのプレゼンテーション（グループワーク）

３　授業実施上の工夫

課題を取り組むにあたって、企画書やワークシートの様式を工夫した。

４　評価方法

生徒間で話し合った内容や調べ学習をした内容をまとめたワークシートの提出
（どれだけ記入ができたか、どれだけ作業をすることができたかを評価）
企画書や課題作品の提出（自己評価および相互評価）

５　成果と課題

課題　現在は、自分たちの身近な商品を紹介ホームページとして作成するのみで留まっており、外部への発信（アップロード）や販売にまでは至っていない。今後は、地域との連携や地場産品等の紹介など、外部への発信や連携関係を築いていくことができればと考える。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○	○				○	○			

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	和歌山県	学校名	和歌山県立和歌山商業高等学校

１　科目名「電子商取引」３学年、２単位、情報コース必修

２　授業概要

学期	月	内　　容
1	4	イントロダクション（年間授業計画、昨年度までの取組について） チームビルディング（アイスブレイク、チーム目標、役割等決定）
	5	情報通信ネットワークに関する学習 学んだことについて、チーム内でプレゼンテーション 南海トラフ地震について　授業課題の設定（①南海トラフについて各自調査②校舎内フィールドワーク） ①調査結果を防災ポスターとして作成 ②浸水、被災予想、①と合わせて防災ポスターに反映させる 防災ポスターについて、クラス内プレゼンテーション
	6	Rakuten IT School NEXT イントロダクション（楽天株式会社社員） コンテンツの制作に関する学習
	7	期末考査
2	8	Rakuten IT School NEXT サマーワークショップ（楽天株式会社社員）
	9	サマーワークショップでのアイディア毎にチーム統合
	10	アイディアの深掘り
	11	協力依頼者リスト作成、アポイント
	12	各チームで校外調査、協力団体訪問
3		プロジェクトレポートの作成、提出（生徒個人） アイディアのブラッシュアップ アイディアの具体化、成果物制作、発表準備、校内発表会（学校代表選抜）、課題研究発表会で発表
	1	取組内容紹介ページ、動画の制作、協力団体へ確認、アップロード

（１）　校訓「真理、正義、勤労、礼節を重んじ、良き社会人、力強い職業人を育成する」に則した専門教育の実現を目指す。

（２）　情報コースの生徒達に学習過程を通し、防災意識を育むのみならず、自らの学びや仕事が「人の役に立つ」ことを体感させる。

以上を踏まえ、地域課題である南海トラフ地震への防災・減災をテーマに、Rakuten IT SCHOOL NEXTとして楽天株式会社、正和情報サービス及び防災士とともにグループ別にプロジェクトを進めた。

３　授業実施上の工夫

・　校訓に基づいた授業展開及び課題の設定。
・　校内の取組で完結させず、常に地域、社会、国際的な問題として意識させた。
・　プロジェクトチーム内でのコミュニケーションについて継続的な自己評価をさせた。
・　生徒たちが「自分事」として地域課題に取り組むよう、できるだけ小集団で役割を持たせ、地域の大人に関わりを持たせ、行動していくように授業課題の設定を行った。
・　テレビ会議による担当教員、担当者間の情報共有と授業展開の検討。

４　評価方法

・　拒絶するのでなく、ビジネスシーンを意識した公的なＳＮＳの活用。
・　担当教員、楽天社員を含めた、生徒とチーム毎のグループチャットによる情報共有及び評価、指導の検討。
・　発表をビデオ配信し、遠隔地での楽天社員にも評価できるようにしたこと。
・　ビデオを後から放映し、生徒自身の振り返りと他者評価を実施。
・　成果物をデジタル保存し、前年度までの履修生の成果物と比較検討し、評価規準を設定。

５　成果と課題

・　授業振り返りの中で、「地域課題を自分事として捉え、地域の担い手として課題に立ち向かいたい。」「自分一人の考えだけで行動するのではなく、集団の中で意見を磨きより良いものにしていけた。」という肯定的な意見を出す生徒が多く見られた。
・　取組を通して、地域社会に対し学びの成果を伝えるなかで本校生徒の実直さやコミュニケーションを評価頂き就職に結びついた生徒がいた。
・　学校内での模擬発信にとどまらず、インターネットを介して学びの成果を発信し、責任を持って取り組むことで、日常の学びの大切さを伝えることができた。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
			○			○		○	○	○	○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	千葉県	学校名	千葉県立千葉商業高等学校

１　科目名「プログラミング」

２学年　５単位　学科・コース必修(情報システム科情報システムコース)

２　授業概要

９月の全商情報処理検定１級に合格した生徒を対象に、アルゴリズムに関する知識や、ＶＢＡにおけるプログラミング技術を活用し、より発展したプログラミングスキルを身につける。

授業は実習を中心に行い、ペアプログラミング(2名で協力し一つの課題についてプログラミングを行う手法)による共同作業にて、問題解決能力やコミュニケーション能力の向上を目指す。また、各課題のまとめとしてクラス全体でコードレビューを行い、様々なアルゴリズムについて考察するとともにプレゼンテーション能力の向上を目指す。

●１０月～３月までの実習課題

①Excelの関数と同様の処理が、シート上で出来るＶＢＡマクロを作成する

合計、平均、カウント、順位付け、n番目に大きい・小さい数を求める、統計、基数変換

②(発展学習１)Excelシートのセルをビットマップに見立て、画像の処理について理解する

画像の回転、画像の縮小、画像の圧縮(圧縮アルゴリズム)

③(発展学習２)迷路探索

右手法・左手法、深さ優先探索と幅優先探索

３　授業実施上の工夫

生徒にとって比較的身近でわかりやすいテーマであるが、よく考えないと完成出来ないような題材を実習課題としたこと。ペアプログラミングを導入し、互いに問題解決に向けて話し合いながら実習を進められるようにしたこと。コードレビューによって各ペアが考えたアルゴリズムを共有し、さらに学習内容を深められるようにしたことが挙げられる。

実習では、まず完成する(正しい結果が出る)ことを目標とし、一旦完成したのちに、より最適なアルゴリズムや保守性の高いコードの記述方法を考えさせるようにした。これにより実習課題が完成できるペアの割合を高いものにするとともに生徒の理解度・達成度を段階的に高められるようにした。

４　評価方法

実習では、「ペアで協力できたか」、「課題が完成したか」、「最適なアルゴリズムか」といった観点を評価し、コードレビューでは、「わかりやすい説明か」、「積極的に質問したか」、などの観点を中心にそれぞれA～Eの５段階で評価し点数化した。また、実習ごとに自己評価させた内容についても評価した。

５　成果と課題

○成果

アルゴリズムの修得やプログラミング技術の向上だけではなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の向上も同時に果たすことが出来たこと。生徒一人ひとりの授業に対する意欲や理解度が情報処理検定に向けた授業と比べ、とても向上したこと。

授業アンケートにおいても、とても意欲的に取り組めているというような回答が多くみられた。

○課題

科目の特性上、実習時にエラー対応なども多いので、チームティーチングや少人数制授業でないと指導や評価が難しいこと。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○			○	○	○			○	○		○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	秋田県	学校名	秋田県立湯沢翔北高等学校

１　科目名「ビジネス情報管理」

３年生（３単位)、必修（総合ビジネス科情報コース）

２　授業概要

本校の商業クラブが生産販売している地熱乾燥さくらんぼ「ミッチェリー」を題材として、商品の販売管理システム構築のためにＥ－Ｒ図の作成からシステム構築、保守管理までを生徒たちが行うことを目標としている。教科書のデータベース演習問題を扱うことで、販売管理における基本的データベースの設計や表計算と連携させるプログラム（マクロ）を生徒に学ばせる。その後、いくつかのグループに別れモデリングから、集計したデータを加工してどんな財務分析を行うかを考えさせる。

３　授業実施上の工夫

システム概要などを記入させる下記のようなシートを作成し（全１０枚)、Ｅ－Ｒ図やデザインなどを生徒達に考えさせた。構築したシステムで仮の売上データなども入力させ運用テストも行っている。また、グラフによる分析結果などはレポートにまとめさせ提出した。

ミッチェリー販売管理システム作業シート　　Accessファイル名=3D00販売管理システム　Excelファイル名＝3D00販売分析シート　　番　氏名：

【目的】

ミッチェリーの販売管理をミスなく、効率的に行えるようにする。

①データベース構築能力をやしなう　②ＶＢＡのプログラミング能力をやしなう　③ＥＸＣＥＬの活用能力をやしなう　④分析能力をやしなう

【作業】

①システム設計（デザインと必要テーブル～分析グラフなどの記述）
②テーブル構築
③テーブルにデータを入力（フォームを使用しないデータのみ）
④フォーム構築（入力用ないし、印刷用フォーム）
⑤フォームからデータ入力
⑥クエリ構築
⑦ＥＸＣＥＬのＴＯＰページ、各シート用意（クエリ作成分のシートを用意）
⑧ボタンやユーザフォーム用意
⑨ＶＢＡ構築
⑩各シートのデータをもとにグラフを作成＆分析

システム完成：平成３０年１１月２９日

【必要なテーブル】　※内容が分かるテーブル名を６～８つ挙げる（詳細は後ほど記入）

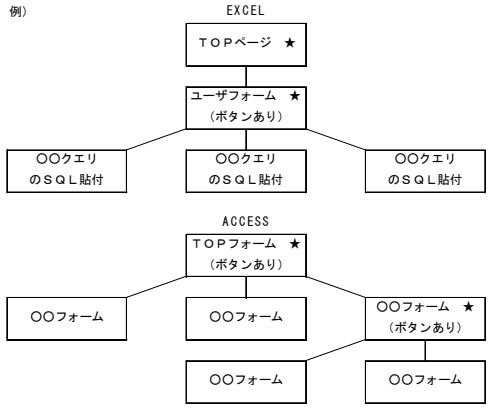
【必要なフォーム】　※内容が分かるフォーム名６～９つ挙げる（詳細は後ほど記入）

【必要なクエリ】　※内容が分かるクエリ名を５つ挙げる（　）にはクエリの内容を簡単に記入

例・各月集計クエリ　（各月の売上金額が集計されるクエリ）

【システムのデザイン設計】　★印はマクロを組み込むことを意味する

例）



４　評価方法

個 人 評 価 ＝生徒一人一人に作業報告書を記入させ、①完了した作業、②仮説設定と課題解決、③話し合った内容などの毎時間評価。

グループ評価＝①システム完成度、②他グループとの差別化を基準とし、学期ごとの評価。

５　成果と課題

データベースと表計算の技術はもちろんのこと、財務分析やマーケティングの要素を含んだレポートが完成し、商業の総合知識を活用することができた。しかし、演習問題が１つしかないため、どのグループも似たような設計になってしまうため、幾つかの演習問題を用意しなければならない。商業クラブの運用まで達成できていないため、システムの完成度を高めたい。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに〇印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	〇			〇			〇	〇			

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	山梨県	学校名	甲府市立甲府商業高等学校

１　科目名　「課題研究（株式学習講座）」

履修学年　３学年　３単位　選択必修

２　授業概要

日本証券業協会の「株式学習ゲーム」を活用し，グループによる株式投資を行う。各個人が経済・国際状況を確認整理したものを持ち寄りグループで討議し，グループとしての基本的な認識を共有する。その認識に立ち，各自個別銘柄の選定を行う。この検討内容を投資銘柄選定計画書（本講座で作成した書式）に記載し，グループで各自調べた内容を検討する。その結果，「買い」と判断された銘柄の計画書を担当教諭に提出し質疑応答のうえ，評価を得る。その評価がABCD評価のC以上を得ると購入が可能になる。その後は日々銘柄の動きをサーベイし，必要に応じて銘柄入れ替えを行う。次候補の銘柄を考えておくことが必要なので，上記の活動を繰り返していくことになる。

夏休み明けにそれまでのポートフォリオの成績について中間報告（第1回）を行う。グループの購入時の経済判断とそれに基づく投資判断（銘柄選定と売買）と現実にどうなっているかの評価を分析まとめ報告する（プレゼンテーション）。この報告は11～12月（中間報告第2回），1月（最終報告）の計3回行う。それぞれ報告態度，内容等を担当教諭と講座参加者間の相互評価により点数化する。最終報告の1位のグループが2年生に向けた課題研究発表会で発表する。

事前学習として，協会より送付される「株式学習ゲームガイドブック」「売買対象企業一覧」について，座学にて学習する。そこで，株式，証券市場についての基礎知識，株価の変動要因の初歩，四季報の見方を学ぶ（座学）。

また，夏季休業中に現地見学研修として，証券会社の株式部・債券部のディーリング部門の見学講習，東京証券取引所の見学講習，日本銀行本店の見学を実施する。

３　授業実施上の工夫

・企業調査の第一歩として「興味ある会社，知っている会社，応援する会社」を四季報で調べる（プリント作成）。
・ニュース番組，新聞から収集した情報を簡単な書式にまとめさせる（メモ・スクラップ等）。
　→　TV番組・新聞の紹介，スマートフォンの活用
・時事問題とその時の株式市場の動きを解説し，生徒に投げかける（双方向の授業構築）。
・夏季休業中の現地見学研修

４　評価方法

○ルーブリックを作成。

・提出したレポートを評価→点数化。
・ポートフォリオ管理フォーマット（EXCEL）
・グループのポートフォリオ分析（反省）と対策　＋　そのグループ報告中間報告，最終報告
　＜グループとしての力＞相互評価を取り入れる。

５　成果と課題

成果として，専門用語にも慣れ，自分たちで調べていく意識が出てくる。ニュースに対する反応が明らかに違ってきたという生徒が多くなり，図書室で新聞を読む生徒が出てきた。また，スマホに金融関係（株式為替関連）アプリを入れている生徒も多くなり，正解のないものに立ち向かう論理性が芽生える中で，議論をする機会が増えた。課題としては，四季報以外の金融株式関係の書籍や情報誌なども講座内で自由に読み合える機会を増やしていく必要がある。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○	○	○	○	○	○		△	○	○	△	○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	神奈川県	**学校名**	横浜市立横浜商業高等学校

１　科目名「２年ＹＢＣクラス　課題研究」２単位　必修

２　授業概要

例年，９月の下旬から１月の下旬にかけて 20 回ほどの授業の中で，関東学院大学から教授の先生とその教授のゼミ生を本校に招き，企業から出された課題に対して，大学のゼミ生の指導をいただきながら，グループワークで問題発見・課題解決を図っていく授業を行っている。

授業の特色は，グループ内での生徒同士のミーティング，大学のゼミ生からのアドバイスと話し合い，加えて教授の先生や企業の方との話し合い等を徹底的に行っていることである。また対話を重視しているとともに，課題解決のために，足を使って様々な材料を得ることも重視した活動にしている。そうした活動を通して，与えられた課題に対して，受け身にならず，生徒から見て年齢が上になる大学生や教授の先生，企業の方々に対しても堂々としたプレゼンテーションができることを最終的な目標としている。

３　授業実施上の工夫

２でも述べさせていただいたが，生徒同士だけの話し合いではなく，多くの立場の違う人々との交流を通して，誰にでも自分たちの考えを述べることが出来るような環境作りに時間をかけ準備をしている。生徒自身は，行っている間はかなり大変な思いを毎年しているようであるが，卒業時のアンケートや卒業後等にその内容や成果等について回答してくれている内容を見ると，「大変ではあったが自分自身の見えない力になっていることに気が付いた」という主旨の回答を多くもらうことが出来ている。特にリーダーシップを伸ばすという面で成果があると考えている。

４　評価方法

様々な交流の場での評価を重視している。大学のゼミ生との話し合いでは，ゼミ生からの評価もいただいている。同様に大学の教授の先生にもグループごとでの話し合いの中で，積極性や意欲等を読み取っていただき，個人の評価に反省させている。

最終的にはグループごとの企業の方へのプレゼンテーションも評価の対象にし，企業の方々，大学教授の先生方にプレゼンテーションの評価をしていただいている。

５　成果と課題

成果は先にも述べたが，生徒が自分自身でなかなか気が付かない力が付いていることであろう。特に大学等に進学をした後に，大学の先生や上級生からリーダーシップを発揮できる学生であるとの評価をいただくようで，自分で気が付いていない内面的な力が付いていることが大きな成果であるといえる。

一方で課題は，高校在学中にそうした力がついていると感じる機会が少ないことであろう。やはり高校内で生徒が触れ合う多くの対象は同級生である。どうしても日頃の人間関係が大きな影響力を持っており，なかなか自分自身の内面的な成長を発揮する場面，あるいはそうした成長を自覚する機会が少ないためである。そうした機会を多く設けることが今後必要であると考えている。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○			○	○	○		○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	長野県	学校名	長野県飯田ＯＩＤＥ長姫高等学校

１　科目名「地域人教育・課題研究」

「地域人教育」履修学年；１学年　単位数；１単位　履修形態；必修
履修学年；２学年　単位数；２単位　履修形態；必修
「課題研究」　履修学年；３学年　単位数；３単位　履修形態；必修

［天竜川で撮影した「地域人教育」ＰＲ用ポスター］

２　授業概要

「飯田市」「松本大学」「本校」の３者協定のもと，「まちじゅうが教室」をキャッチコピーとして将来，地域だけでなくどこにいっても活躍し，社会に貢献できる人財の育成を目標に３年間を通じて学んでいます。

１年次…「地域を知る」をテーマに，松本市・飯田市をフィールドとしたフィールドワークを実施し，自分達で自主的に動き，調査し，発表することを学んでいます。

２年次…「地域で活動する」をテーマに，飯田市内で行われているイベントにスタッフとして地域の方と一緒に活動させていただきながら当事者意識を育み，社会事象題調査およびレポート作成を行っています。

３年次…「地域づくり，課題解決に向け行動する」をテーマに，少人数のゼミ方式を採用し，商業科職員と公民館主事がサポートに入り，グループごとに地域を調査し，課題を設定し，課題解決策を計画・実行，検証を繰り返しています。そして最後のまとめとして成果発表会を行い，活動報告集の作成を行うことにより思考力・判断力・表現力を身に付けさせられるようにしています。

［地域の子ども達とのイベント］

３　授業実施上の工夫

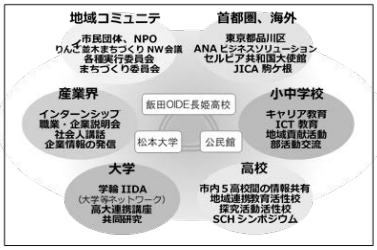
３年間を見据えた系統的な学びとし，学年が上がるごとに授業時間を増加させ，学習内容も充実させています。また，３年次は少人数のゼミ方式が生かせるよう，生徒の意見・考えを尊重し，職員と公民館主事とで支える形が取れるよう公民館主事とも連携をとって授業計画を行っています。

４　評価方法

「ルーブリック評価表を用いたグループ評価」「課題の提出による評価」「ポスターセッションによる評価」「定期テスト時における講義内容確認テストによる評価」など，多岐にわたる評価を総合的に判断材料とし，評価を行っています。

５　成果と課題

自己肯定感及び自己有用感，社会人基礎力の自己評価式の測定において，学習前と後では全ての項目において数値が伸びていることが判明しました。また，地域における活動を行っていく中で自然と愛郷心を育てるとともに，地域住民のみならず，様々な大学や企業の方々との広がりとつながりを生み出すことができました。しかし，地域人教育は高校３年間の成果だけではかりきれない部分が多く，今後，卒業後の生徒達の変化も追跡調査していく必要があると思っています。



［３者協定を核とした多様な連携］

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
						○		○	○	○	○

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	静岡県	**学校名**	静岡県立沼津商業高等学校

１　科目名「課題研究」　３学年、単位数：３、必履修科目（地域研究選択集団）

２　授業概要

新学習指導要領の教科「商業」において科目「観光ビジネス」が新設された。最近、企業の業績にインバウンド消費が指標になるなど日本経済における観光の重要性は増しているが、観光を担う人材不足は課題である。観光に携わる地域人材育成のために、地域と連携した学習活動をすることによって地元への愛着を育む教育は重要と言える。

本授業は、情報ビジネス科３年生「課題研究」地域研究の生徒を対象とし、昨年度「伊豆半島ジオパーク」に関する調査研究を実施した。今年度は、先輩の研究を引き継ぎ、その反省と課題を踏まえて「伊豆半島ジオパーク」の認知度向上を目標として活動する。具体的には、「交通は不便であるが、ツアーを組めばジオサイトに行きやすいのではないか。」という仮説を立て、JR東日本、伊豆急行、伊豆箱根鉄道、東海バスなどの公共交通機関へ高校生の企画したツアーを提案する。また、外国人観光客にも対応するためにツアーパンフレットの英語表記にも挑戦したい。

高校生自らがツアーを企画することで、地域の良さを再発見し、地元を深く知り、地域への愛着心を育むことにより、高校卒業後も地元へ戻り、地域の未来を創ることを期待したい。地域を「知る」「認める」「創る」の３つを柱として研究を進めたい。

３　授業実施上の工夫

(1) 毎時間の目標を定め、どこまで達成したのか、次回は何を行うかを記録し、提出させる。
(2) 学期に２回以上プレゼンテーションを行い、生徒と複数教師で評価する発表大会を実施する。
(3) 企業訪問の実施や企業の方に来校してもらい、実社会の話を聞く機会を設ける。
(4) 大学生とコラボレーションし、フィールドワークなど連携した学習を行う。

４　評価方法

(1) 自己目標の達成状況を数値化（毎回提出）
(2) 発表大会の評価点
(3) 企業の話や大学生との学習後の感想文

2018.11.10 ふじのくに実学ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌｪｽﾀ
販売・発表

５　成果と課題

【成果】

生徒は、課題解決のために自分たちで考えを出し合い、疑問点や未知な事を調べ、実際に現地へ行くことで考えを深めることができた。また、地域社会の皆様との出会いや繋がりを通じて、生徒は大きく成長し、地域貢献・地域活性化の意識を持つことができた。

【課題】

企業、行政、大学など関係機関との連絡調整には苦労し、場当たり的に指導することが多かった。今年度は、昨年度の反省を踏まえ、年間指導計画をしっかりと作成し、実施したい。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○		○		○		○	○	○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	富山県	**学校名**	富山県立富山商業高等学校

１　科目名「課題研究　ビジネス実務の研究」３年　３単位　必修

２　授業概要

・「来客を迎える場合、どんな応対が必要であるか」発問し、生徒に考えさせる。
　来客応対の手順を確認し、
　①受付での出迎え・取り次ぎ
　②応接室への案内・誘導
　③お茶の接遇
　④見送り
　それぞれのポイントを説明し、来客応対のマナーを理解させる。
・来客の出迎えから、見送りまでの一連の応対について一人ずつ実技指導を行う。生徒には、応対役と来客役の両方を体験させる。
・実際の茶器セットを用いて、お茶の入れ方・運び方・出し方の指導を行う。
・来客人数や茶菓子の有り無し等、さまざまな場面を想定して実施する。

３　授業実施上の工夫

・ロールプレイングの様子を録画する。
・動画を視聴しながら、他者の良かった点や自己の反省点を見つけ出し、正しい応対マナーをしっかりと身に付ける。・録画したロールプレイングの様子を全員で視聴し、振り返りを行う。
　（グループディスカッション）

４　評価方法

	目標とする基準	S	A	B	C
自主性 粘り強く挑戦する力	自ら挑戦し、諦めず最後まで粘り強く取り組むことができる。	困難な状況下においても諦めることなく、考えを巡らせ対処することができる。	咄嗟の判断がつかない場合でも、諦めずに最後まで取り組もうとしている。	スムーズに対応ができないものの、誠実に対応しようとしている。	やる気が感じられず、相手への敬意も感じられない。

５　成果と課題

①話し合いや協働し合いながら学習することで、わからないところは気軽に質問ができ、自らも責任を持ってグループに貢献しようと一生懸命に取り組むことで、学習内容の理解度が上昇した。
②効率よく作業を進めていくために、役割分担を行いながらグループワークを進めた。その話し合いの中で、自分の仕事を見つけ、役割を担うことで、協調性やコミュニケーション能力の向上につながった。
③明確な答えが存在しないため、自分なりの答えにたどり着こうと一生懸命に考えていた。それが思考力・判断力・表現力の向上につながった。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○		○	○	○	○			○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	岐阜県	学校名	岐阜県立岐阜商業高等学校

１　科目名「課題研究」

流通ビジネス科　３年生　３単位

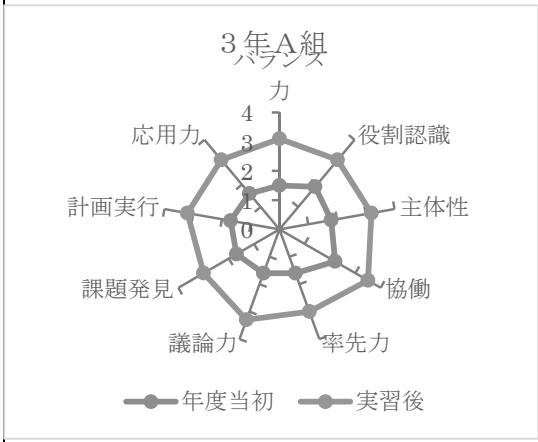
２　授業概要

１・２年生のマーケティングで学習したことを生かし、株式会社ＧＩＦＵＳＨＯの販売事業部の活動（販売商品の選定、仕入、価格交渉、販売促進活動、販売、検証等を各クラス２回）により実践的な学習を通してマーケティングの基礎を身に付け、主体的に問題を解決する資質や能力を養い、豊かな人間性を育成するとともに、起業家精神、コミュニケーション能力等を伸長し、地域に根差した産業人の育成を図る。

３　授業実施上の工夫

・生徒たちが主体的に取り組めるように教員は生徒たちに支持をせず、良き助言者となるよう留意した。
・ルーブリックにより生徒たちに身に着けたい能力を明らかにし販売実習に取り組んだ。
・１、２年生に報告会を実施し、取り組みが継続するように留意した。

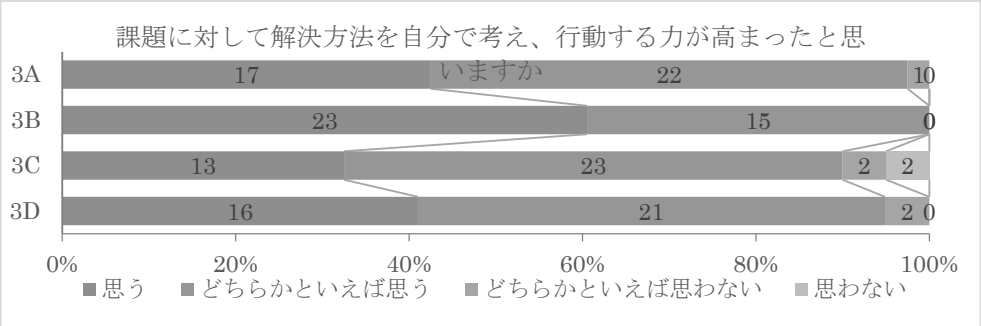
４　評価方法



ルーブリック評価により組織的行動能力（チーム、組織の目標を達成するために何をすべきか、複数の視点から多面的、客観的に捉え、適切な判断を下し、当事者意識をもって行動する。その際、他者とお互いの考えを尊重し、信頼関係を築いてそれを維持しつつ行動する）、問題解決力（課題を正しく理解する。解決策を立て実行する。その結果を検証し、計画の見直しや次の計画への反映を行う）、コミュニケーション力（他人の意見あるいは記述された文章を正しく理解したうえで、それに対する自分の意見を明確に表現する。効果的な説明方法や手段を用いて、関係者を納得させる）の３要素について、実習前と実習後の状態についてレベル０からレベル４のどの状態かを調査した結果（各項目の平均値）に表れている。

５　成果と課題

アンケートより



。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○		○	○	○		○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	滋賀県	**学校名**	滋賀県立大津商業高等学校

１　科目名「課題研究　会計エキスパート講座」

第３学年　総合ビジネス科　３単位　必修科目

２　授業概要

１学期及び
２学期の１０月まで
　財務会計Ⅱ及び管理会計、財務諸表分析の内容の演習問題を各自で取り組ませ、理解ができた生徒が、理解が不十分な生徒に対して教える形態を取り入れた授業を実施。（ペアーワーク、生徒が前に出て全体に対して説明をする）
１１月以降
　それまで学習した知識・技術を活用して、実際の企業の有価証券報告書のデータ分析に取り組ませる。
　分析に際しては、各生徒が自分で選んだ業界、企業について、実際の数値を用いて算出した指標により業績分析。（主体的・深い学び）
３学期
　各自で実際の数値の裏付けをもって分析した、企業の将来性や現状分析の内容についてプレゼンテーションソフトを利用してまとめ、発表する。（各自の取り組み）

３　授業実施上の工夫

研究企業の選定に際し、直近に大きな経営方針の転換などあった企業並びに業界をいくつか提示したうえで、各生徒が決定するように努めた。
（変化があまりない企業同士の比較分析をすると、生徒が違いを導き出すことが困難であろうと考え、このような方法を取った）

４　評価方法

企業分析結果のプレゼンテーション（相互評価）

５　成果と課題

＜成　果＞　今まで学習してきた会計の知識・技術が実際の企業でどのように活用されているかについて、各生徒が
＜課　題＞　企業分析をするうえで、会計情報以外の企業情報や旬なニュースについての情報収集を各生徒にいかにさせるかが課題。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○		○							

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	福岡県	学校名	福岡県立宇美商業高等学校

１　科目名「課題研究」

３年生　３単位　必修

ビジネス情報科２クラス（８０名）を６講座に分ける。生徒は講座のオリエンテーションを聴き、自分で講座を選択する。講座では、始めに各自の課題や目標を設定する。その後、他の生徒と協働して解決に向けて授業に取り組む。

２　授業概要

授業では、地元企業（酒造会社）と連携した商品開発（ノンアルコール甘酒）を行った。まず前年度に開発したオレンジ味の甘酒「オレアマ」を、より多くの地域の方々に知ってもらうための取り組みについて、ペアワーク・グループ討議で話し合いをした。その結果、地域のショッピングモールでの販売活動を行うことを計画し、その実現に向けて必要なことを全員で討議した。６月に販売会を実施し、甘酒２００本を販売した。

次に開発過程であるが、酒造会社の担当者である製造課長から、甘酒開発のポイントを講義していただいた。そのうえで、自分たちで米麹を煮詰めて甘酒をつくり、フルーツ果汁や香料を混ぜて試作品を作り、試飲やアンケートを繰り返して商品コンセプトに合う甘酒を開発した。

開発と並行して、自治体、製造会社、システム代行業者、学校の４者協議を行い、ふるさと納税の返礼品として採用される手続きをすすめた。返礼品は、本校が開発したオリジナル商品（甘酒とかりんとう）のセットとした。製造業者が違うため２種類の商品を学校に集め、返礼品の注文が入ると代行業者から学校にＦＡＸが送信され、箱詰めや梱包作業をして発送した。

３　授業実施上の工夫

授業（開発）の目標を、①誰にでも受け入れられる商品の開発　②開発した商品を地域の方々に広く認知してもらう　③商品を販売することで地域社会・地域産業を活性化させる　の三点とした。これらを達成するための取り組みを、話し合いによって生徒が主体的に決めていけるよう工夫した。生徒の自由な発想を受け入れる。実施が困難なことでも実現可能にするための発想の転換に留意して指導した。

４　評価方法

評価については、観点別評価を行った。「関心・意欲・態度」では強い課題意識と好奇心を持って多面的視点で取り組んだか、「思考・判断・表現」では課題解決に向けて発想に富んだ方法を考えられたか、「知識・技能」では先行研究や既知の事実を整理し、自分の考えと比較・検討し、新たな知識を身につけることができたか、などを評価の項目とした。定期考査は実施していないので、授業中の取り組み、日誌、小テスト、提出物などを観点別に評価した。

５　成果と課題

（成果）　・創造力や探究心が深まった。また地域とのつながりや新たな出会いがあった。
　　・未知、未経験のことに積極的に取り組み、チャレンジ精神が向上した。

（課題）　・ふるさと納税の広告宣伝が足りず、地域社会の振興に十分貢献できなかった。
　　・販路を拡大し、年間を通じて常時販売できる環境をつくれなかった。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
			○		○	○	○	○		○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	宮崎県	学校名	宮崎県立都城商業高等学校

１　科目名「課題研究」
３年生、２単位、必修

２　授業概要
地域を学びのベースとしたOST（オープンスペーステクノロジー）の実施までの時間数

時間	内容
２時間	授業の概要説明
１時間	三股町地域おこし協力隊からストーリーテリング
２時間	三股町長田地区へのフィールドワーク
２時間	思考ツール（６つの帽子）やフレームワークを活用して多角的な対話の促進
２時間	問「三股町長田地区の長田峡で観光客に滞在時間や客単価を上げるために高校生ができる企画を考えよう」 参加者：行政、三股町、地域おこし協力隊等　２５名 ・OST（オープンスペーステクノロジー）の活用 OSTとは、参加者にとって重要なテーマについて深い洞察を得るために用いられる方法である。安全で勇気づけ合う関係性が生まれたら、関心のあるテーマについて深く、創造的に考える時間を持つことができる。衝突のある複雑な問題であっても、混乱が許されるオープンさが場に存在することで、創造的かつ主体的に取り組む姿勢が生まれる。 ・ハーベストシートの活用 これは、対話を通じて共有された気づきや次のアクションなどを、テーマごとにハーベスティングシートに、「これまでの学びでの活用」「テーマを実現させるためのサポート」「ビジネス的な視点」の３つを順序立ててまとめ、発表を行い情報の共有化を図る。

３　授業実施上の工夫
行政・地域おこし協力隊・大学生等、多様な参加者と対話による協働を行った。各班ごとに大学生が均等に割り振られるよう工夫し、テーブルファシリテーションをお願いし、活発な対話を促進した。地域課題の解決のため、「これまでの商業の学び」と「ビジネス的な視点」を意識した内容や問いづくりを行った。

４　評価方法
課題研究の評価という事もあり、基本的には研究日誌の内容やルーブリック評価を作成し行った。生徒に事前に評価方法の内容は提示している。

５　成果と課題
成果
地域を学びのベースとして、多様な人たちと協働して地域課題の解決へ向けてビジネス的な視点を盛り込みながら、行うことができた。またルーブリック評価を事前に生徒へ示すことにより教師が期待する成果へと繋がった。
課題
課題研究の評価方法として、総括的な評価を中心に行ってきたが、短期・中期・長期的な視点に立った評価方法の工夫改善を行うことが必要である。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○				○				○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	鹿児島県	学校名	鹿児島商業高等学校

１　科目名「課題研究」

履修学年：３学年　単位数：３単位　履修形態：必修

課題研究とは問題解決のための継続的な学習の一層の推進を図ることを目的として設けられた科目で、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てるという視点に立った指導を行っている。

２　授業概要

本校の「課題研究」には資格取得や実務・実践的な講座が９つある。「地域プロデュース講座」は地域の発展に向けたより良い答えを探究する目的で、地域の新たな魅力の発掘やブランド戦略化に必要な知識・技能を身につけ、地域の課題を解決し、未来をプロデュースしていく地域リーダーを育成することを目指している。生徒たちが主体的にブレーンストーミングやＫＪ法を導入して地域の課題解決の為にアイデアを出し合い、ＰＤＣＡのサイクルを用いつつ学習していくものである。フィールドワークを中心とした授業形態で、地元企業や他校種と協働連携して「地域おこし」を目的とした様々なイベント等のプロデュースを実践している。これまでも産学官連携で結婚式、プロサッカーチームのホームゲーム、地元百貨店等をプロデュースしてきた。

３　授業実施上の工夫

授業を行う上で大切にしていることは「実践」を主とした形態であるため、教師の役割を「教える」ではなく、「ガイドする」という意識で臨む点である。具体的には生徒が自ら学び、ＰＤＣＡを回せるように導く、教師側の説明やアドバイスを減らす代わりに必要な資料提供を積極的に行う、外部との連絡調整はアプローチからその後の商談等も生徒にさせるが、その前後の相手方へのフォローは必ず教師が行うといったものである。

４　評価方法

教師サイドの評価は基本的には「課題研究日誌」の日報・月報・中間申告書・最終申告書が評価基準となる。期日厳守の提出、内容の確認、文字の丁寧さなどを点数化して評価している。また、地域プロデュース講座では日誌の提出と併せて、２月までに「研究報告書」の作成提出を促し、生徒の自己評価や、生徒間での相互評価もできるようにしている。

５　成果と課題

最初と最後の授業で生徒には自己評価基準カード（右図）を記入させ、年間の活動を通して自分ができる事がどのぐらい増えたのか、伸ばしきれなかった部分は何だったのか等を検証できるようにしている。教師側は結果をデータ化し、課題を明確にすることで次年度への対応を図ることができている。

	資質・能力	習得目標内容	最初授業	最後授業
①	チャレンジ力	試行錯誤できる、失敗にくじけない		
②	アイデア力	モノ・サービスを考案することができる		
③	企画立案力	アイデアを具現化することができる		
④	状況把握力	自分と周囲の人々と物事との関係性を理解できる		
⑤	問題発見力	社会のニーズを見つけることができる		
⑥	チームワーク力	多様な物者と力を合わせて行動することができる		
⑦	コミュニケーション力	人の話を聞き、自分の意見を分かりやすく伝えることができる		
⑧	プレゼンテーション力	相手に内容を理解してもらい同意を得ることができる		

自己評価基準カード

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
						○		○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	佐賀県	学校名	佐賀県立佐賀商業高等学校

１　科目名「総合実践」

情報処理科　３年生　３単位

２　授業概要

年間を通じてインターネットショッピングモールの運営（企業との契約・ＨＰの作成と管理）を行っている。

年間の授業計画は以下の通り。

４月・・・担当企業への挨拶（名刺持参）・担当企業について調べる
５月・・・担当企業とのＨＰ作成についての打ち合わせ・自分の担当企業についてのプレゼン
６月・・・効果的な写真の撮り方を学習
７月・・・担当企業のＨＰ作成
９月・・・作成したＨＰについてのプレゼン
１０月・・・新規契約先の開拓（地元の企業調査・営業活動）・販売実習
１１月・・・営業活動についての報告
１２月・・・年賀状の作成・販売実習
１月・・・後輩への引継ぎ資料の作成
２月・・・後輩への引継ぎ

３　授業実施上の工夫

佐賀県の県立高校生は全員小型のＰＣを持っており（学習用ＰＣ）多くの場面でそのＰＣを活用して調べ学習を行い、それをまとめてプレゼンテーションを行うことでＩＣＴ利活用能力・プレゼン能力の向上と問題解決のための課題の発見・解決のための考え方を養っている。

また、自分の担当企業への電話連絡や訪問しての打ち合わせを多く行い、自分の考えを相手に伝えることや相手の考えをＨＰで具体的に表現する力を育てている。

４　評価方法

プレゼンテーションに関しては、学習用ＰＣのアンケート機能を利用して生徒間の相互評価を行っている。

５　成果と課題

プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力については毎年大きな成長が見られる。今後は企業経営についての探究的な活動を増やしていきたい。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○			○	○	○	○	○	○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	沖縄県	**学校名**	沖縄県立具志川商業高等学校

１　科目名「総合実践」

3年、リゾート観光科、必修科目

２　授業概要

本校リゾート観光科は、40名1クラスの規模で入学から卒業まで生徒のクラス替えなどはない。沖縄に来る観光客が年々増加し平成30年には970万人とアメリカのハワイと比較される観光地となっている。その観光地を支える人材育成を目標に設立され地域資源を活用した観光地案内プログラム「ＨＡＰＰＹ　ＴＯＵＲ」を展開している。３年生40名による『総合実践』では、授業方法として生徒の主体的な学びを引き出すためにグループによる協同学習を推進し、協力して観光案内プログラムを企画・準備し実践できるように日々取り組んでいる。

具体的には、地元高校生による①勝連城跡ガイド実習、②海外研修旅行生との学校交流プログラムを授業内容としている。①については地域にある小学校4年生に対してガイドをしていきたが昨年度からは、沖縄にくる海外からの修学旅行生に向けて英語によるガイド実習をしている。

また、②については沖縄の伝統音楽『三線体験』や沖縄伝統料理『ひらやーちー』を海外修学旅行生に伝える取り組みをしている。

３　授業実施上の工夫

この授業を始めるにあたって日本と海外との文化や考え方の差について学習しておくこと、あいさつや日常会話を外国語でできるように事前に予想問答集などを作成している。さらに、授業において教員を頼りすぎないように事前の準備のシュミレーションなどを実施している。

４　評価方法

評価方法は、生徒自身による授業前後の自己評価を中心に行っている。さらに職員による評価は観察法を用いている。学期末には知識と理解の定着をはかるために定期テストも実施している。

５　成果と課題

生徒によるグループ学習による協同学習をすることでコミュニケーション能力を育成できた。また、学習評価に客観性があるかどうかを検証していないので今年度の課題としたい。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
			○			○		○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	群馬県	学校名	利根沼田学校組合立利根商業高等学校

１　科目名「ビジネス実務」

国際経済科の２学年で履修する。生徒は科目「ビジネス実務」、「マーケティング」、「財務会計Ⅰ」の３科目から１科目を選択・履修する。修得単位数は２である。

２　授業概要

「インターネット上の仮想店舗」と「実際の店舗」について、それぞれの利点と欠点を立論・質疑・反駁のディベート形式で話し合う。生徒はこのテーマについて、科学的な根拠に基づき思考し、他の意見を持つ生徒と積極的にコミュニケーションを図る。

ディベートを行うことにより、生徒は常に説明に道筋を立てようと努力する。よって、生徒は、物事を論理的に捉えたり、分析したりすることができるようになる。また、自己評価の活動を通じて、説明内容の信頼性や妥当性について、客観的に判断する力を身につけることも期待できる。

ディベートの概要

①ネット側立論（３分）　②店舗側立論（３分）　作戦タイム（２分）
③ネット側質疑（３分）　④店舗側質疑（３分）　作戦タイム（２分）
⑤ネット側反駁（３分）　⑥店舗側反駁（３分）　作戦タイム（２分）
⑦ネット側最終弁論（３分）　⑧店舗側最終弁論（３分）
※審判がテーマに関する肯定か否定かを決議する。

３　授業実施上の工夫

メインテーマ「主体的・対話的で深い学びを実現する授業モデルの研究」、サブテーマ「商業の楽しさを伝える授業づくりを目指して」を年度当初設定して商業科「ビジネス実務」の科目の中でディベートに焦点をあてた授業を展開した。ディベートに関する授業の実践者はもちろん生徒のほとんどが経験のないことであったので、本時までにディベート学習とガイダンスとして１時間、テーマ設定とディベートのための準備調査として２時間を要した。

４　評価方法

評価シートを作成し、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄの４段階で評価活動を行った。

５　成果と課題

おおむね生徒の反応もよく、教員も楽しそうな雰囲気の中で授業が展開された。本時は商業の面白さを伝えるには有効な手法であった。今後は、授業の詳細についてはさらなる研究を重ねたい。課題としては、授業の参加人数があげられる。今回は10名の生徒を対象とする少人数クラスで授業を実施したが、大人数になったときどのように展開・評価をすればよいのかという問題が生じた。また、多人数を対象とする授業の場合は、その場でくじを引かせて行うことも考えられる。よって、そのレベルまで指導していく（価値のある）題材を用意すべきであろう。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
	○	○		○		○		○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	東京都	学校名	東京都立芝商業高等学校

１　科目名「ビジネスアイデア」（学校設定科目）

履修学年：第２学年、単位数：３単位、履修形態：必修、設置年度：平成３０年度

２　授業概要

(1) 学習のねらい

起業等に関する課題の発見と解決を図る学習を通して、マーケティングに関わる専門的な知識と技術を習得させ、ビジネスについて創造的に考える能力と態度を育てる。

(2) 年間授業計画

月	項　目	内　容
4	・オリエンテーション ・アイデアの発想方法	・授業の内容や進め方、評価方法などの説明 ・マインドマップを活用した発想方法の理解
5	・アイデアの発想方法 ・論理的な考え方	・ブレインストーミングを活用した発想方法の理解 ・ＭＥＣＥを活用した論理的なものの考え方や分析の理解
6	・現状分析 ・連携授業	・３Ｃ分析、ＳＷＯＴ分析を活用した現状分析の理解 ・日本政策金融公庫「ビジネスプラングランプリ」の説明
7	・マーケティング戦略	・ＳＴＰ、４Ｐを活用したマーケティング戦略の理解
9	・連携授業 ・価格	・ビジネスプランの作成 ・価格戦略、損益分岐点についての理解
10	・ビジネスプランの作成 ・プランの分析	・与えられたテーマについてのビジネスプランの作成 ・９セルを活用して作成したビジネスプランの整理
11	・ビジネスプランの作成 ・プレゼンテーション	・与えられたテーマについてのビジネスプランの作成 ・ＦＡＢＥを活用した説得力のあるプレゼンテーション
12	・ビジネスプランの作成	・与えられたテーマについてのビジネスプランの作成
1	・ビジネスプランの作成	・与えられたテーマについてのビジネスプランの作成
2	・ビジネスプランの作成	・作成したビジネスプランの発表準備
3	・ビジネスプランの作成	・作成したビジネスプランの発表

３　授業実施上の工夫

(1) ６学級を教員６名が担当し、週に一度の割合で科目会議を開催して情報の共有化を図った。

(2) 公開授業等の実施を通して学習内容や評価方法等を検証し、組織的に授業改善を図った。

４　評価方法

(1) 評価の観点及び主な評価規準（育成する能力・態度）

①創造的に考える能力 ・身近なビジネスの改善案を発想できる ・知識や技術を創造的に組み合わせている	②論理的にまとめる能力 ・現状を分析し目的や課題を明らかにできる ・根拠に基づいたプランを作成し説明できる
③主体的・協働的に取り組む態度 ・ビジネスマナーを意識して授業に臨んでいる ・仕事の分担を適切に行い実践できる	④知識や技能の適切な理解 ・フレームワームを理解し活用することができる ・発表するための手法を理解している

(2) 評価基準

A	十分満足できる内容に加え、さらに工夫が見られる。
B	おおむね満足できる適切な内容である。
C	不十分な部分もあるが、一部に適切な内容も見られる。
D	不十分であり、今後の努力を要する。

５　成果と課題

(1) 成果

○様々なツールを活用し根拠に基づいてアイデアを発想する力を育成することができた。

○他者と協働して課題を解決するためのコミュニケーション能力を育成することができた。

(2) 課題

○第３学年で履修する科目「課題研究」の調査研究に円滑に接続させていく必要がある。

○教員がグループワークを進めるためのファシリテーション力を身に付ける必要がある。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○		○				○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	長野県	学校名	長野県長野商業高等学校

1　科目名「長商デパート」

平成30年度に課題研究から学校設定科目に変更。

各学年１単位必履修

2　授業概要

(1) 長野商業高校の伝統行事「模擬株式会社長商デパート大売出し」（第１回の1916年から103年目。戦時中に８年間の中断期間があり第95回を迎える）に関わる学習活動を科目名として位置付けている。

(2) 大売出しは10月下旬に開催しているが、各年度の企画、運営、実施から株主総会まで年間計画の中で学習活動として展開し、普通教科職員も含めた全職員で評価している。

［学習活動の構成概要］

①年間５回の合同会議（全社員の集会、合同マナー実習や所属部署ごとの学年縦割りの組織による会議。グループワーク形式に変えていきたい。）

②市場調査

③取引先企業でのインターンシップ（商品知識、販売手法等の知識・技術の獲得を兼ねる）

④取引先企業との仕入れに関わる折衝（多様な年代の人々との協議、経営計画、仮説）

⑤実践活動（仕入、販売、商品管理、売上管理、売上分析、仮説の検証）

⑥株主総会や部署ごとの振り返り合同会議（振り返り）

(3) 卒業生の社会での活躍状況から、伝統行事が学力の三要素を網羅した仕組みであり、一世紀の時を超えたイベント型アクティブラーニングであったことが最近わかってきた。

3　授業実施上の工夫

(1) 仕入先の選定と商品知識の取得

新規企業等とのグループ討議（企業担当者対生徒）、商品の知識と理解を深める。

(2) 売り場・係によるグループワーク

「長商デパート」への理解や魅力づくり等をテーマにグループワークを行い、成果の振り返り・課題等を発見し、解決する取組をとおして主体的に学ぶ姿勢や態度を育む。

(3) 事後のデータ分析と技能

営業報告書や財務諸表の作成、株主総会の運営。

4　評価方法

(1) 知識・技能に関する評価

商品知識（商品理解）、出欠管理、売上げデータ管理等、資料作成に活かされているか。

(2) 思考力・判断力・表現力に関する評価

突発的な事例に対し冷静な言動がとれるか、判断し難い案件は適切な協力要請をしているか。

(3) 主体的な学びに関する評価

営業日誌による自己評価、振り返りシートの作成、社員から取締役等への意見箱の設置。

5　成果と課題

(1) 合同会議のグループワーク化

(2) 教員の主観的な姿勢の評価から観点を生徒に明示したルーブリック評価の導入

(3) 市場調査や顧客ニーズ検索等をとおして企画・開発していくプロセスを学ばせながら、魅力ある商品企画開発を推し進めていきたい。

6　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○		○	○	○		○	○	○	○	○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	滋賀県	学校名	滋賀県立八幡商業高等学校

１　科目名「近江商人探究Ⅰ（含む１年生全員販売実習）」

ＳＰＨ研究指定に関わる学校設定科目である。履修学年は１年、単位数は１単位、１年生全員必修である。

２　授業概要

学校設定科目の「近江商人探究Ⅰ」は、１年生全員が１単位で本校の自作教材を使って学習している。この科目では、近江商人についての理論的な学習とCSRの概念についての学習を行ない、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方よし」の精神を育成し、定着させることを目標としている。学習内容としては、ア）近江商人の理念と商法、イ）近江商人の「三方よし」の精神、ウ）近江商人の複式簿記、エ）近江商人の家訓にみる経営者精神、オ）外部講師による講演や施設見学などである。３学期には、CSRの概念についての学習を行なっている。また、１学期末には映画「てんびんの詩」の鑑賞、２学期はじめには近江八幡市立資料館の見学、２学期末には１年生全員販売実習や講師招聘授業、３学期には１年生国内インターンシップ等の体験学習も行なっている。

特に、２学期末の１年生全員販売実習は、地域を学びのフィールドとした実践的な学習活動であり、１年生全員が行商による販売実習をクラス別班別で実施する。この販売実習において、連続で断られたときは心が折れそうになったり、逆に買っていただいたときはすごくうれしかったりと、商品を売ることの難しさを実感するのである。さらに、コンプライアンス意識や「三方よし」の精神を実際に体感するのである。

３　授業実施上の工夫

１年生全員販売実習については、以下の点を考慮した。

①各班４名編成（機械的に４名一班とした）で、販売区域も住宅地図で区割りを行なった。

②商品は番重を利用して販売を行った。雨の時の対策も行なった。

③ビジネスマナーについては授業において練習を行なった。

４　評価方法

１年生全員販売実習については、各班で作成する売上帳・金銭出納帳や個人の感想文等も評価項目とした。

５　成果と課題

・成果：利益は、震災復興等社会福祉支援に寄付し「三方よし」の「世間よし」（社会貢献）につなげている。学年の取り組みとしても位置付けられ、担任の先生方にも巡視などで協力していただき、生徒の頑張る様子を見ていただけた。

・課題：完売することが目的になり、「三方よし」の精神を実際に体感することを忘れて、班の間で競争を始めることである。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○		○		○			○			○	

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	滋賀県	学校名	滋賀県立八幡商業高等学校

１　科目名「地域と近江商人」

３年生　国際経済科　　２単位

２　授業概要

○　商業、国語、英語で、それぞれの教科担当者が年間授業計画に基づき指導。全授業に３教科の教員が入り、主担当の授業をサポートしている。

※　教科横断的な指導をしている。

＊　商業　：　近江商人の商法、精神などを中心に、「商業」の本質や学校史も含めた内容で、グループワークや討論、実習的活動を取り入れ、生徒自身に課題解決等を図れるように指導。

＊　国語　：　近江商人に関わる地域（滋賀）の文化や個々の近江商人の人物伝や商法などの調査研究を行い、報告書・新聞等を作成したのち、発表を行う。

＊　英語　：　近江商人に関わり、地元地域（近江八幡市）の文化等を調査研究し、外国からの訪問者に紹介できるように英語でパンフレットを作成、その後発表を行う。

３　授業実施上の工夫

＊　各教科分野とも共通して、「生徒自身に考えさせ、課題解決を図る。」ことを意識した指導を行っている。

＊　国語、英語に関しては、個人または２，３人のグループで調査研究等を行い、調査研究時には生徒間での話し合い活動や相互に助言等を行い合うことを重視している。指導教員は、各授業時に、進捗状況を確認しながら授業開始時に本時の到達目標を示し、生徒の活動時には指導・助言等を行っている。

（国語には商業科教員、図書館司書等がサポート。英語には商業科教員、ＡＬＴがサポート）

＊　商業に関しては、指導担当者が現代社会・経済等に関わる時事問題等を講話するなかで、近江商人や商業に関する話題につなげ、本時の指導内容を示す。その後、指導内容に関するテーマ等に基づき、生徒間の話し合い活動や実習的活動を行っている。生徒間の話し合い活動・実習的活動には、３教科の指導担当教員が生徒の中に入り、助言等を行いながらも一緒に考察・参加等をしている。

４　評価方法

＊　生徒の調査研究後の作品の評価、発表時の生徒間評価を加味して評価。

＊　日常の授業報告書（レポート）や、授業内容のまとめなどの評価。

＊　授業時の生徒の意欲、態度、発表、指導助言等の求め方などの評価。

５　成果と課題

＊　生徒自身に、課題解決に向けた考察をさせることにより、自主的で、探究心を持ち、生徒間の話し合い活動による対話的な姿勢・態度などが身につき、将来の社会的自立・自立に向けた力が育まれていると考える。

＊　３教科の指導担当教員の指導の事前打合せや指導方針等の共通理解・認識等が必要であり、時間的な課題等がある。また、生徒の進捗状況に応じた指導を行わなければならないため、臨機応変的な対応が必要になる。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
○		○	○	○	○	○		○	○		

新学習指導要領の実施に向けた事例（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践）

都道府県名	島根県	**学校名**	島根県立情報科学高等学校

１　科目名　**「①キャリア基礎（学校設定科目）」**2年次、2単位、必修
「②課題研究」3年次、3単位、必修

２　授業概要

本校は2年時に学校設定科目の中で、学年全員がディベートを実施し、その後3年生の課題研究の時間にディベートを複数回授業に取り入れている。授業展開としては以下の通りである。

・各クラス（40人）を3グループに分け、更に1グループの中を肯定側・否定側・ジャッジに分ける。
・論題は地元企業を題材としたオリジナル教材を作成している。論題作成のために教員が複数回企業へ取材に出向き、企業と共に作成する。
・論題を読み込み、理解するのに2時間程度使用する。
・方法は競技ディベートの形をとり、立論→質疑→反駁→最終弁論→ジャッジとし、時間を区切る。

３　授業実施上の工夫

・ますは論題（ディベートの資料）を地元企業を題材としたオリジナル教材を作成している事。ディベートを通じて地元の強みや弱みを理解できる授業としたい。そのため、地元企業と深く関わりを持った資料ができ、ディベート以外にも連携した取り組みへと発展している。
・ディベートはプロジェクト学習であり、広義のＳＴＥＭ教育と呼べる。ディベート前に知識が不足していたとしても、ディベートというプロジェクトを成立させるために生徒は主体的に学ぶ機会をつくる。またそのような主体性が生まれるよう工夫している。
・評価に関しては、詳細な評価シートを作成し、生徒同士の相互評価を一部評価の中に組み入れている。これにより、評価する側の視点を持てるようになり、評価されるために必要な要素は何かを考えることに繋がる。

４　評価方法

・上記に記したように、生徒による相互評価を実施している。どのように評価したのかという内容も評価に加える。
・加えて教員の見取りにより、授業への取り組み、ディベートの際の発言とその質、事前学習におけるチームへの貢献度などを評価している。

５　成果と課題

【成果】学びに主体性が生まれた。リアルなプロジェクトは学びに理由を与えてくれるが、それに近い成果が教室内での学びで実現できる。地域を知り強みと課題を認識できる。それが、高校生だからこそできる地位貢献の形を模索するきっかけとなっている。また、知識として学んだことをアウトプットできるレベルが高まった。知識を他者に伝え、目的を達成するための道具として使うことができる知恵へと高まっていると感じる。
【課題】継続性がなければ知識の高まりは期待できない。現行のカリキュラムはＳＢＬ（科目進行型）のため、十分な時間の確保が難しい。他者と協働した学びで質の高い右往左往をさせる時間が必要。それを実現するための組織体制を構築することが今後の課題である。

６　この授業で実践している【学習活動例】※該当する学習活動全てに○印を入れてください

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
		○		○	○	○	○	○	○	○	

Ⅲ　先進事例の授業で実践している学習活動例の一覧

No.	都道府県名	学校名	科目	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
1	宮城県	宮城県大河原商業高等学校	ビジネス基礎			○						○	○		
2	茨城県	茨城県立那珂湊高等学校	ビジネス基礎									○	○		
3	群馬県	太田市立太田高等学校	ビジネス基礎			○	○	○	○		○	○	○		
4	新潟県	新潟県立新潟商業高等学校	ビジネス基礎		○	○		○	○			○	○		
5	鳥取県	鳥取県立鳥取商業高等学校	ビジネス基礎		○	○		○	○			○	○		
6	広島県	広島市立広島商業高等学校	ビジネス基礎		○	○	○	○	○	○		○	○		
7	福岡県	福岡県立田川科学技術高等学校	ビジネス基礎			○	○	○	○			○	○		
8	熊本県	熊本県立八代東高等学校	ビジネス基礎			○			○					○	
	熊本県	熊本県立八代東高等学校	マーケティング			○			○					○	
	熊本県	熊本県立八代東高等学校	ビジネス実務			○			○					○	
9	東京都	東京都立葛飾商業高等学校	マーケティング	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○
10	静岡県	静岡県立島田商業高等学校	マーケティング	○		○		○	○			○	○	○	
11	鳥取県	鳥取県立鳥取商業高等学校	マーケティング		○	○	○	○	○			○	○		
12	愛媛県	愛媛県立宇和島東高等学校	マーケティング		○	○	○	○		○		○	○	○	○
13	宮崎県	宮崎県立都城商業高等学校	マーケティング			○		○				○			
14	宮崎県	宮崎県立宮崎商業高等学校	マーケティング		○	○		○				○	○		
	宮崎県	宮崎県立宮崎商業高等学校	ビジネス経済応用		○	○		○				○	○		
15	鹿児島県	鹿児島県立南大隅高等学校	マーケティング			○	○	○		○		○	○		
16	愛知県	愛知県立岡崎商業高等学校	商品開発										○		
17	滋賀県	滋賀県立八幡商業高等学校	商品開発					○		○		○			
18	岡山県	岡山県立岡山東商業高等学校	商品開発							○		○	○		
19	長崎県	長崎県立佐世保商業高等学校	商品開発			○		○			○	○	○	○	
20	兵庫県	兵庫県立神戸商業高等学校	商品開発Ⅱ	○	○	○		○	○			○	○		
21	京都府	京都府立京都すばる高等学校	広告と販売促進	○	○	○	○	○	○			○	○		○
22	石川県	石川県立金沢商業高等学校	観光実務Ⅱ			○			○	○	○	○	○		○
23	福井県	福井県立奥越明成高等学校	観光	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	徳島県	徳島県立徳島商業高等学校	観光ビジネス		○	○	○	○		○		○	○	○	
25	福岡県	福岡県立折尾高等学校	広告と販売促進				○		○			○	○	○	
26	沖縄県	沖縄県立名護商工高等学校	広告と販売促進			○						○	○		
27	兵庫県	兵庫県立神戸商業高等学校	貿易実務アドバンスド	○		○					○			○	○
28	香川県	香川県立三木高等学校	流通実践							○		○	○	○	
29	山口県	山口県立柳井商工高等学校	ビジネス経済	○				○	○			○			
30	高知県	高知商業高等学校	ビジネス経済		○			○	○			○	○		
31	高知県	高知商業高等学校	ビジネス経済		○	○	○						○		
32	三重県	三重県立四日市商業高等学校	ビジネスマネジメント		○	○		○	○			○	○	○	
33	大阪府	大阪市立大阪ビジネスフロンティア高等学校	ビジネスマネジメントⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
34	京都府	京都府立京都すばる高等学校	グローバルビジネス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
35	青森県	青森県立八戸商業高等学校	経済活動と法		○	○	○		○			○	○		
36	埼玉県	埼玉県立吉川美南高等学校	経済活動と法			○		○				○			○
37	愛媛県	愛媛県立大洲高等学校	経済活動と法		○	○	○	○	○	○	○	○	○		
38	秋田県	秋田市立秋田商業高等学校	簿記				○					○			
39	福島県	福島県立福島商業高等学校	簿記	○								○	○		○
40	茨城県	茨城県立水戸商業高等学校	簿記			○			○			○	○		
41	千葉県	千葉県立千葉商業高等学校	簿記		○		○	○	○			○	○		○
42	北海道	北海道札幌東商業高等学校	財務会計Ⅰ			○	○	○	○		○	○	○		
43	岩手県	岩手県立水沢商業高等学校	財務会計Ⅰ		○	○			○				○		
44	岩手県	岩手県立宮古商業高等学校	財務会計Ⅰ		○	○	○	○	○	○			○		○
45	滋賀県	滋賀県立八幡商業高等学校	財務会計Ⅱ	○		○		○	○			○	○		
46	岩手県	岩手県立盛岡商業高等学校	原価計算					○	○			○	○		
47	山形県	山形市立商業高等学校	原価計算				○		○			○			○
48	福岡県	福岡県立小倉商業高等学校	原価計算	○		○	○	○	○	○	○	○	○		
49	大分県	大分県立大分商業高等学校	管理会計		○	○	○					○	○		○
50	北海道	北海道苫小牧総合経済高等学校	情報処理		○	○	○	○	○			○	○		
51	宮城県	仙台市立仙台商業高等学校	情報処理		○	○		○				○	○		○
52	栃木県	栃木県立足利清風高等学校	情報処理								○				○
53	福岡県	福岡県立行橋高等学校	情報処理		○		○					○	○		○
54	奈良県	奈良県立奈良朱雀高等学校	電子商取引				○		○	○			○	○	
	奈良県	奈良県立奈良朱雀高等学校	コミュニケーション表現				○		○	○			○	○	
55	滋賀県	滋賀県立大津商業高等学校	電子商取引			○	○				○	○			
56	和歌山県	和歌山県立和歌山商業高等学校	電子商取引				○			○		○	○	○	○
57	千葉県	千葉県立千葉商業高等学校	プログラミング	○			○	○	○			○	○		○
58	秋田県	秋田県立湯沢翔北高等学校	ビジネス情報管理		○			○			○	○			
59	山梨県	甲府市立甲府商業高等学校	課題研究	○	○	○	○	○	○		△	○	○	△	○
60	神奈川県	横浜市立横浜商業高等学校	課題研究		○			○	○	○		○	○	○	
61	長野県	長野県飯田ＯＩＤＥ長姫高等学校	課題研究							○		○	○	○	○
62	静岡県	静岡県立沼津商業高等学校	課題研究	○		○		○		○	○	○	○	○	
63	富山県	富山県立富山商業高等学校	課題研究	○		○	○	○	○			○	○		
64	岐阜県	岐阜県立岐阜商業高等学校	課題研究			○		○	○	○		○	○		
65	滋賀県	滋賀県立大津商業高等学校	課題研究		○	○		○							
66	福岡県	福岡県立宇美商業高等学校	課題研究				○		○	○	○	○		○	
67	宮崎県	宮崎県立都城商業高等学校	課題研究			○				○				○	
68	鹿児島県	鹿児島商業高等学校	課題研究							○		○	○	○	
69	佐賀県	佐賀県立佐賀商業高等学校	総合実践	○			○	○	○	○	○	○	○	○	
70	沖縄県	沖縄県立具志川商業高等学校	総合実践				○			○		○	○	○	
71	群馬県	利根沼田学校組合立利根商業高等学校	ビジネス実務		○	○		○		○		○	○		
72	東京都	東京都立芝商業高等学校	ビジネスアイデア			○		○				○	○	○	
73	長野県	長野県長野商業高等学校	長商デパート	○		○	○	○		○	○	○	○	○	
74	滋賀県	滋賀県立八幡商業高等学校	近江商人探究Ⅰ	○		○		○			○			○	
75	滋賀県	滋賀県立八幡商業高等学校	地域と近江商人	○		○	○	○	○	○		○	○		
76	島根県	島根県立情報科学高等学校	キャリア基礎			○		○	○	○	○	○	○	○	
	島根県	島根県立情報科学高等学校	課題研究			○		○	○	○	○	○	○	○	
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
合計（○）				20	31	55	37	50	45	31	19	67	64	31	19
合計（△）				0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
合計（○＋△）				143				146				182			
育成すべき資質・能力の三つの柱				知識及び技術				思考力、判断力、表現力等				学びに向かう力、人間性等			

Ⅳ　おわりに

昨年の３月に告示された新学習指導要領では、新しい時代に必要となる資質・能力として、①生きて働く「知識・技能」の習得、②思考力・判断力・表現力等、③学びに向かう力・人間性等を、資質・能力の三つの柱として挙げています。そのため、「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら授業の創意工夫を行うことを求められています。各学校では校長のリーダシップの下、教育課程の見直し、改善の取組を進めるとともに、こうしたことへの授業改善についても創意工夫されていることと思います。

そこで、令和元年度の秋季研究協議会で配布する資料では、各学校で行っている授業の創意工夫について、全国の先進的な事例を募ることにしました。事例集ではアクティブ・ラーニングの視点に立って、主体的・対話的で深い学びを行っている授業について、各都道府県において既に研究されてきた事例又はこれから実践が始まろうとしている事例を紹介いただきました。ご多忙にもかかわらず、全部で 76 もの事例を提供いただいた各都道府県の校長先生方には深く感謝申し上げます。

新学習指導要領の実施を控え、今後の授業では学力の三要素をバランスよく育んでいくことが一層求められます。とりわけ思考力・判断力・表現力の育成については、高大接続改革でも多面的な評価の重要性が求められるなど、今まで以上に重要視されています。アクティブ・ラーニングに代表される主体的・対話的で深い学びを重視した授業を推進していくためには、評価方法を含めて、指導法の研究・研修が不可欠です。幸いにも商業関係高校の授業では、ビジネスを教材とした様々な探究活動を取り入れることが可能です。その特色を生かした効果的な授業を展開していく上でも、各学校が独自に創意工夫してきた成果を商業関係高校全体で共有していくことが大切です。

各学校においては、新学習指導要領に対応した授業の改善を検討する際に本資料にまとめられた事例を活用いただければ幸いです。今回の秋季研究協議会では、「新学習指導要領の実施に向けて」と題して活発な研究協議がなされ、全国の校長先生方から多くの意見をいただくことで、各商業関係高校の更なる発展に資するものとなることを願います。

本部提案テーマ年度別一覧

昭和６０年　５月　理産審産業教育分科会「審議のまとめ」と「答申」の対比について
昭和６０年１０月　理産審産業教育分科会「答申」に関連した各県の商業教育の取り組み状況
昭和６１年　５月　企業側からみた商業高校卒業者の受け入れ傾向について
—アンケート調査に基づいて—
昭和６１年１０月　就職状況の変化に対応する進路指導対策について
—アンケート調査に基づいて—
昭和６２年　５月　商業科に関する新しい小学科の設置状況について
昭和６２年１０月　生徒の急減期における商業高校としての対応
昭和６３年　５月　教育課程審議会の答申をふまえた商業教育の展望
—アンケート調査に基づいて—
昭和６３年１０月　将来展望にたった商業教育のあり方—アンケート調査に基づいて—
平成元年　５月　時代の変化に対応する商業教育の展望
—新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—
平成元年１０月　高等学校学習指導要領の実施にむけて
—教科「商業」にかかわる一問一答集—
平成２年　５月　問題解決能力や創造性の育成をめざす商業教育の具体的展開
—課題研究」の研究と実践の推進—
平成２年１０月　高等学校移行措置を生かした商業教育のあり方
—新学習指導要領の取り扱いと学校における対応—
平成３年　５月　２１世紀を拓く商業教育—そのあり方を求めて—
平成３年１０月　２１世紀を拓く商業教育—その具体化にむけて—
平成４年　５月　生徒の個性を伸ばす商業教育—新たな創造を目指して—
平成４年１０月　新学習指導要領の趣旨を生かす教育課程の編成
平成５年　５月　商業教育に関する「聴取り調査」報告
平成５年１０月　商業に関する学科の特色化・個性化について
—教育課程を中心として—
平成６年　５月　進路の多様化に対応する商業教育—大学進学—
平成６年１０月　進路の多様化に対応する商業教育
—専攻科及び高等専門学校の構想—
平成７年　５月　進路の多様化に対応する商業教育—就職指導—
平成７年１０月　高等学校教育の改革—現状と商業高校の課題—
平成８年　５月　社会の進展と商業教育の充実
—これから求められる専門教育の育成—
平成８年１０月　社会の進展と商業教育の充実
—商業教育における基礎・基本の内容をさぐる—
平成９年　５月　２１世紀を展望した商業教育の在り方について
—「生きる力」の育成に対応するための商業教育—
平成９年１０月　２１世紀を展望した商業教育の在り方について
—社会の変化に対応した商業教育—
平成１０年　５月　完全学校週五日制における商業教育の在り方
—新しい情報処理教育の在り方について—
平成１０年１０月　完全学校週五日制における商業教育の在り方
—地域や産業界との連携と開かれた商業教育について—
平成１１年　５月　社会の変化や産業の動向等に対応した商業教育の在り方
—新学習指導要領に基づく教育課程編成上の課題—
平成１１年１０月　高等学校学習指導要領の実施に向けて
—教科「商業」に関する一問一答集—
平成１２年　５月　高等学校学習指導要領の実施に向けて
—新学習指導要領に基づく教育課程の編成例—

平成１２年１０月　就業構造や産業構造の変化に対応する就職指導のあり方
平成１３年　５月　２１世紀における商業教育―大学から見た商業教育―
平成１３年１０月　２１世紀における商業教育の在り方―商業高校からの大学進学―
平成１４年　５月　２１世紀における商業教育の在り方―商業高校が育成する商業高校生像―
平成１４年１０月　２１世紀における商業教育の在り方―商業高校における学校改革―
平成１５年　５月　２１世紀における商業教育の在り方―商業高校における起業家育成教育―
平成１５年１０月　２１世紀における商業教育の在り方
―学校・企業・地域等との連携を考える―
平成１６年　５月　全商本部提案要約集―平成元年～平成１５年度―
平成１６年１０月　次期学習指導要領に向けて―現行学習指導要領と教育課程(商業)―
平成１７年　５月　２１世紀における商業教育の在り方―生徒の職業観・勤労観を考える―
平成１７年１０月　次期学習指導要領に向けて―現行学習指導要領と教育課程(商業)Ⅱ―
平成１８年　５月　学習指導要領改訂への提言(中間まとめ)
平成１８年１０月　学習指導要領改訂への提言
平成１９年　５月　生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について
平成１９年１０月　生徒の個性を伸長する学校経営のあり方について　※　冊子なし
平成２０年　５月　これからの商業教育の実践―商業教育を担う人材の育成について―
平成２０年１０月　これからの商業教育の実践―商業教育を担う人材の育成について―
平成２１年　５月　新高等学校学習指導要領の実施に向けて
―教科「商業」に関する一問一答集―
平成２１年１０月　新高等学校学習指導要領の実施に向けて
―新学習指導要領に基づく教育課程の編成例―
平成２２年　５月　新学習指導要領に基づく教育課程編成上の諸課題
平成２２年１０月　新高等学校学習指導要領と今後の商業教育
平成２３年　５月　キャリア教育の現状と課題について
平成２３年１０月　キャリア教育・商業教育の在り方について
―生徒のよりよい進路実現を目指して―
平成２４年　５月　新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進　そのⅠ
―魅力ある商業教育の発展を目指して―
平成２４年１０月　新高等学校学習指導要領の趣旨を生かした商業教育の推進　そのⅡ
―魅力ある商業教育の発展を目指して―　※　冊子なし
平成２５年　５月　思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進　そのⅠ
―商業教育の質の向上を目指して―
平成２５年１０月　思考力・判断力・表現力等を伸ばす商業教育の推進　そのⅡ
―商業教育の質の向上を目指して―
平成２６年　５月　全商本部提案要約集―平成16年度～平成25年度―
平成２６年１０月　次期学習指導要領改訂に向けて
―現行学習指導要領に基づく教育課程（商業）の実施状況と課題　そのⅠ―
平成２７年　５月　次期学習指導要領改訂に向けて
―現行学習指導要領に基づく教育課程（商業）の実施状況と課題　そのⅡ―
平成２７年１０月　学習指導要領改訂への提言（中間まとめ）
平成２８年　５月　学習指導要領改訂への提言
平成２８年１０月　地域創生に資する商業教育の在り方について
平成２９年　５月　地域創生に資する商業教育の在り方についてⅡ　―次世代の商業教育に向けて―
平成２９年１０月　グローバル化社会に対応した商業教育の在り方について―次世代の商業教育に向けて―
平成３０年　５月　グローバル化社会に対応した商業教育の在り方についてⅡ―次世代の商業教育に向けて―
平成３０年１０月　商業高校の現状とこれからの商業教育を担う人材育成
令和　元年　５月　新高等学校学習指導要領の実施に向けて―教科商業科に関する一問一答集―

商業教育対策委員会

令和元年度

1.委 員 長	閑　野　　泉	群馬県立高崎商業高等学校
2.副委員長	大　林　　誠	東京都立第一商業高等学校
3.委　　員	西　村　修　一	北海道札幌東商業高等学校
4.　　〃	武　石　　仁	茨城県立水戸商業高等学校
5.　　〃	山野井　義和	栃木県立鹿沼商工高等学校
6.　　〃	西　木　成　男	川越市立川越高等学校
7.　　〃	内　田　　靖	埼玉県立浦和商業高等学校
8.　　〃	渡　部　　清	千葉県立一宮商業高等学校
9.　　〃	布　施　彰　次	千葉県立君津商業高等学校
10.　　〃	武　藤　秀　樹	甲府市立甲府商業高等学校
11.　　〃	林　　修	東京都立芝商業高等学校
12.　　〃	昼　間　一　雄	東京都立葛飾商業高等学校
13.　　〃	高　山　昭　彦	東京都立大田桜台高等学校
14.　　〃	金　森　慶　一	神奈川県立平塚商業高等学校
15.　　〃	塩　原　正　美	神奈川県立商工高等学校

新高等学校学習指導要領の実施に向けて

― 新学習指導要領に向けた先進事例集 ―

発　　行　　令和元年９月25日

発行編集　　全国商業高等学校長協会

商業教育対策委員会

〒160-0015

東京都新宿区大京町26番地

ＴＥＬ　03-3357-7911

ＦＡＸ　03-3341-1039